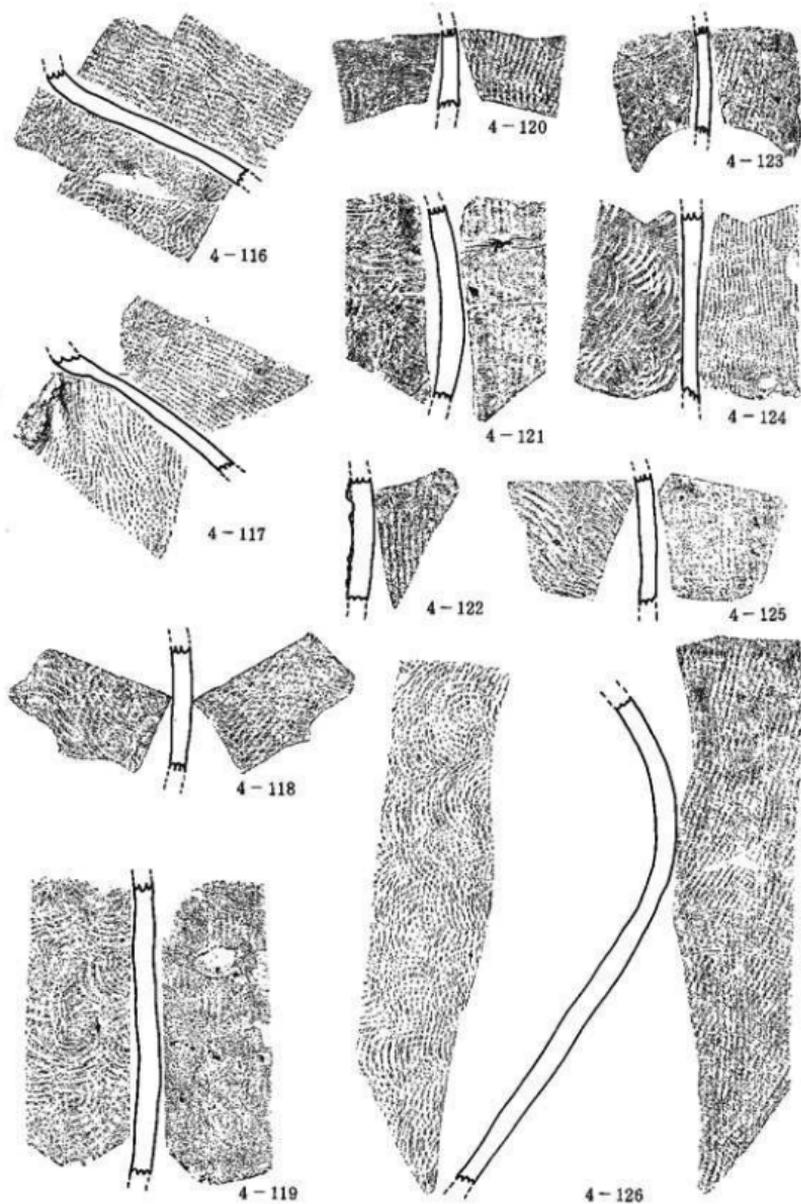
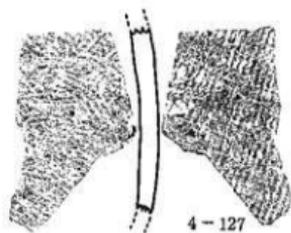


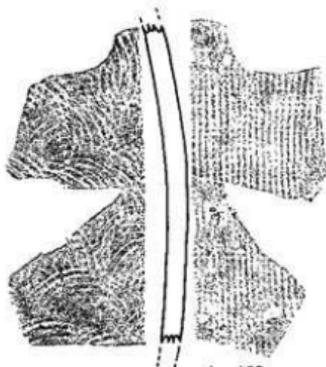
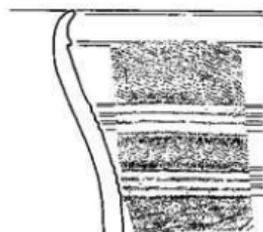
第11圖 4号窯跡出土遺物実測圖①(1/3)



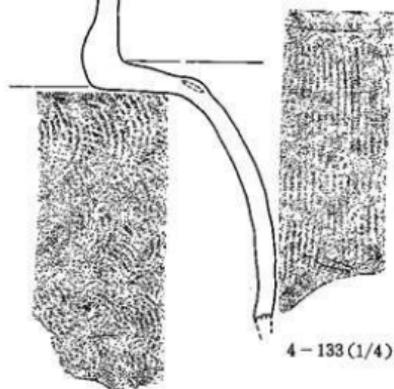
第12图 4号墓跡出土物実測图③ (1/3)



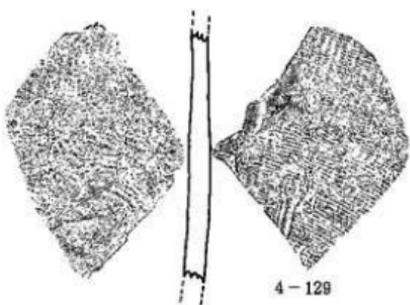
4-127



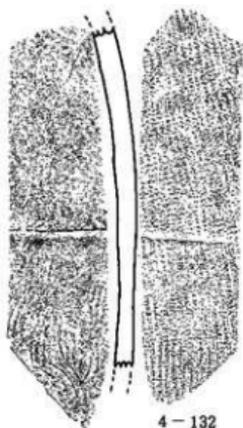
4-128



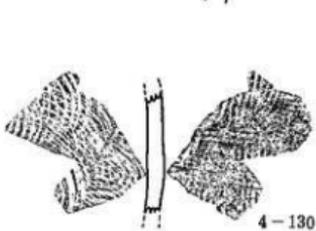
4-133(1/4)



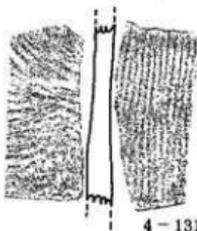
4-129



4-132

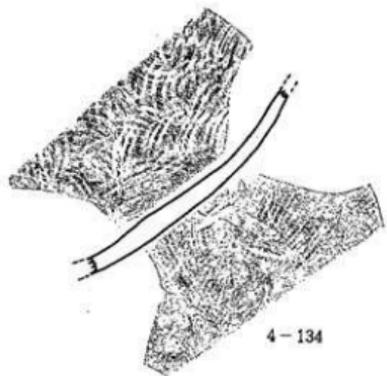


4-130

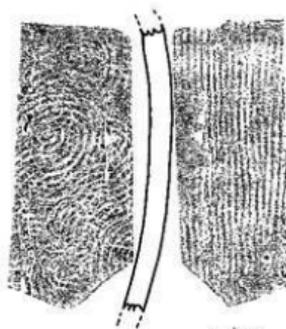


4-131

第13图 4号案跡出土遺物実測図⑨(1/3)



4-134



4-135



4-136



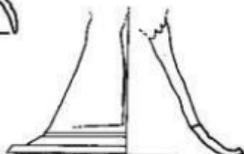
4-142



4-137



4-143



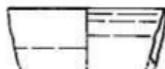
4-148



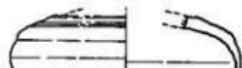
4-138



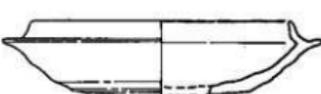
4-144



4-149



4-139



4-145



4-150



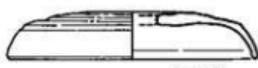
4-140



4-146



4-151

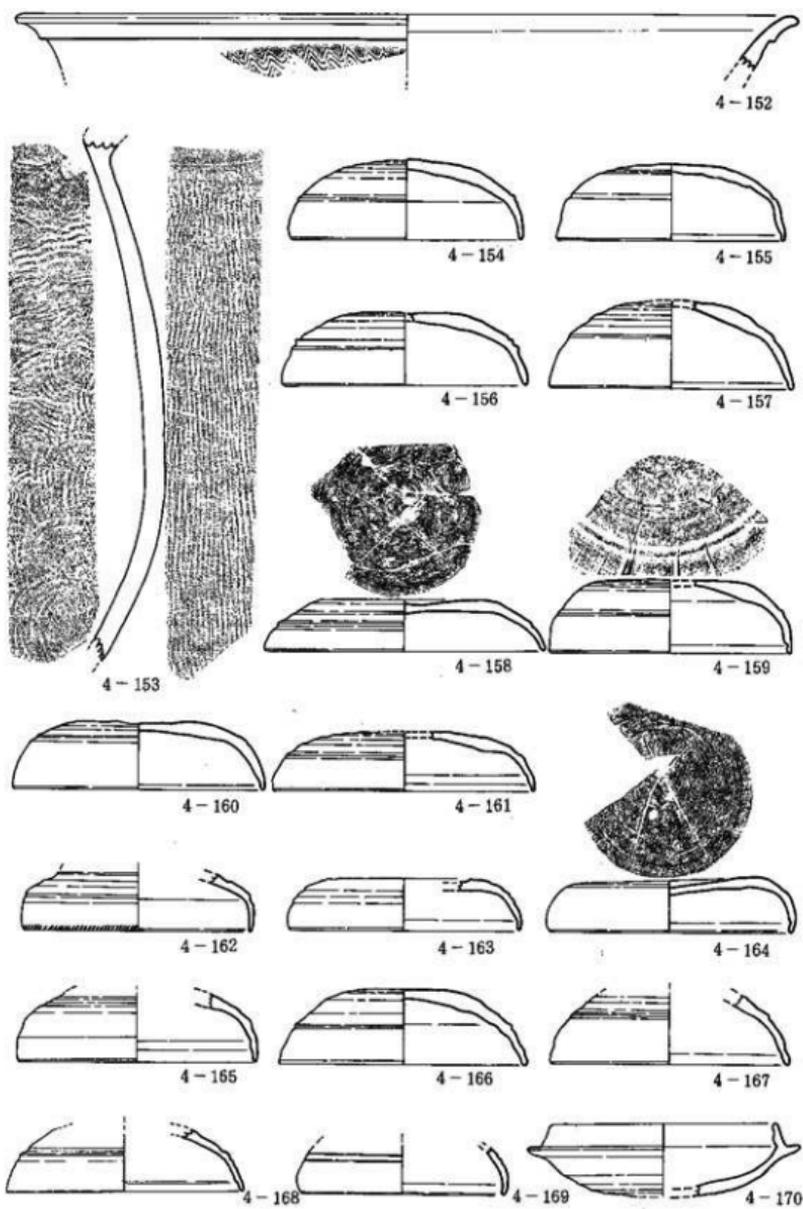


4-141

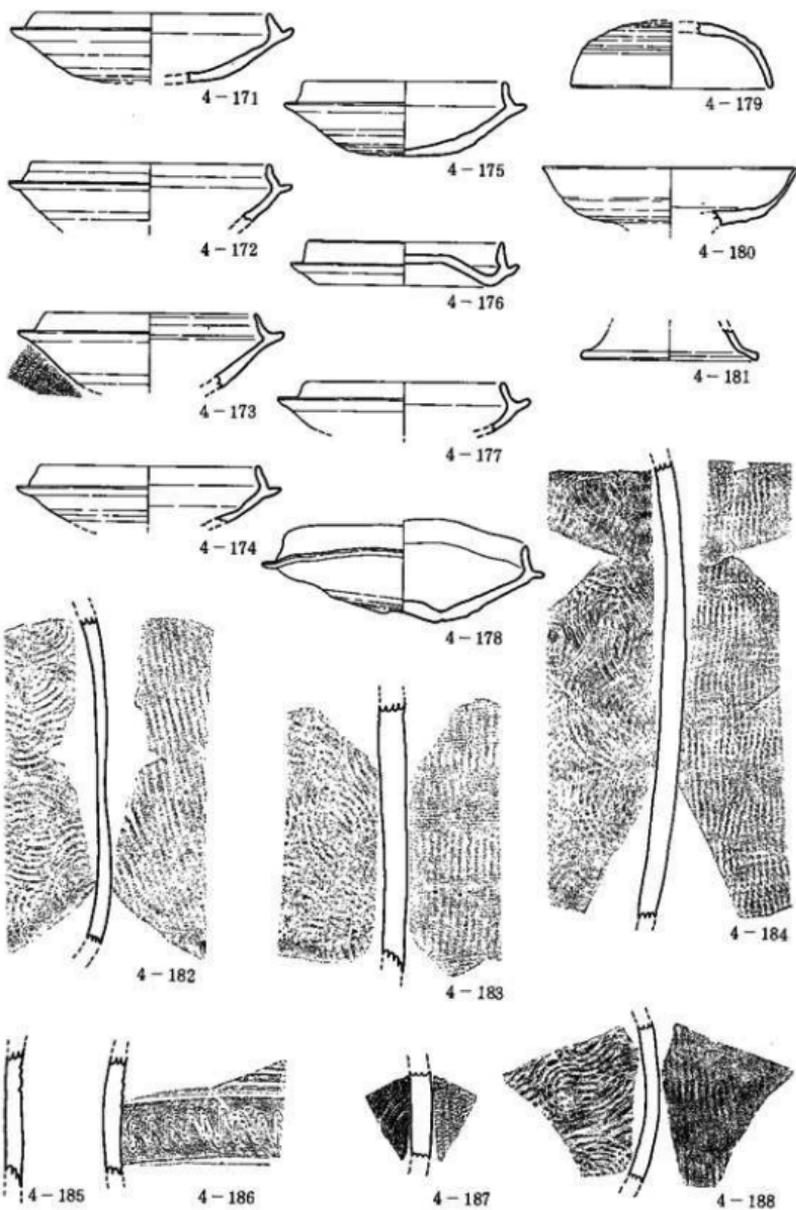


4-147

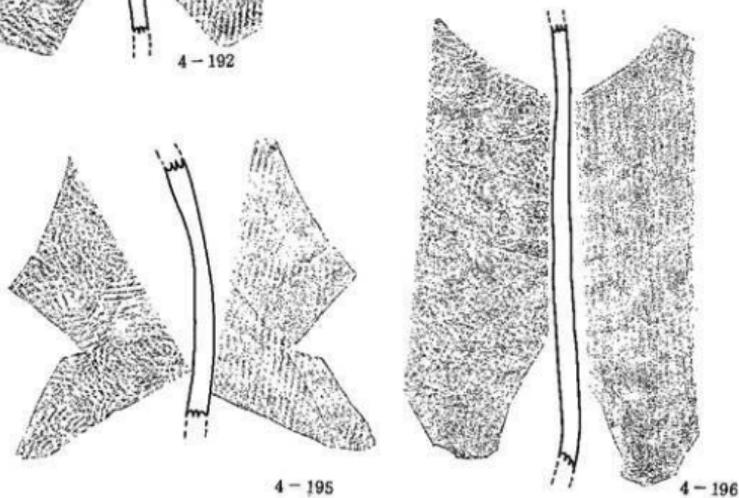
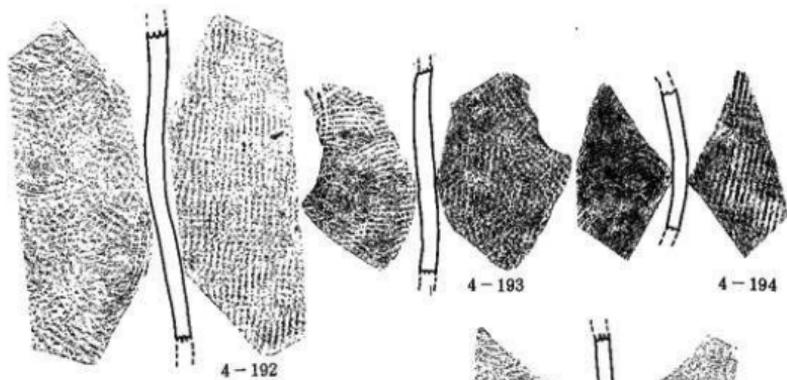
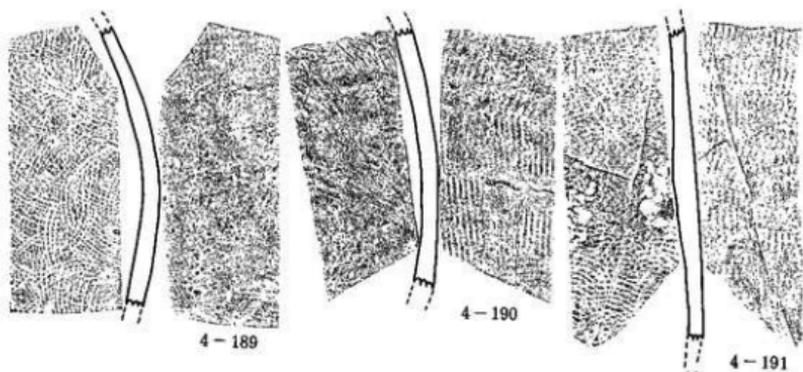
第14图 4号燕迹出土器物实测图①(1/3)



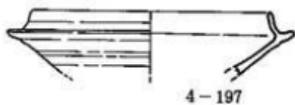
第15图 4号黑跡出土遺物実測図①(1/3)



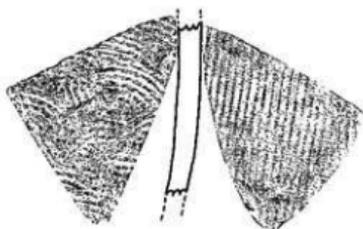
第16图 4号墓出土文物实测图②(1/3)



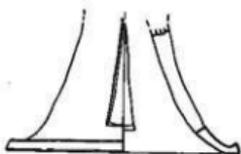
第17圖 4号窯跡出土遺物実測図(3)(1/3)



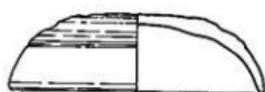
4-197



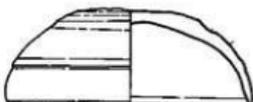
4-199



4-198



4-200



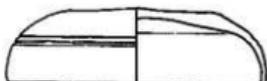
4-201



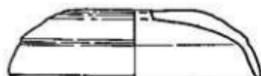
4-202



4-203



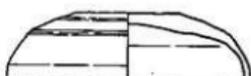
4-204



4-205



4-206



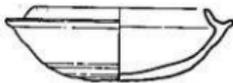
4-207



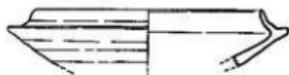
4-208



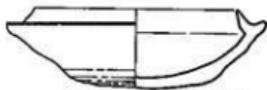
4-209



4-210



4-211



4-212



4-213

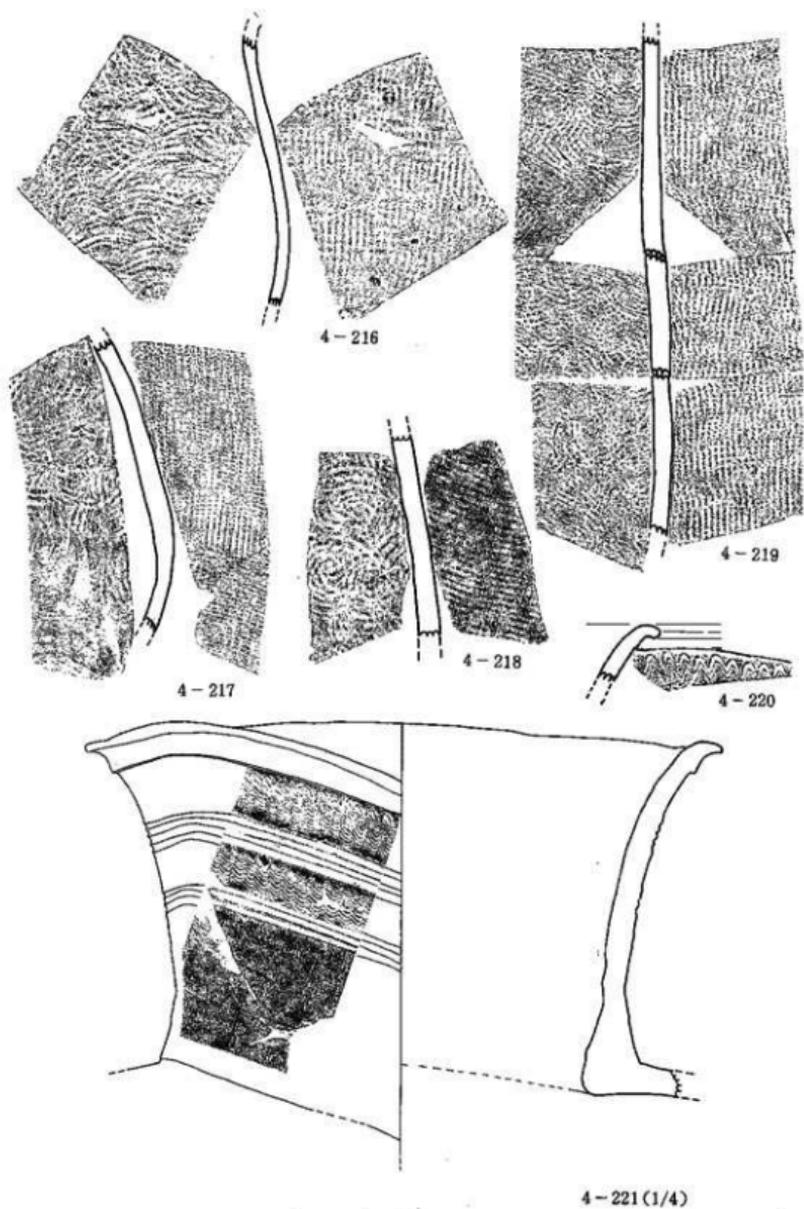


4-214

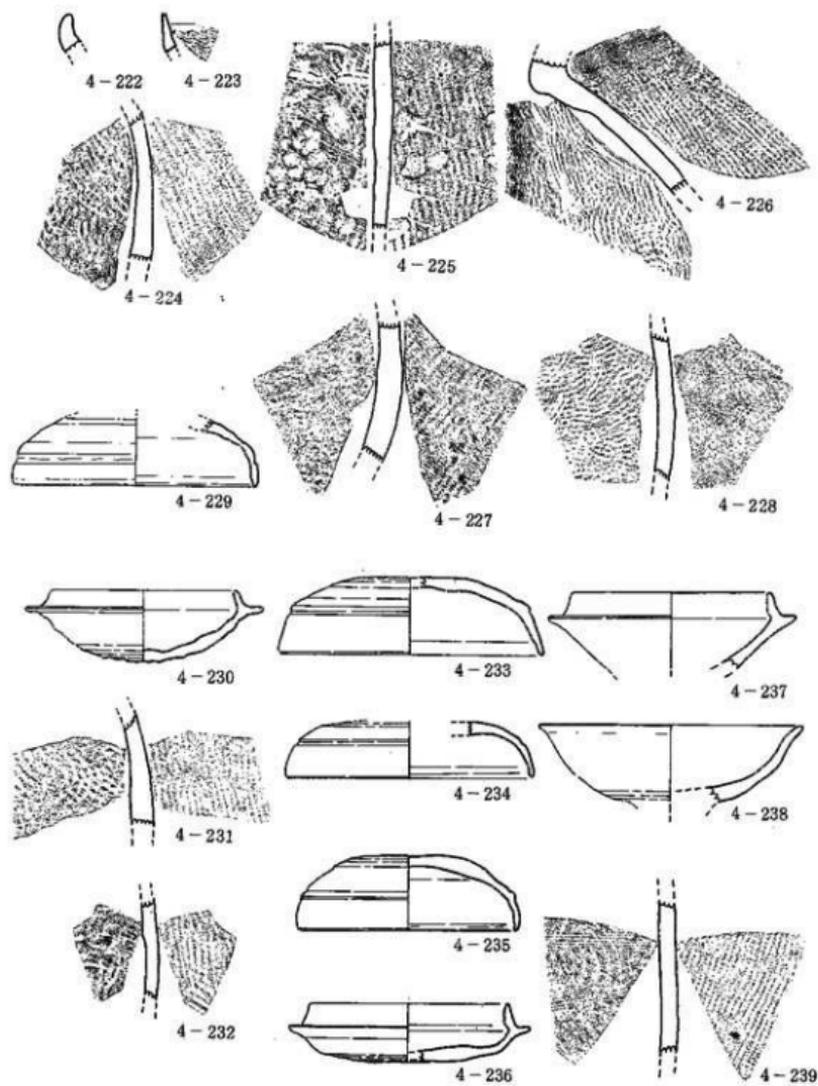


4-215

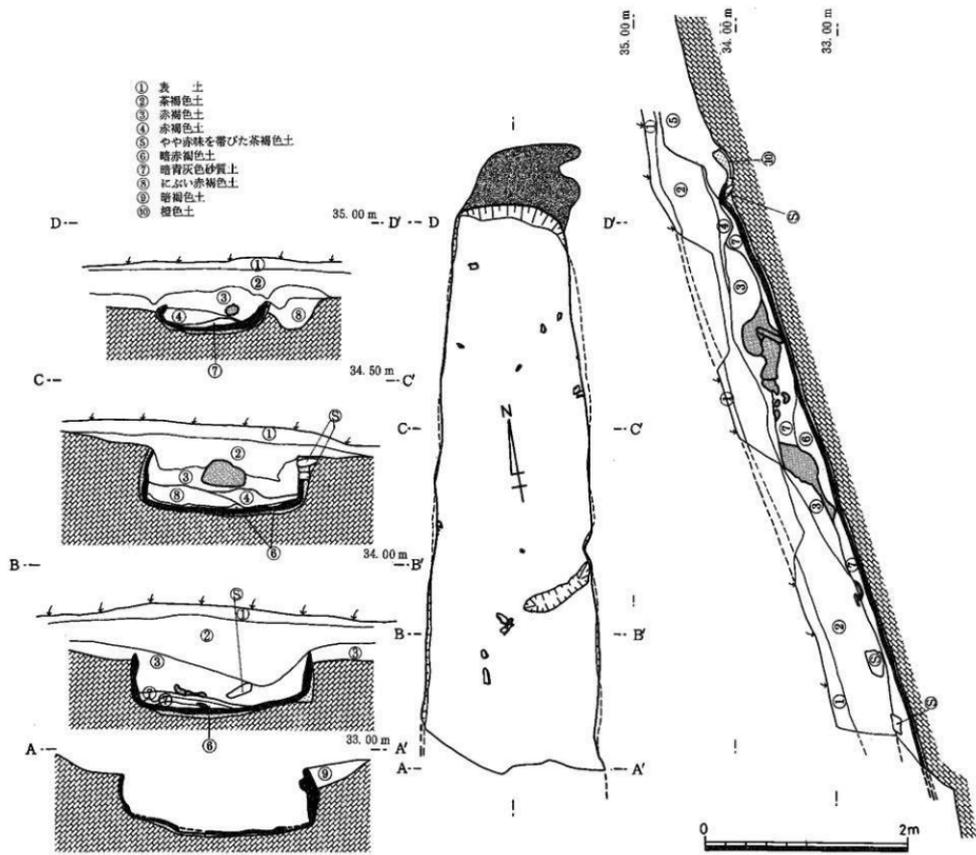
第18图 4号窯跡出土遺物実測图④(1/3)



第19图 4号窖址出土物实测图⑤(1/3)



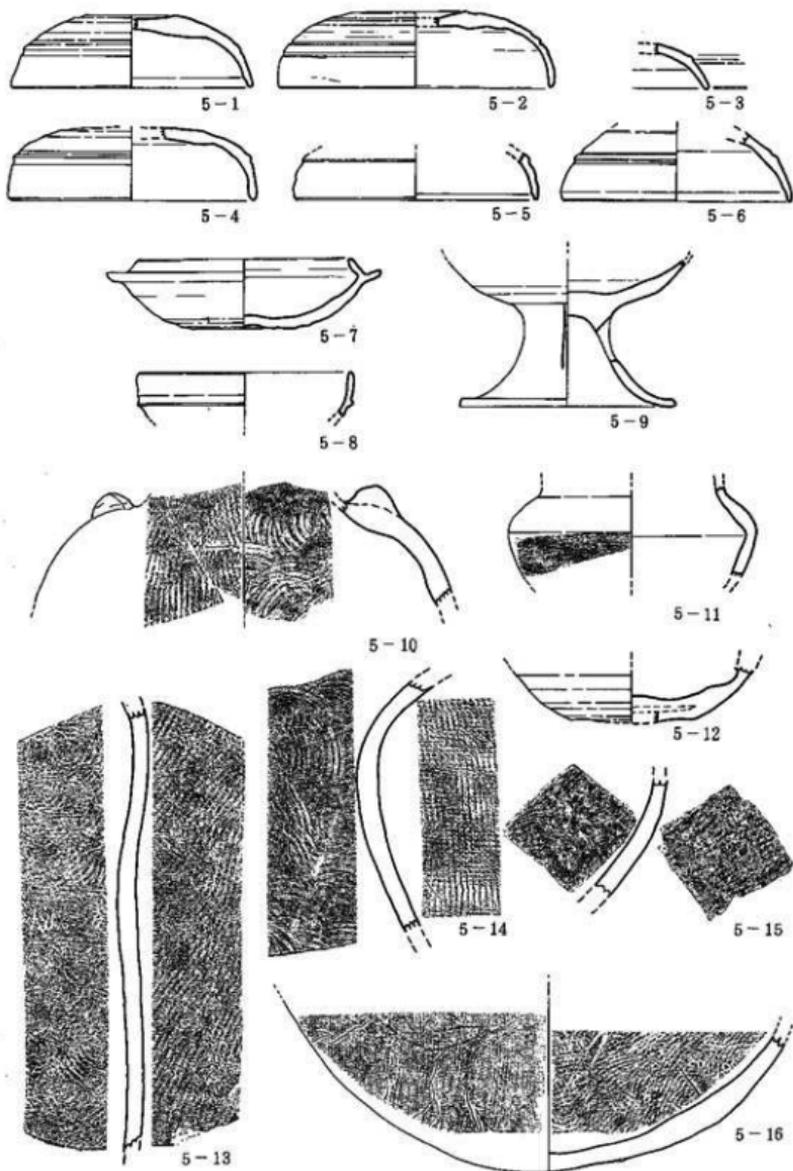
第20图 4号燕跡出土遺物実測図⑩(1/3)



第21図 5号竪穴実測図

であった。更に、下の床面直下の熱変化層（極暗赤褐色土）より出土した甕の胴部片が1点であった。そして、これらの遺物は全体的にはほぼ同様な特徴を持っていると思われるので、ここではまとめてその特徴の概要を紹介することにする（第5～20図）。

環蓋は天井部外面に篋削りを施すが、天井部が高くかつ丸味を帯びる（4-3）、天井部が低くかつ平坦である（4-8）、器内がほぼ均一である（4-72）、器内が天井部と口縁部の変換点付近でやや厚くなる（4-18）、肩部に稜を持つ（4-78）、稜が退化して殆どない（4-13）、口縁部内面に沈線を周回させたり段状を呈する（4-136）、口縁部が単純である（4-200）、等の特徴を持っていた。坏身も底部外面に篋削りを施すが、底部が球形で深い（4-92）、平坦で浅い（4-209）、器内がほぼ均一である（4-93）、器内が天井部と口縁部の変換点付近でやや厚くなる（4-212）、口縁部がやや外反しながら直立し単純である（4-144）、口縁部がやや短く直線的に立ち上がり単純である（4-95）、等の特徴を持っていた。そして、天井部が高くかつ丸味を帯び、器内が天井部と口縁部の変換点付近でやや厚くなり、肩部に稜を持ち、口縁部内面に沈線を周回させる特徴を有する環蓋（4-201）と平坦で浅く、器内が底部と口縁部の変換点付近でやや厚くなり、口縁部がやや外反しながら直立し単純である特徴を持つ坏身（4-212）はセットで出土した。よって、これらの特徴を持つ環蓋と坏身は確実にセットをなすことが言えるはずである。高坏は有蓋（4-36）と無蓋（4-180）とがある。前者は坏身と同様な特徴を有していた。後者は坏部と口縁部の境付近に稜を持つもの（4-33）とそれが無いもの（4-238）とがある。脚部は大きく広がり端部外面に平坦面を持つが、三角形の三方あるいは二方透かしの下側に一条の沈線を周回させるもの（4-148）とそれが無いもの（4-107）とがある。（4-43）は、やや外方に緩やかに立ち上がり端部で屈曲し外面に平坦面を持つ甕の口縁部である。甕の蓋は4点あるが、口径が10～11cm、器高3.7～4cmを計り、稜はやや不明瞭で口縁部は単純である。直口甕は2点あるが、外方に直線的に立ち上がる口縁部のみである。横瓶は4点あるが、胴部の破片である。（4-45）は提瓶の把手と思われるが、まだ退化していないものである。（4-67）は陶棺の蓋と思われる口縁部である。窯道具（焼き台）は通常の甕や壺の破片を利用したものであり、割れ目に二次焼成を受けている。甕の口縁部は6点あるが、頸部から緩やかに外方に立ち上がり口縁端部を丸く仕上げその下方に稜を持ち（4-221）、3条を一単位とする沈線を周回させその上下に波状文を施している。他は胴部の破片である。また（4-239）は熱変化層より出土した甕であるが、外面に格子状のタキキを、内面に当て具痕を半すり消し状態にした後カキメを、施すものである。



第22图 5号窯跡出土遺物実測图(1/3)

(2) 5号窯跡

ア、現 状

本窯跡も4号窯跡と同じ斜面に位置しており、本窯跡も調査以前から確認されていたが、天井とこれより前面に本来検出されるべき焚き口・燃燒部の窯体は後世の削平により消失していた。また4号窯跡と比べて窯体の厚みはそれほどなく、後述するように一回の窯入れ・焼成・窯出しの後に何らかの理由で廃棄されたと思われる。

イ、窯構造と層位

本窯跡も半地下式無段窯窯と思われるが、主軸の方向は4号窯跡と少しずれてN-9°37'28"-Eであった。規模は残存長6.1m、床面最大幅1.8m、窯体の厚さ4~10cm、床面傾斜角度は18.5~20.5°を計り、焼成部の一部から煙道部にかけて残存していた。また天井はすべて崩落しており、削平もひどく殆ど残ってはいなかった。床面を見ると4号窯跡と大きく異なり、厚み3~6cmを計る程非常に薄く全体的に一重構造であった。

さて本窯跡の主軸延長線上にも集中的に焼土が認められ、4号窯跡と同様な排煙口があったと思われる(第21図)。

焼成部

主軸残存長は5.9m、床面幅は1.8m、床面の厚さは3~6cm、床面傾斜角度は18.5~20.5°、側壁の厚さは4~10cmを計り、煙道部に向かって少しずつ狭まっていく細長い平面形を呈していた。床面は前述のように非常に薄く、窯入れ・焼成は一回であったと思われる。床面上には、窯体ブロックを多量に含む暗青灰色砂層と暗赤褐色土が4~16cmの厚さで堆積していた。天井は前述のように崩落していたが、所々に天井の塊が床面上まで落ち込んでいたのが確認された。

煙道部

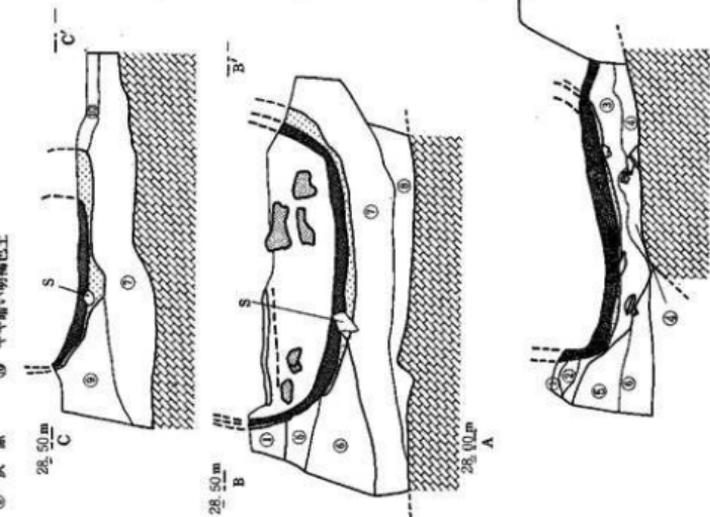
長さ14cm、床面幅1.1m、残存高10cmを計るが、床面より上は削平されており詳細は不明であった。ただし床面は厚さ6cm程の一重であり非常に薄くかつ脆く、また焼成の影響を受け赤く変色していた。

ウ、出土遺物

本窯跡から出土した遺物は全て破片で、蓋坯が8片、高坯と甕が各3片、壺と横瓶が各2片、提瓶が1片、の僅か計19片を数え、4号窯跡に比べ非常に少なかった。このうち実測できたのは、坯蓋が6点、高坯・横瓶・甕が各2点、坯身・提瓶・短頸壺・壺が各1点、の計16点であった(第22図)。

坯蓋(5-1~6)は、天井部が低くかつ平坦である、器肉が天井部と口縁部の変換点付

- ① 淡赤褐色土
- ② 暗褐色土
- ③ 赤褐色土
- ④ 茶褐色土
- ⑤ 灰 质
- ⑥ 灰 质
- ⑦ やや赤味のある暗褐色土
- ⑧ 赤褐色粘質土
- ⑨ 暗赤褐色土
- ⑩ やや強い暗褐色土
- ⑪ 暗赤褐色粘土



第23図 6号遺跡実測図

近でやや厚くなる、肩部に稜を持つ、稜が退化して殆どない、口縁部内面に沈線を周回させたり段状を呈する、口縁部が単純である、の特徴をもつ。坏身(5-7)は、平坦で浅い、器肉が均一である、口縁がやや短く直線的に立ち上がり単純である、の特徴をもつ。高坏は、口縁部との境付近に稜を持つ坏部(5-8)と大きく広がり端部外面に平坦面を持ち、沈線がない脚部(5-9)である。蓋坏・高坏のこれらの特徴は、4号窯跡出土のそれとほぼ同じである。(5-10)は提瓶の肩部で、粘土紐を貼り付けた退化した把手を付けている。(5-11)は短頸壺の肩部で、外面にカキメを施す。(5-12)は壺の底部で、外面に磨削りを施し底を平坦に仕上げている。(5-13, 14)は甕の胴部で、外面には格子状のタタキを、内面には当て具痕を施す。(5-15, 16)は横瓶と思われる底部片で、外面にはタタキの後に縦方向のカキメを、内面には当て具痕を施す。

(3) 8号窯跡

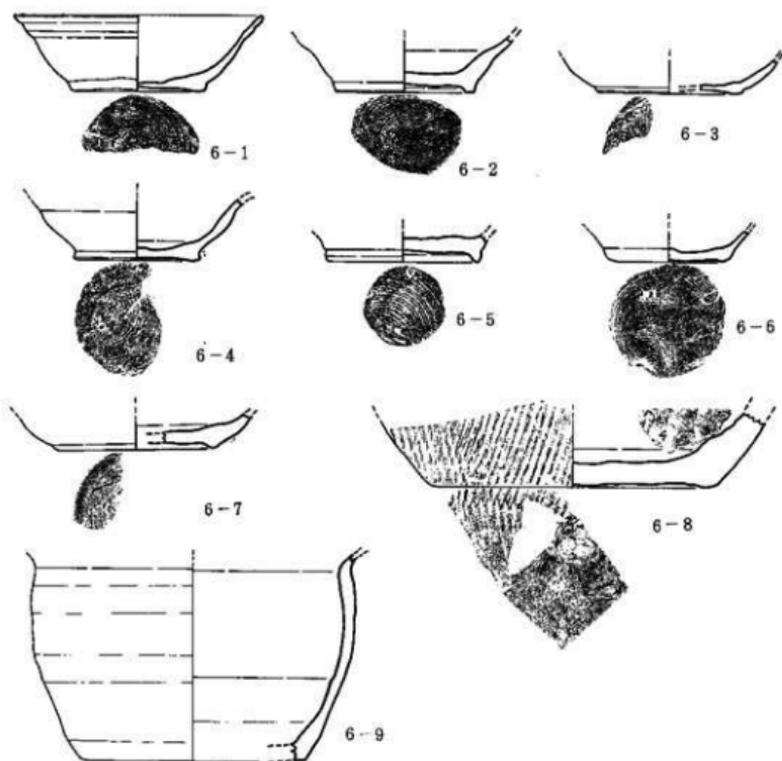
ア、現 状

本窯跡は、1号土壇前面の“灰原層”上に窯体上半部分の天井部、床面がほぼ完全な状態で検出された。つまり後で詳述する灰原調査区のB・C-5~9区で、北から南へ急速に落ち込む形で検出された“灰原層”の東端に位置を占める。天井部は崩落して残存長は短い、4・5号窯跡に比して床面傾斜角度は急である。調査の過程で、湧水・降雨のために十分な調査をおこなえなかった。

イ、窯構造と層位

4・5号窯跡の発見に伴い、調査区を再編成したことは既に述べた。特に中央の排水路より北側に設定したB・C-5~9区で概ね共通した特徴が認められた。それは表土の直下に一律に7~15cmの厚みで遺物を伴う黒色炭化物層(後述する“2次堆積層内の灰原層”)の堆積があること、さらには、その下に周囲の崖段面の削平により客土されたと思われる黄褐色礫混合土層(後述する“攪乱層”)が認められる点である。これらの調査区で北から南へ急速に落ち込む形で検出された“灰原層”は既述した二つの層よりさらに何層かの堆積土層を経て認められるものである。

本窯跡はこれらの上層堆積状況を示す灰原調査区の東端部(C-5区)に位置する。検出時で既に天井は崩落していた。その北端部分は現地表面のレベルで検出され、そこから傾斜角度 $24\sim 26.5^\circ$ をもって南へ下降する。規模は床面残存長2.75m、床面最大幅1.5mを計る。床面幅は南端部で1.5m、北端部で1mを計り平面形は北に向かうにつれて徐々に狭まっていく。焚き口・燃焼部は表土より1.5m掘り下げたところで水没して、検出できなかった。床面の南端で直径1.2m程の半円状にずり落ちた筒所が認められたこと、さらに



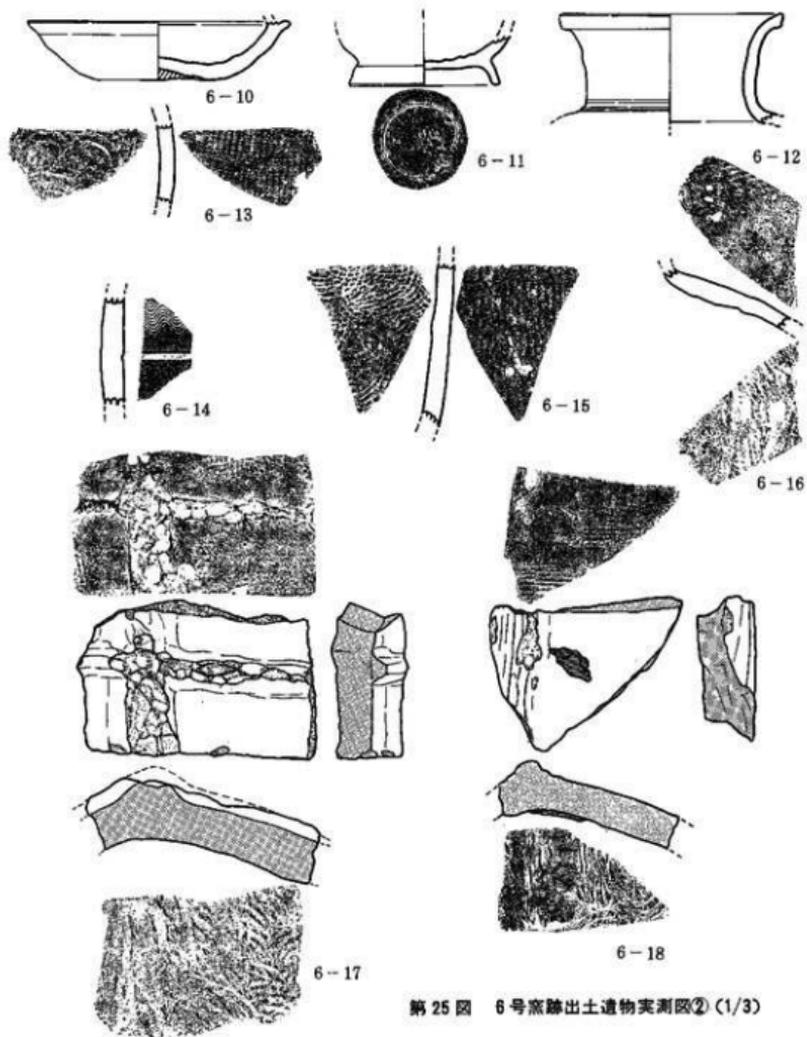
第24図 6号窯跡出土遺物実測図①(1/3)

水没箇所でも窯体片が確認されたことから、床面はさらに続いていたと判断した。

主軸縦断面を観察すると、残存する床面の南端より北へ60cm行った地点で床面傾斜角度の変換が見られる。この部分の床面傾斜角度が 19° であるのに対し、この点をすぎると $24\sim 26.5^\circ$ となる。このことから、これが燃焼部と焼成部を画する傾斜変換点と考えることができよう(第23図)。

天井部

天井部は、還元状態を示す濃青灰色を呈する部分と暗赤褐色の部分とに分けられた。南側半分では崩落時そのままの状態で見出されたが、北側では崩落時に側壁が倒壊して



第25図 6号窯跡出土遺物実測図②(1/3)

転落したように天井部の上下が逆転していた。

床面の下層

床面の直下では熱変化を受けた層（暗赤褐色土）が最大7cmの厚みで窯体床面を包むよ

うにU字状に、またその下側には後述する“灰原より下の堆積土層”が認められた。つまり土層の観察によれば、地山の上に“灰原より下の堆積土層（明褐色土）”・“灰原層”が順次堆積した後、その東端に本窯跡は構築された。そしてその際、“灰原層”の一部を削平していることが分かった。

焼成部

主軸長2 m、床面最大幅1.5 m、床面傾斜角度24～26.5°を計る。床面は厚み7～10 cmで一重であった。全体的に若干の側壁の立ち上がりを見ることが出来る。

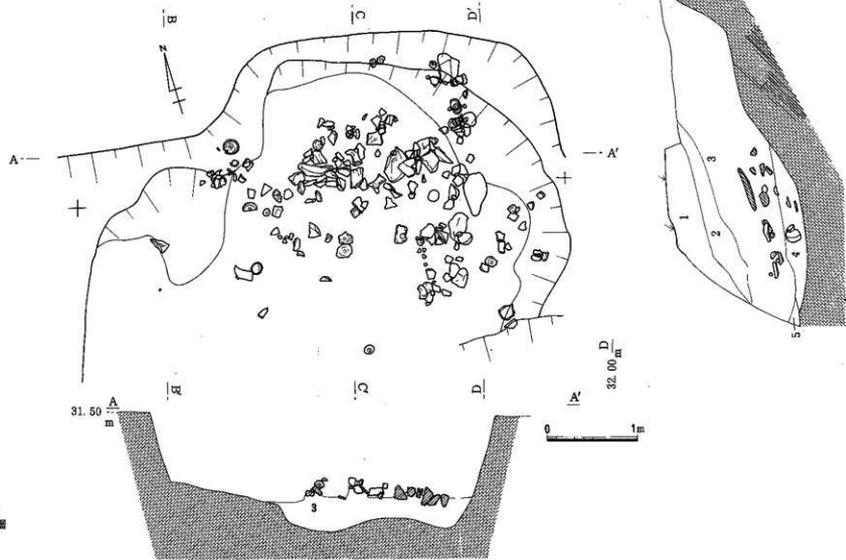
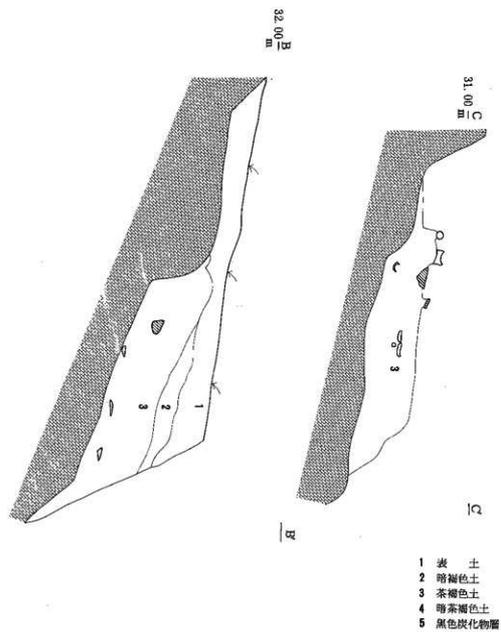
煙道部

本窯跡は残存する床面の北端部で、南側に比してその床面幅を狭めていた。しかし第23図に示すように、この部分では窯体床面はその傾斜を若干失って、これをU字状に包む熱変化を受けた暗赤褐色土、さらにその下の地山とが同じレベルで観察できた。このことは、北側の崖断面の削平に伴って本窯跡の煙道部分も消失したのではないかと考えることもできるが、詳細は不明である。

ウ、出土遺物

本窯跡から出土した遺物は破片で、環身が1片、糸切り底の平底環が5片、糸切り底の高台付環が4片、甕が8片、壺と陶棺が各7片、鍋が1片、の計43片を数えた。このうち実測できたのは、糸切り底の平底環・糸切り底の高台付環・甕が各4点、壺と陶棺が各2点、環身と鍋が各1点、の計18点であった。そして、密着で非二次の遺物は（6-1～4、6、14）の計6点、密着で二次の遺物は（6-9～13、15、16）の計7点で、浮きで非二次の遺物は（6-5、7）の2点、浮きで二次の遺物は（6-8、17、18）の3点であった（第24・25図）。しかしこのうち第25図に示す遺物は、それらの出土状態や下に述べる諸特徴から本窯跡本来の遺物ではないと判断した。

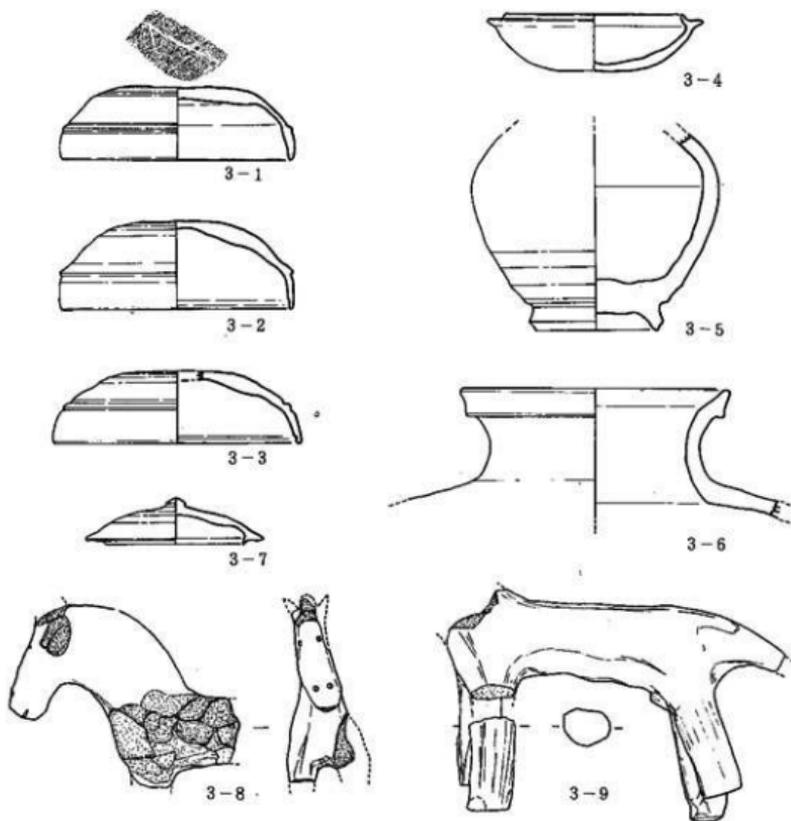
環身（6-10）は立ち上がりが欠損しているが、4・5号窯跡出土のそれと同じ特徴を持つ。回転糸切り底の平底環は、（6-1）が底部から口縁部まで残存しており、口径13 cm、器高4 cmを計る。底部はやや厚みのある台状を呈し、体部に若干の丸味を持ち、口縁端部がやや外反気味に立ち上がる。体部内外面に回転ナデを施す。（6-3、4）は口縁部を欠損しているが、（6-1）と形態的・技法的に同じ特徴を持つ。（6-6）は底部から直線的に立ち上がりと思われる回転糸切り底の平底環である。回転糸切り底の高台付環は、底部外周縁に断面三角形の低い高台を持ち若干の丸味を持ちながら立ち上がるもの（6-2、5、7）と外方に張り出す高くがっしりとした高台を底部に持ち内弯しながら立ち上がるもの（6-11）とに分かれる。（6-8）は外面に幅が広く粗い平行タタキを施す壺の



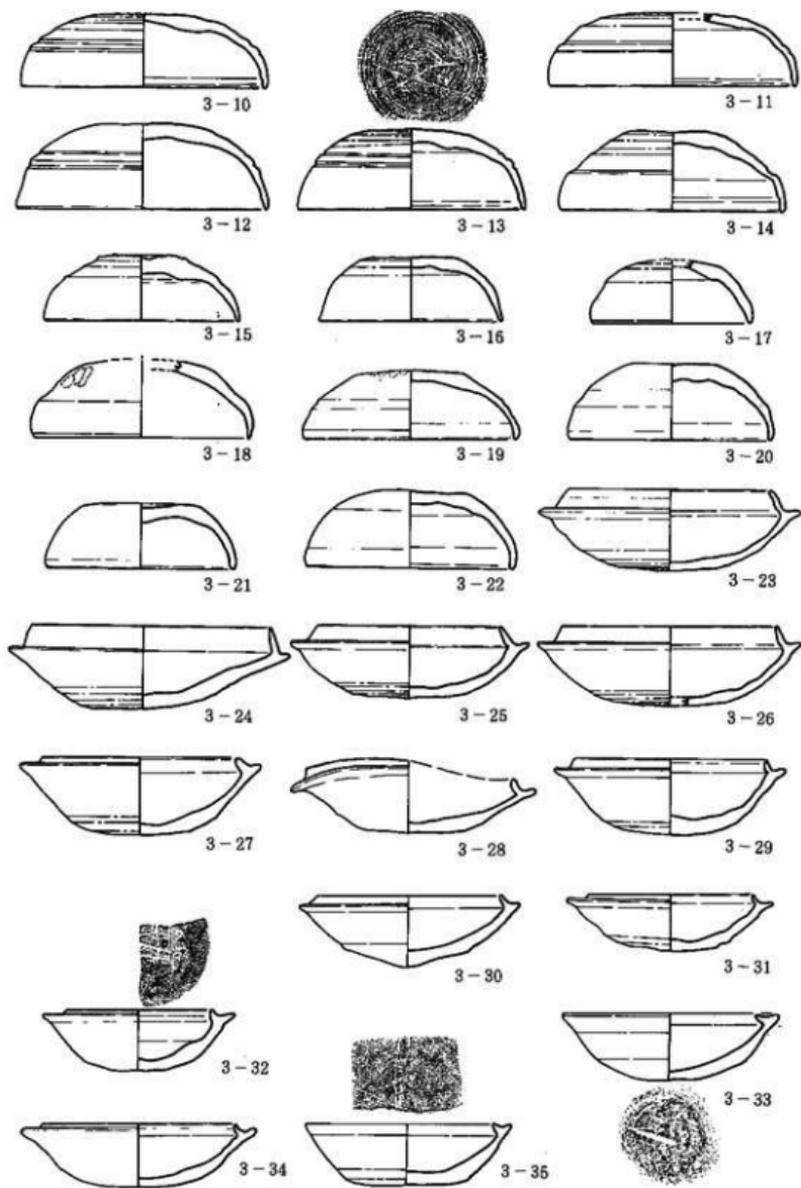
- 1 表土
- 2 暗褐色土
- 3 茶褐色土
- 4 暗茶褐色土
- 5 黑色炭化物層

第26图 3号土壘实测图

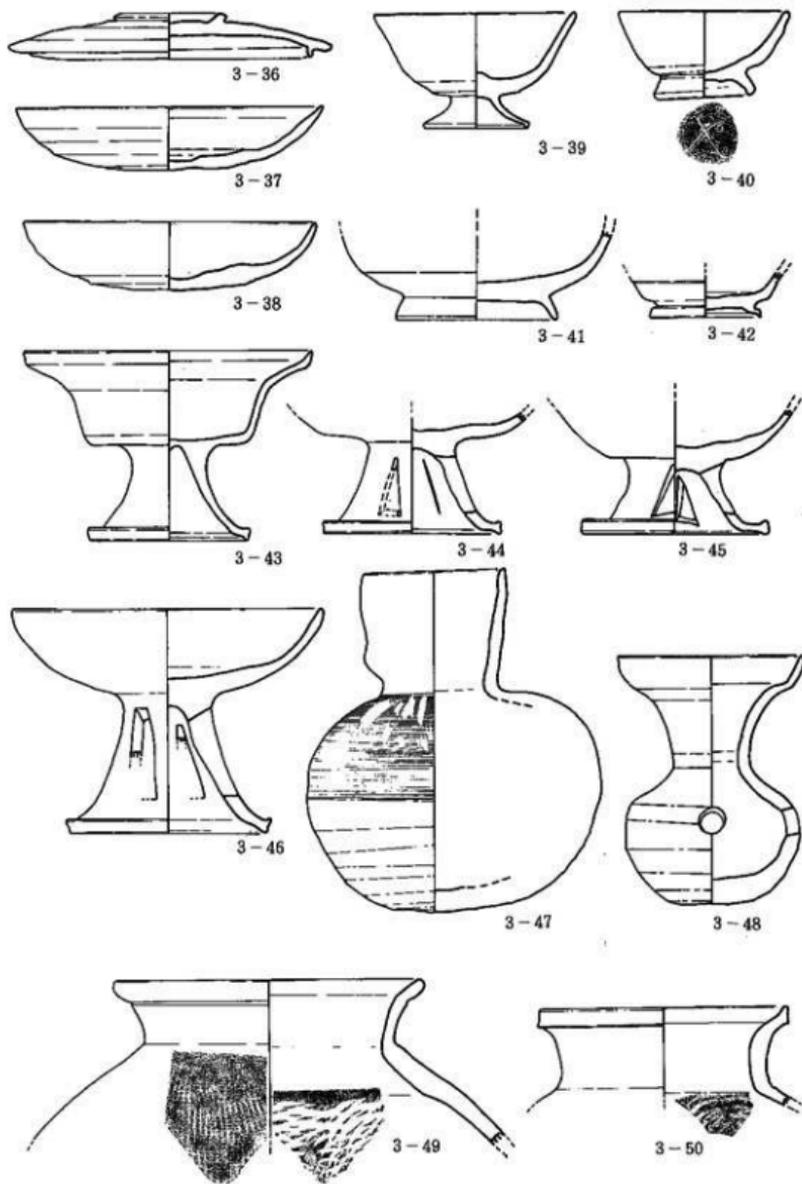
底部で、平底から外方に立ち上がる。(6-12)は、直立気味に立ち上がる頸部に外反する口縁部を持つ壺である。内外面に回転ナデを施す。(6-14)は壺の頸部で、一条の沈線の上に丁寧な波状文を施す。(6-13, 15, 16)は壺の肩・胴部で、外面に格子状のタタキが、内面に当て具痕が認められる。(6-17, 18)は陶棺の蓋で、軒の部分である。突帯状の稜を有するが二次焼成によりその一部が剝離している。外面に平行タタキが認められる。これ以外の陶棺片も全て二次焼成を受けており、流出した熔塊に熔着したものが多い。片面に砂粒が付着し、さらに器面が剝離しており、窯道具(焼き台)として用いられていた可能性が強い。鍋(6-9)は頸部から底部にかけて残存し、底部は平底と思われる。外面は



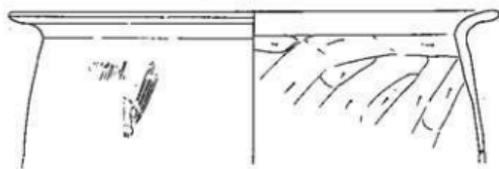
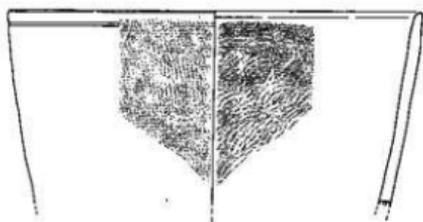
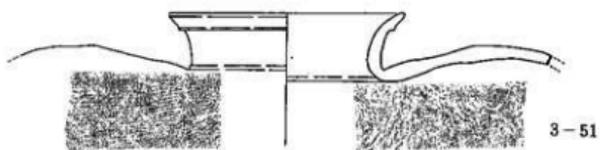
第27図 3号土壙出土遺物実測図①(1/3)



第28图 3号土坑出土文物实例图②(1/3)



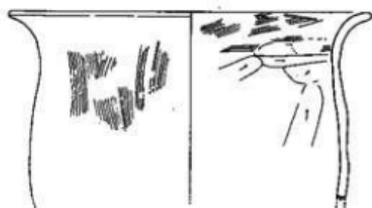
第29图 3号土罐遗物实例图③(1/3)



3-53



3-56



3-54



3-57



3-55

第30图 3号土壙出土物实测图④(1/5)

掘削りやナデが、内面はナデが施されている。

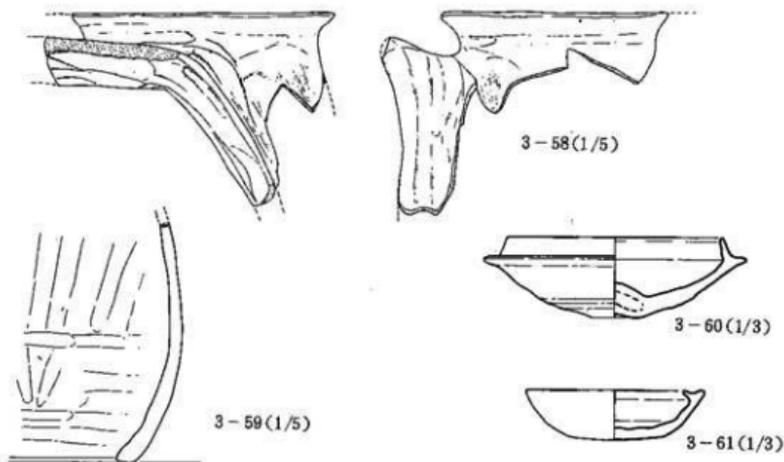
(4) 3号土壙

ア、現 状

既述のように、旧水田平坦面のすぐ北側の崖断面に多数の土器片（3-1, 2, 3）・窯体片・甕片・石を伴う黒色炭化物層の堆積が3ヶ所認められ、これを東から1・2・3号窯跡（土壙）と呼称したが、1・2号窯跡（土壙）はその後の調査及び検討により“灰原層”の一部であることが判明した。ここで紹介しようとする本土壙はこれらの西端に位置していたが、本土壙で認められた黒色炭化物層は、土壙内の東端部分に限られ長さ2.2m、厚み10～20cmを計るもので、他の土壙に比べて狭い範囲に限られていた。

イ、遺 構

調査の結果、本土壙は南北3.65m、東西7.2m、深さ1.5mの略方形を呈しており、土壙内には計5層の堆積層が認められた（第26図）。そして後で紹介するように各層毎に種々の遺物が出土したことから、生活関連の遺構と思われた。しかし土層堆積状況図を注意深く見ると、第1層（表土）・第2層（暗褐色土）・第3層（茶褐色土）が北から南の方向へ緩やかに堆積しているのに対して、第4層（暗茶褐色土）と第5層（黒色炭化物層）はその上面が削平されたような堆積状況を呈していた。また、地山面上で柱穴等のピット



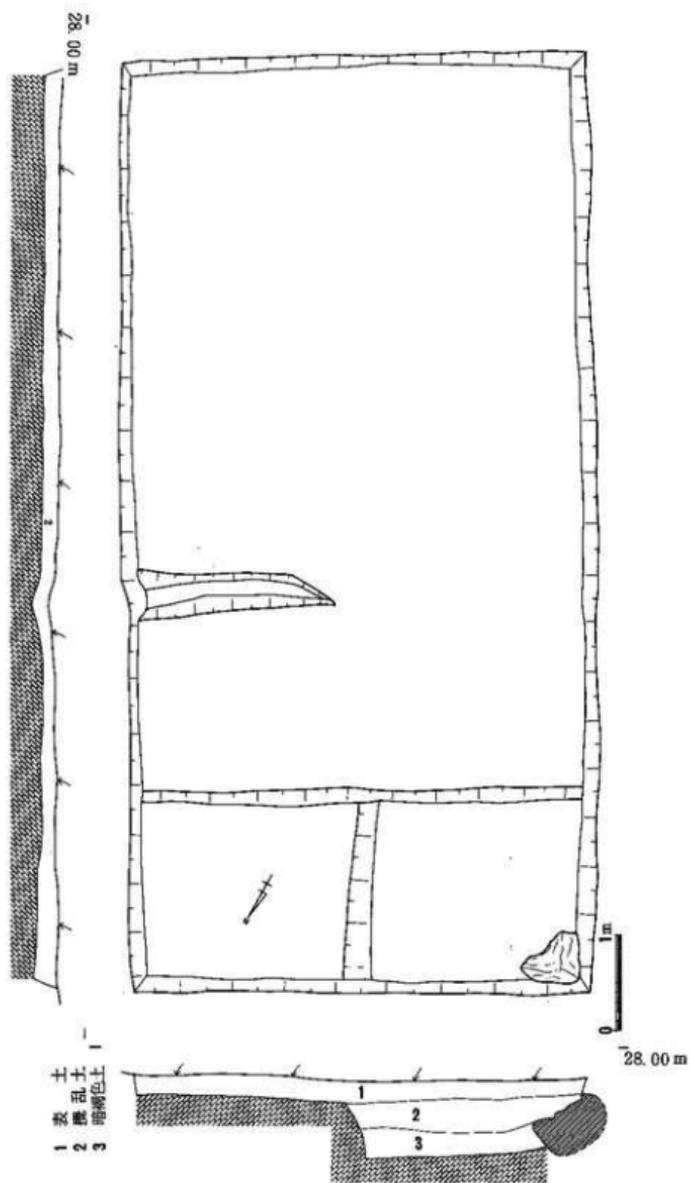
第31図 3号土壙出土遺物実測図⑤

は全く検出できなかったし、遺物も地山面から浮いた状態で出土した。更に、本土壙は既述の5号窟跡の中軸延長線上の西側に位置する。これらのことから判然とはしないが、本土壙は住居跡等の生活関連の遺構ではなく、4・5号窟跡に関係する粘土採掘場とも考えられる。そして後世の削平などにより数層に亘って、埋められ若しくは堆積したと思われる。

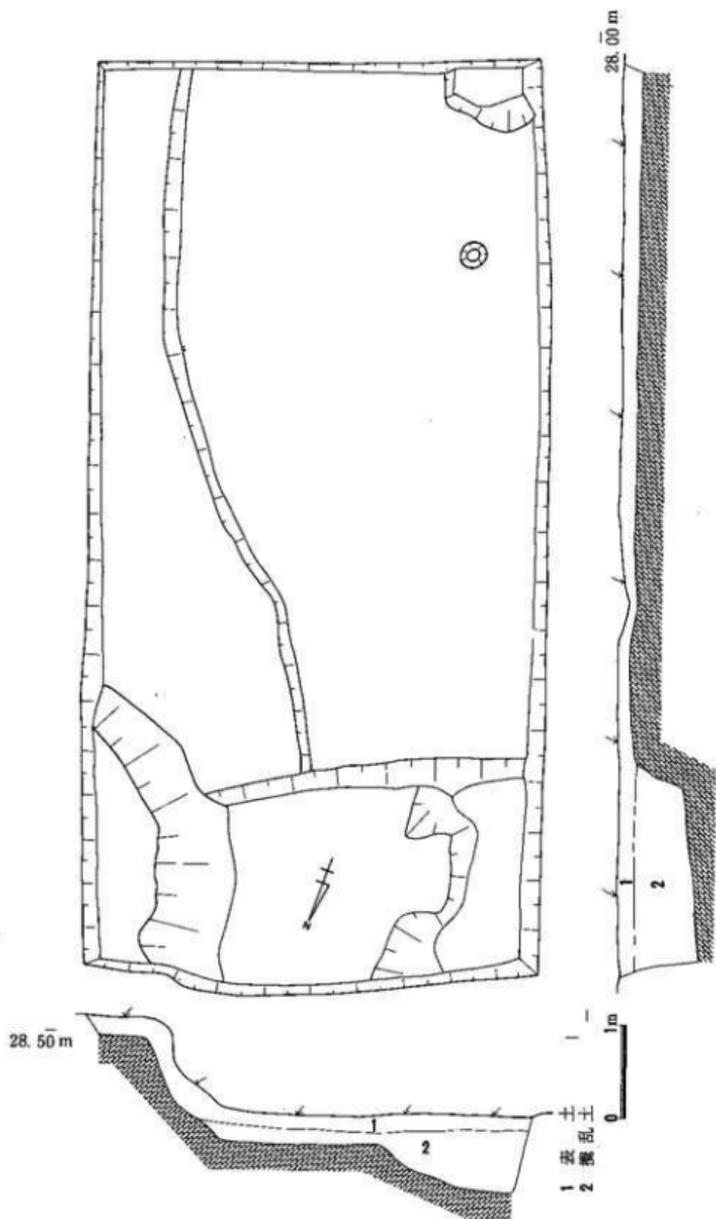
ウ、出土遺物

本土壙から出土した遺物のうち実測できたのは計61点を数え、その内訳は須恵器の坏蓋と坏身が各16点、輪状や擬宝珠のつまみが付き高さの低いかえりのある蓋が計2点、高坏・甕が各4点、高台付きの坏が3点、低脚坏が2点、皿・台付壺・長頸壺・甕・甔が各1点、土師器の甕が3点、甗が2点、土製支脚が2点、赤色塗彩の土馬が2点、であった(第27～31図)。この他に窯体片も数片伴出している。そして、崖面での表採が(3-1, 2, 3)の3点、第1層からの出土が(3-4, 5, 6)の計3点、第2層からの出土が(3-7, 8, 9)の計3点、第3層からの出土が(3-10～46, 48～59)の計49点、第4層からの出土が(3-47)の1点であった。このように土壙内の堆積土の各層から多種多様の遺物が出土した。

特に、第3層から多量に出土した遺物には次のような特徴が認められた。第1に、土師器の甗(3-58, 59)・土師器の甕(3-53～55)・土製支脚(3-56, 57)・須恵器の甔(3-52)といった、住居跡等の生活関連の遺跡から出土する遺物が多いことである。第2に、須恵器の坏蓋・坏身・高坏等の特徴を検討すると、4・5号窟跡と同じ特徴をもつもの(3-10～14, 23～26, 44～46)とそうでないもの(3-15～22, 27～35, 43)とに別れることである。後者は、坏蓋が口縁部は単純で縁は全くなく天井部に1条か2条の筋削りを施す口径8.2～11.2cm、器高3.4～4.1cmを計る小形のもの、坏身が立ち上がりと蓋受け部の高さがほぼ同じで底部に1条か2条の筋削りを施すか全くそれが無い口径7.8～10.8cm、器高3.1～4.0cmを計る小形のもの、高坏が透しのない脚部にラップ状に開く坏部を持つもの、の特徴を持つ。また他の器種でも、やや外方に張り出すがっしりした高台を持ち緩やかに内弯しながら立ち上がる坏(3-41)と底部外周縁に低い高台を有し直線的に口縁部に立ち上がると思われる坏(3-42)とが認められる。第3に、60×30cm～10×10cmの大きさの転石・礫が遺物と混在する形で多数出土していることである。第4に、第3層からの出土遺物のなかに第1層や第2層と接合するものが認められることである。例えば、(3-60)は第1層、第2層、第3層から出土した破片が接合した坏身である。また、(3-61)は第2層、第3層から出土した破片が接合した坏身である。この坏身は(3-27～35)と同様な特徴を持っている。更に、(3-9)は第2層から脚部が、第3層から胴部が各々出土している赤色塗彩の土師器の上馬である。そして胴部は輪状つまみが付きかえりのある蓋(3-36)と供伴していた。



第32图 A-1区实测图



第33图 C-1区实测图

(5) 灰原調査区

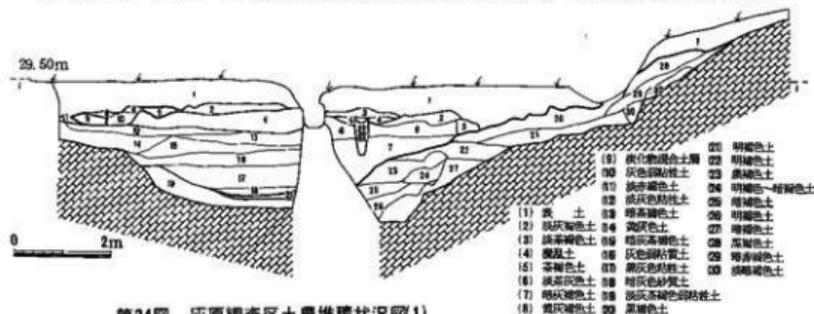
ア、現 状

4・5号窯跡の南側の谷間は元々水田平坦地であり、東西南北の溝によって10枚の水田に区切られていた。また、この平坦地の西側奥と東側入口には各々小規模な溜池があった(第1図)。そして既述のようにこの旧水田平坦地を遺物散布地と考えて調査を開始したが、北側崖断面の遺構の発見に伴って調査区を再編成した(第2図)。また調査開始直後に、この水田の耕作土直下から広範囲の夥しい量の須臾器や窯体片を含んだ炭化物層(後述する“2次堆積層内の灰原層”)を検出したので、ここを灰原調査区とした。そして調査時には本調査区をA-5~13, A-11S~13S, B-5~13, C-5~13の各グリッドに分けて、東西方向に8本、南北方向に12本程の土層堆積状況図(セクション図)を作成しながら詳細に調査を実施した(袋とじ図①)。また本調査区の東端部にA-1区, C-1区を設けて調査したが(第32・33図)、共に表土層の下はすぐ地山であり“灰原層”等は検出しなかった。遺物もC-1区の“表土層”から若干しか出土しなかった。

イ、層 位

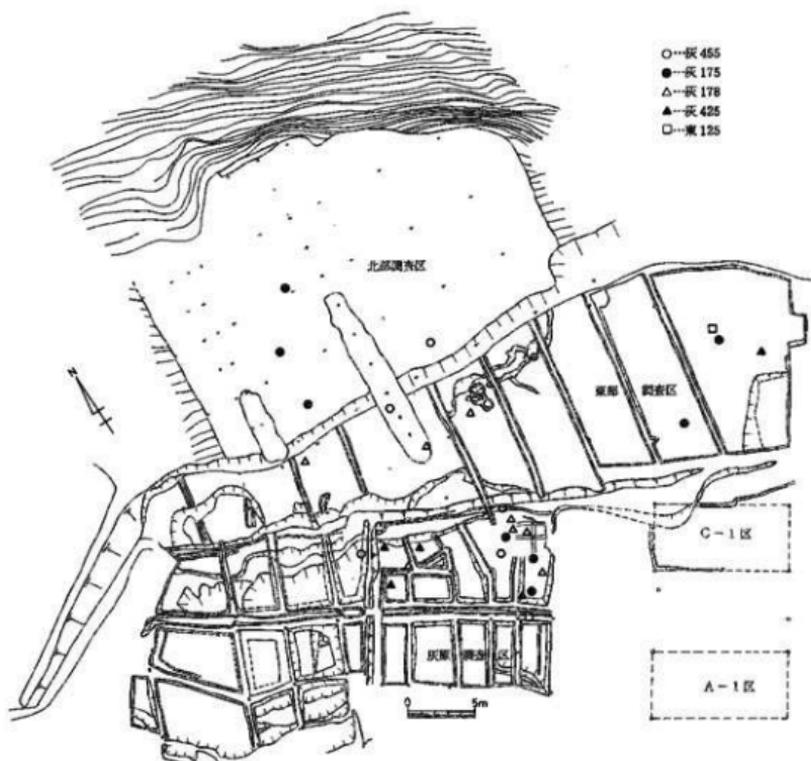
本調査区の調査時において堆積した土層を計40層以上に分けた。例えば、1-1'の土層堆積状況を見ていただきたい。調査時には、第34図に示すように計30層に分けて各層毎に遺物を取り上げた。しかし各土層の堆積状況を検討した結果、2層~4層, 8層~11層は4層を間にして複雑な堆積状況を示すこと、5層~7層, 12層~18層は均されたような堆積状況を示すこと、特に19層の上端が平らでありしかもそこが17層の上端にもなっていること、が分かった。

また各区とも多量の出土遺物があり、これらの出土状態の検討の結果以下に述べる事が分かった。後でも述べるが、A-5~A-13区, A-11S~A-13S区の“灰原より下の堆積土層”から4・5号窯跡と同じ特徴を持つ蓋环等の他に、回転糸切り底に高台が付

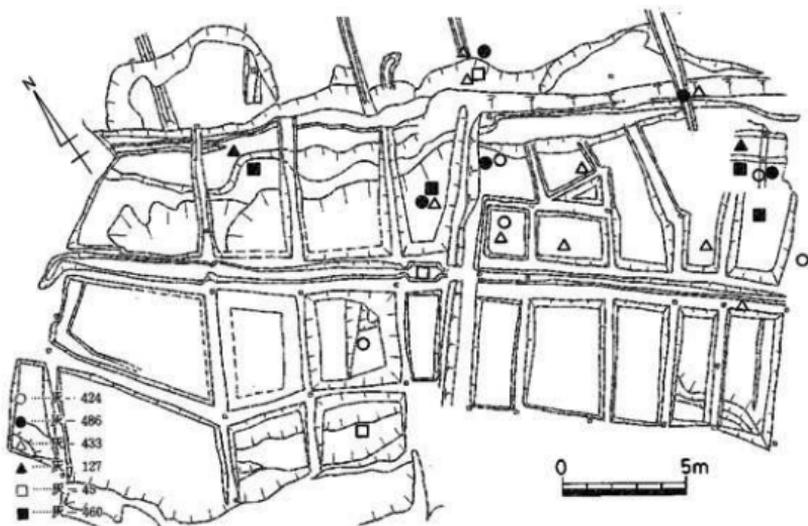


第34図 灰原調査区土層堆積状況図①

く坏が、またA-11S～A-13S区、A-10～A-13区、B-10～B-13区、C-10～A-13区の“灰原層”から4・5号窯跡と同じ特徴を持つ蓋环・高环・壺の他に、立ち上りと受け部の高さがほぼ同じ坏身が、さらにB-5～B-9区、C-5～C-9区の“灰原層”から4・5号窯跡と同じ特徴を持つ須恵器の他に、立ち上りと受け部の高さがほぼ同じ坏身、天井に輪状のつまみを付け口縁部内側に高さの低いかえりが付く环蓋、坏部がなだらかに弯曲して口縁部に至り脚部の透しが線状の切り込みやそれがない高坏等が、各々出土している。一方、壺の口縁部についての接合関係を調べた結果、本調査区と後に述べる北部調査区、東部調査区から出土した破片が接合したり（第35図）、本調査区内でも層序に関係無く接合した例が多数認められた（第36図）。例えば、第35図の●（灰-175）は、本調査区のC-6区の“灰原層”、B・C-5区の“2次堆積層内の灰原層”と北部調査区



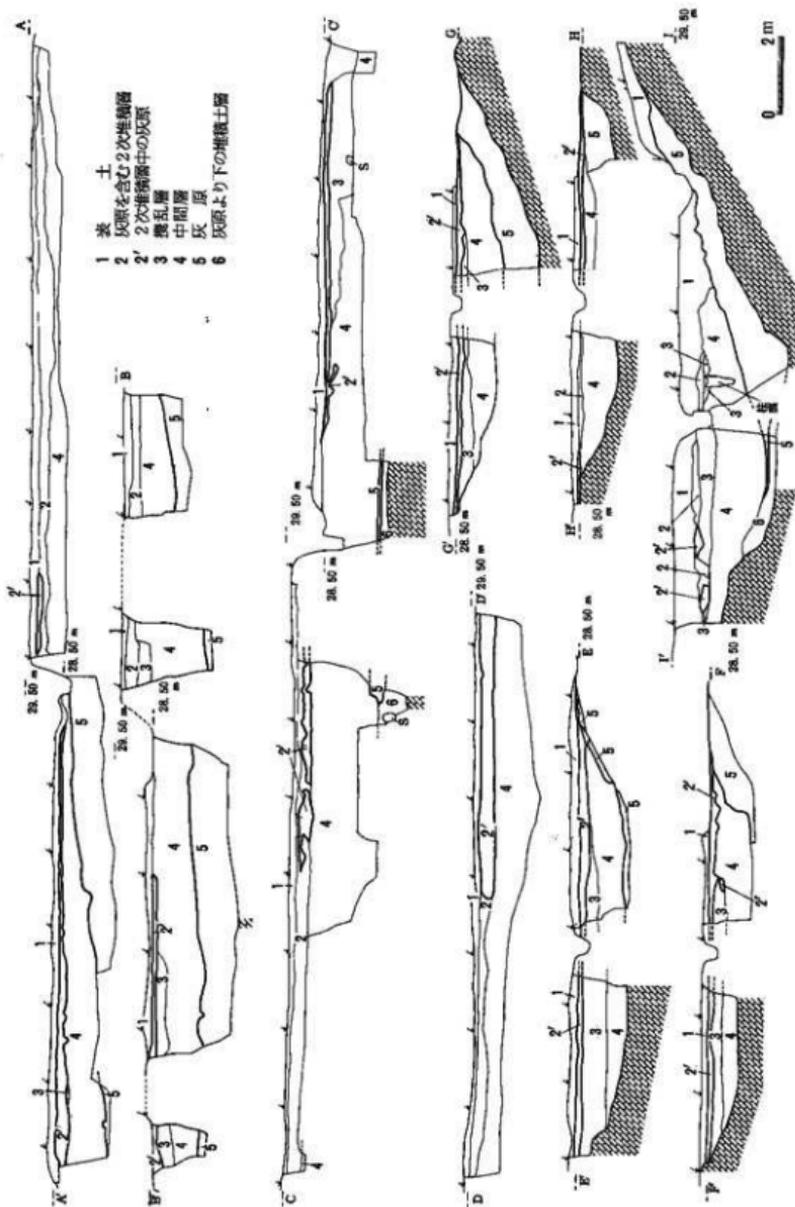
第35図 灰原・北部・東部調査区出土遺物接合関係図



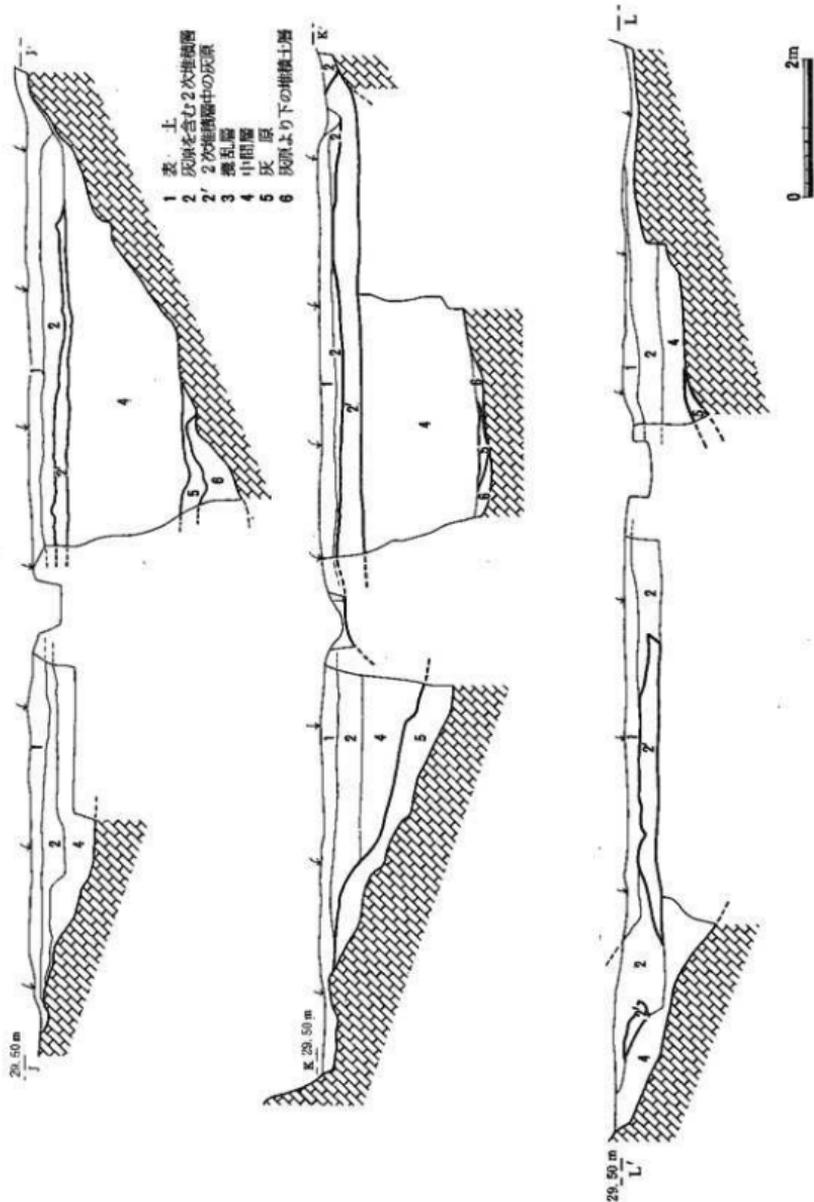
第36図 灰原調査区出土遺物接合関係図

のA-5区の第3層、I-5区の第4層、ウ-5区の排水溝内の第1層と東部調査区のE-2区の明灰褐色土層、F-1~2区の第2層から出土した破片が接合したことを示す。また第36図の■(灰-460)は、C-12区の“灰原層”、B・C-10区の“灰原層”、B・C-5区の“中間層”、C-5区の“灰原層”から出土した破片が接合したことを示す。

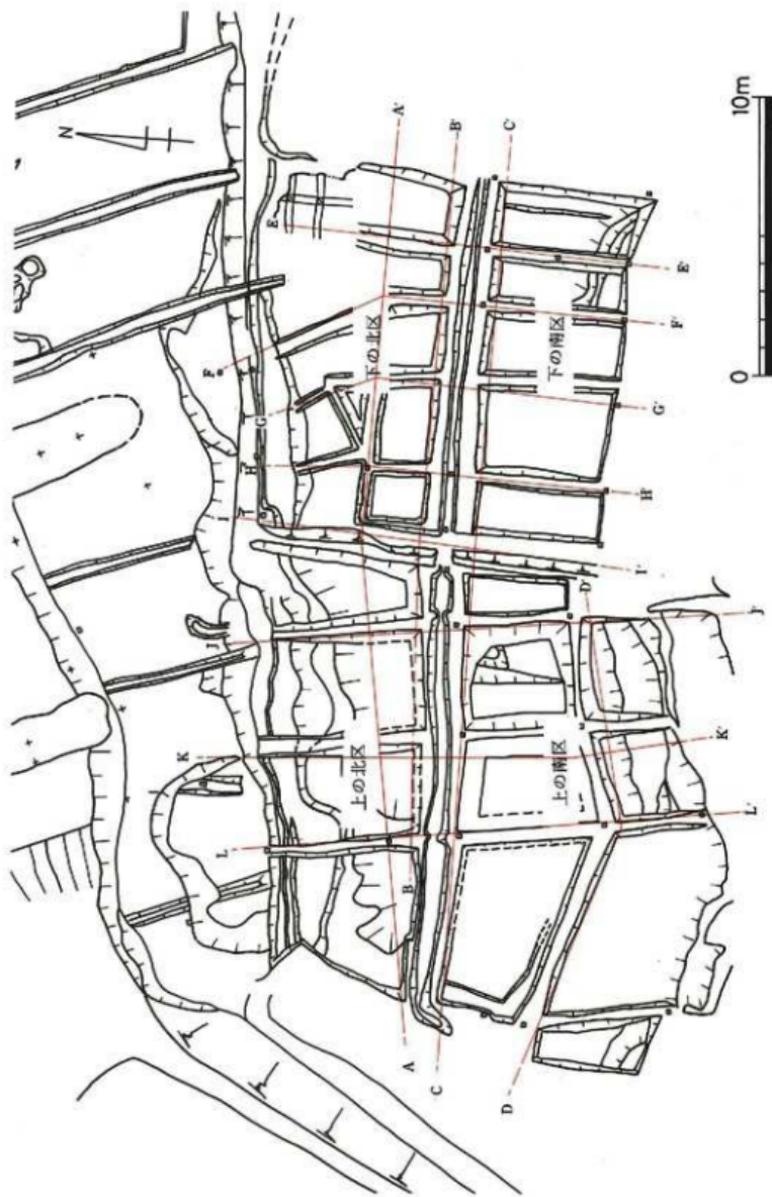
これから総合的に判断した結果、本調査区を中心とするこの“池ノ奥谷”はかなりの規模の削平・攪乱を受けており、“灰原層”もある程度の削平・攪乱を受けているのではないと思われる。しかし、これらの削平・攪乱が何に起因するののかについては後で詳しく述べたいと思う。よって、計40層以上に分けた灰原調査区の堆積土層を「(1)表土(耕作土)層、(2)灰原を含む2次堆積層、(2')2次堆積層内の灰原層、(3)攪乱層、(4)中間層、(5)灰原層、(6)灰原より下の堆積土層」の計7層にまとめても大過ないと思われる(第37・38図)。また土層堆積状況図についても、東西方向4本(A-A', B-B', C-C', D-D'), 南北方向8本(E-E', F-F', G-G', H-H', I-I', J-J', K-K', L-L')に絞っても良いと判断して、ここでは計12本のセクション図を掲げた(第39図)。さらに水田中央部の東西溝と南北溝を利用して、灰原調査区を便宜的に4区に細分した。即ち、B-10~B-13区、C-10~C-13区をまとめて上段の北側区(以下、「上の北区」とする)、A-10~A-13区、A-11S~A-13S区を上段の南側区(以下、「上の南区」と



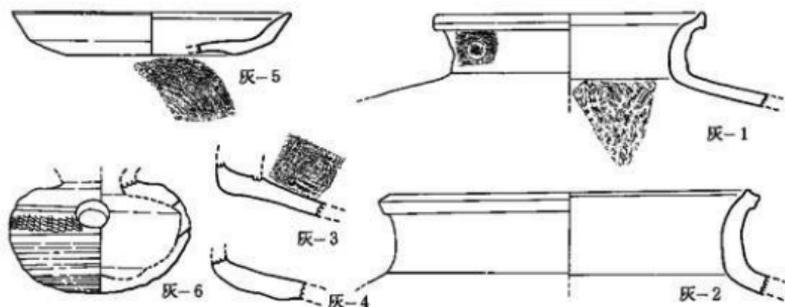
第37図 灰原調査区土層堆積状況図2)



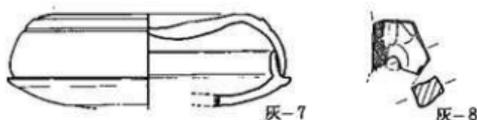
第38図 灰原調査区土層堆積状況図(3)



第39図 灰原調査区土層堆積状況(セクション)設定図



第40図 上の北区出土遺物実測図①(1/3)



第41図 上の北区出土遺物実測図②(1/3)

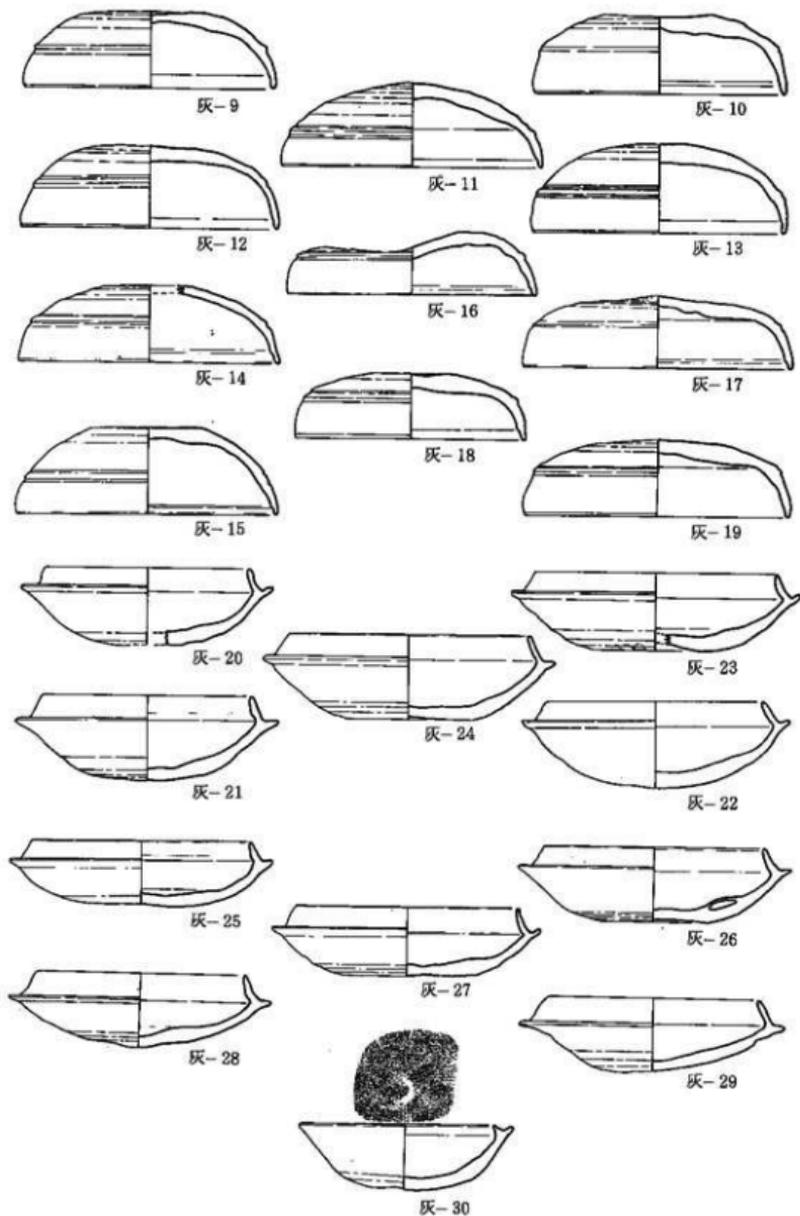
する), B-5~B-9区, C-5~C-9区をまとめて下段の北側区(以下, 「下の北区」とする), A-5~A-9区を下段の南側区(以下, 「下の南区」とする)の4区である。以下, 各土層の堆積状況の概要を説明する。

A-A'

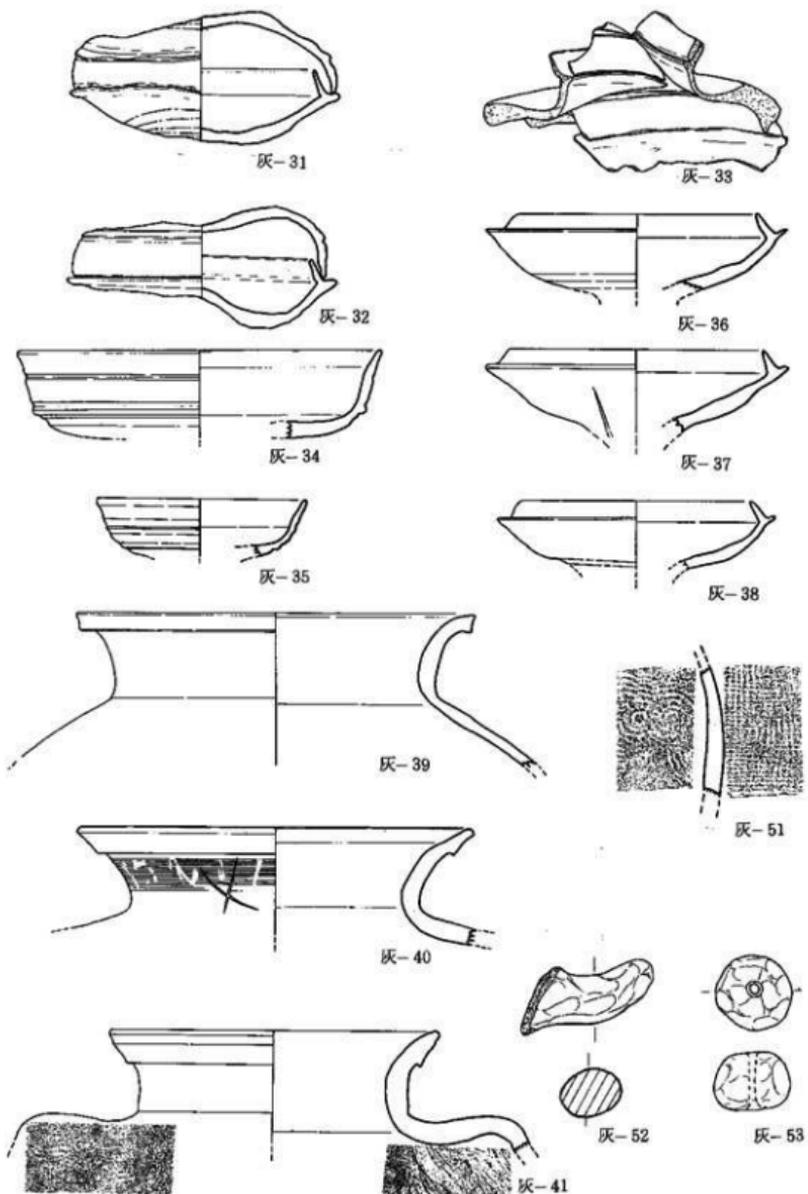
これは上の北区~下の北区の土層の堆積状況を示し, 上から(1)層, (2)層, (2)層, (3)層, (4)層, (5)層の順に堆積していたが, 上の北区では, (2)層は一面に堆積していたが, (2)層は東端にしか認められなかった。(4)層も西側が薄く東側が厚い状況で堆積していた。しかし(3)層と(5)層は堆積していなかった。一方下の北区では, (2)層と(4)層は東側に行くほど厚く堆積していたが, (2)層は認められず, また(5)層は逆に薄くなりC-5区で消えていた。(3)層は東端で一部しか認められなかった。つまり, (2)層, (2)層, (4)層, (5)層の各層は西側から東側に流れ込んで堆積した状況を示していた。

B-B'

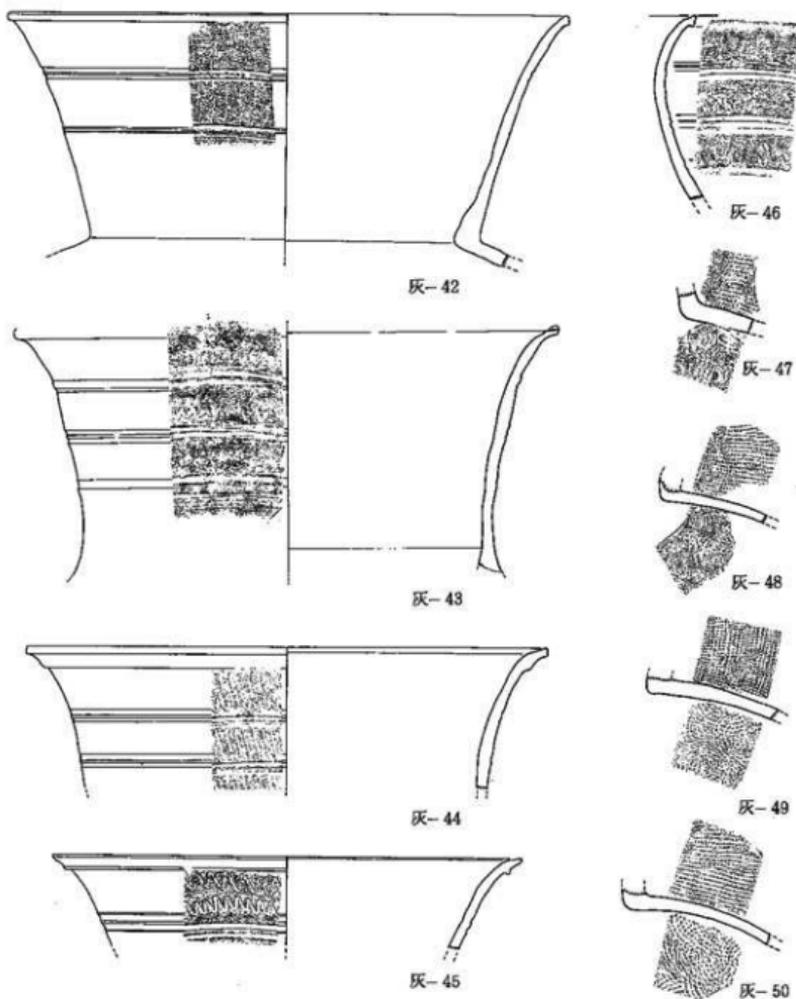
これも上の北区~下の北区の土層の堆積状況を示すが, B-6, 7, 11, 13区の土層の堆積状況は, 調査時のセクションベルトの崩落のために観察することができなかった。上から(1)層, (2)層, (2)層, (3)層, (4)層, (5)層の順に堆積していたが, 上の北区では(2)層は堆積していたが, (2)層は認められず, また(3)層は東端にしか認められなかった。更に(4)層はA-A'同様, 西側が薄く東側が厚い状況で堆積していた。また(5)層はレベ



第42図 上の北区出土物実測図③ (1/3)

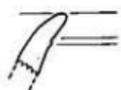


第43図 上の北区出土遺物実測図④(1/3)



第44図 上の北区出土遺物実測図⑤ (1/5)

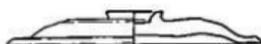
的に西側が高く東側が低い状態で堆積していた。一方下の北区では、(2)層と(3)層は途中から東側にかけて堆積していた。(4)層は上の北区とは逆に東側に行くほど薄く堆積していた。(5)層も東側に行くほど薄くなっており、一部で地山を確認した。つまり、(2)層、(2)層、(3)層、(5)層の各層はA-A'と同様な堆積状況を示していたが、(4)層は逆の堆積状況を示していた。



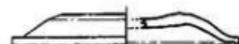
灰-54



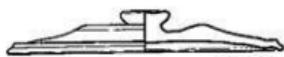
灰-55



灰-56



灰-57



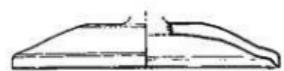
灰-58



灰-59



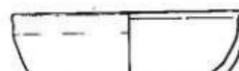
灰-60



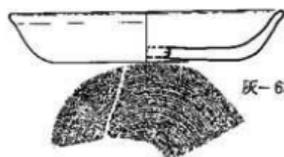
灰-61



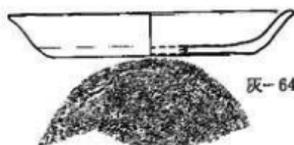
灰-62



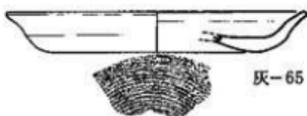
灰-69



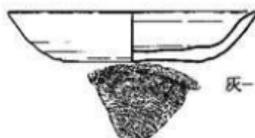
灰-63



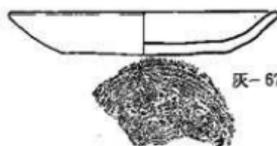
灰-64



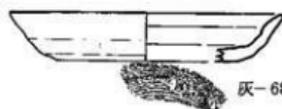
灰-65



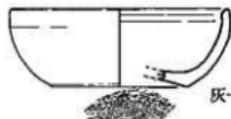
灰-66



灰-67

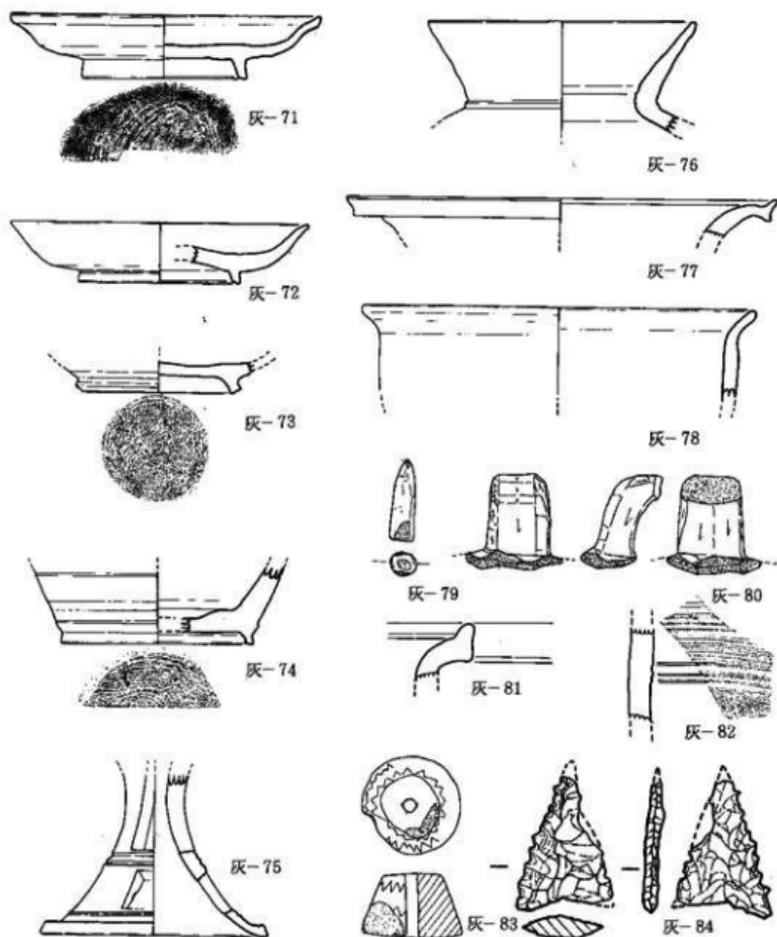


灰-68



灰-70

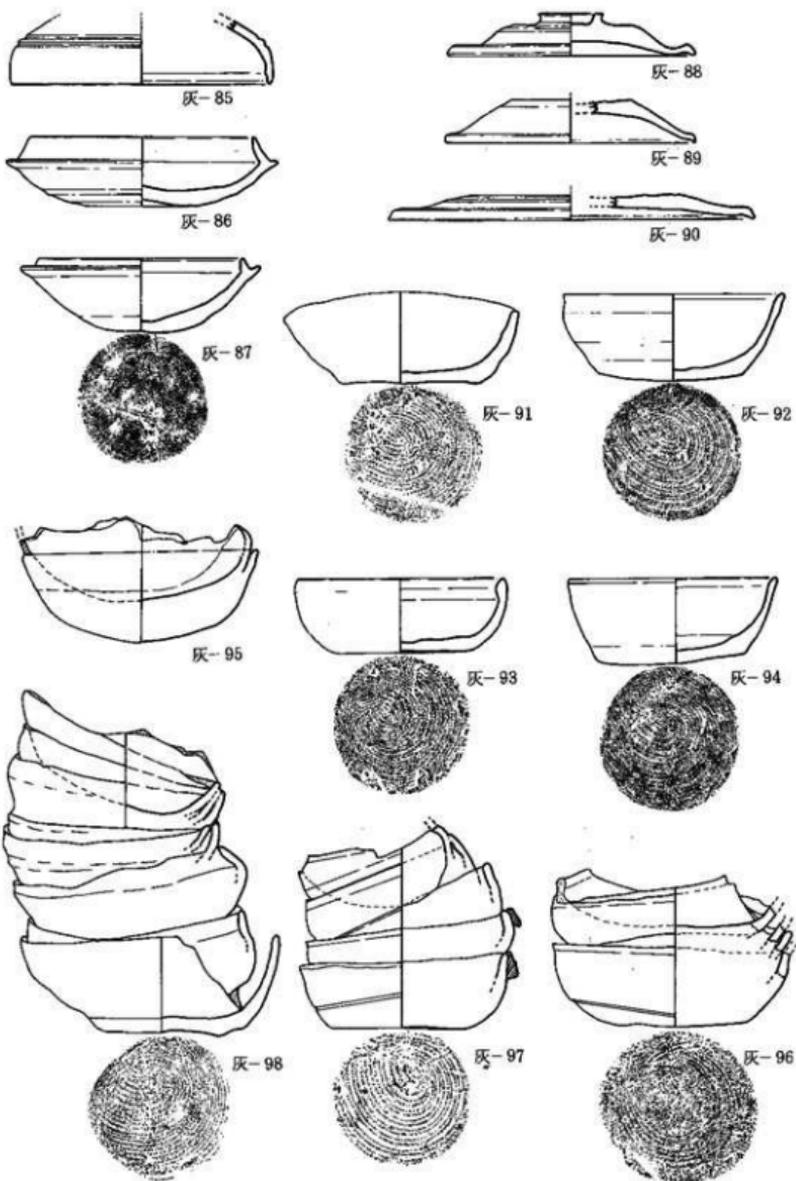
第45図 上の南区出土遺物実測図①(1/3)



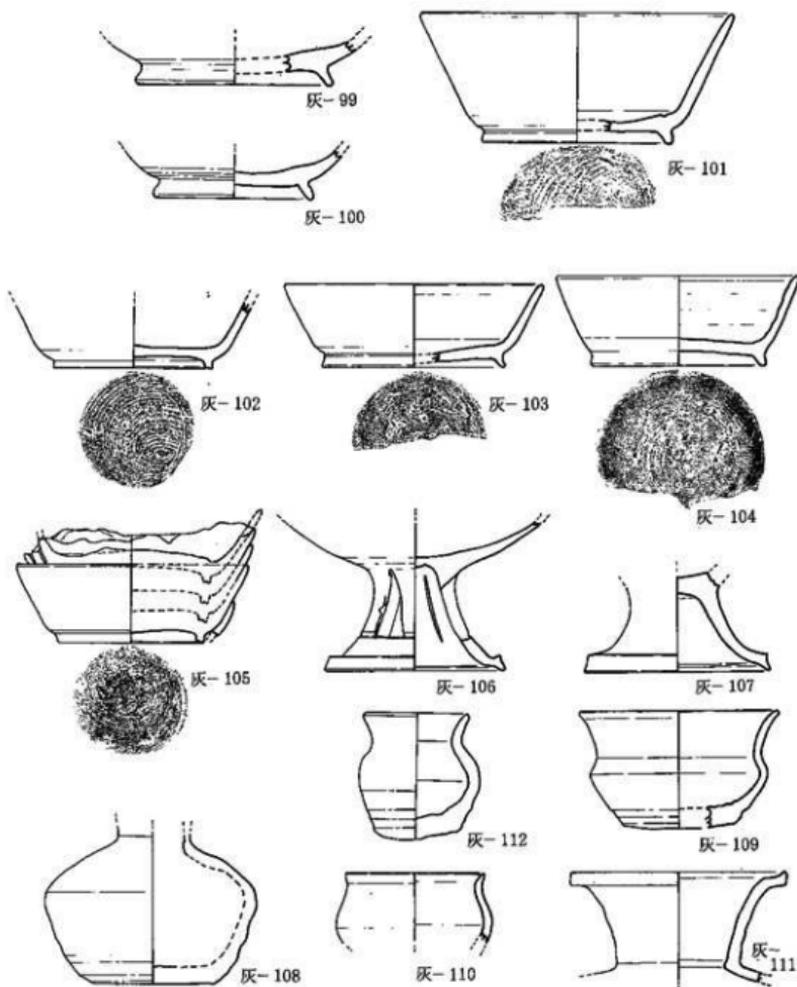
第46図 上の南区出土遺物実測図②(1/3)

C-C

これは上の南区～下の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2)層、(3)層、(4)層、(5)層、(6)層の順に堆積していたが、上の南区では、(2)層と(2)層は複雑に堆積していたが、(3)層は認められなかった。(4)層はかなりの厚さをもって堆積していたが、(5)層は東端に一部しか認められなかった。(6)層はかなりの厚さをもって堆積しておりその下は地山であることが分かった。一方下の南区では、(2)層は認められ

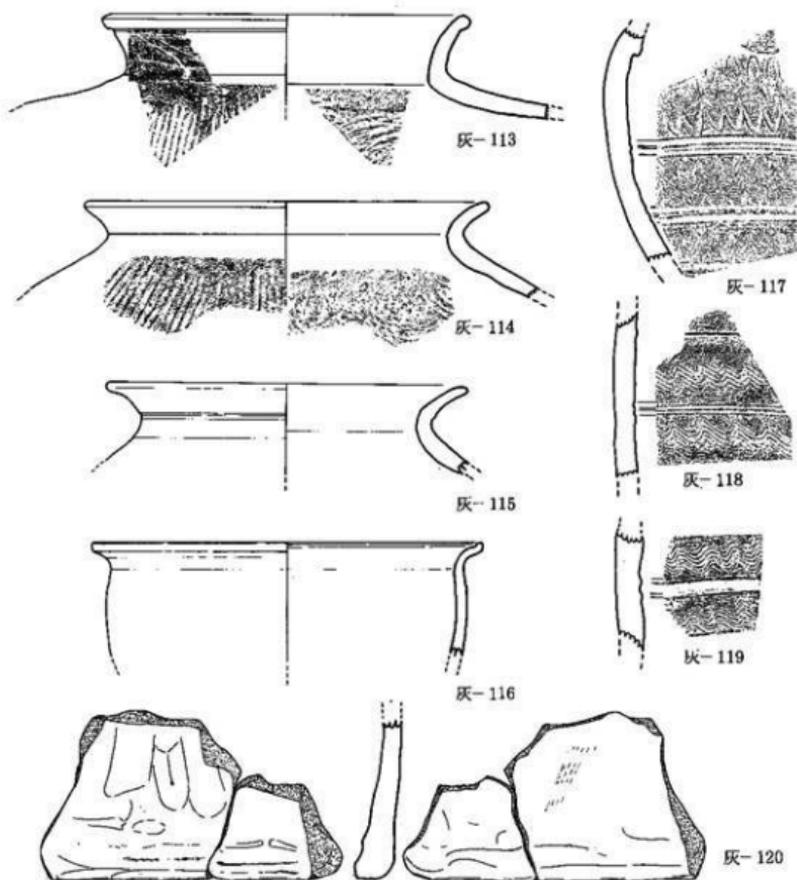


第47図 上の南区出土遺物実測図③(1/3)



第48図 上の南区出土遺物実測図④(1/3)

なかったが、(2)層と(3)層は途中から東端にかけて堆積していた。(4)層はレベル的に西側が高く東側が低い状態で上の南区と同様にかなりの厚さをもって堆積していたが、途中で切られた状況を呈していた。また(5)層はA-A'・B-B'とは異なり非常に薄く堆積しており、その下に(6)層があることが分かった。(3)層と(4)層がかなり厚いこと、(5)層



第49図 上の南区出土遺物実測図⑤(1/3)

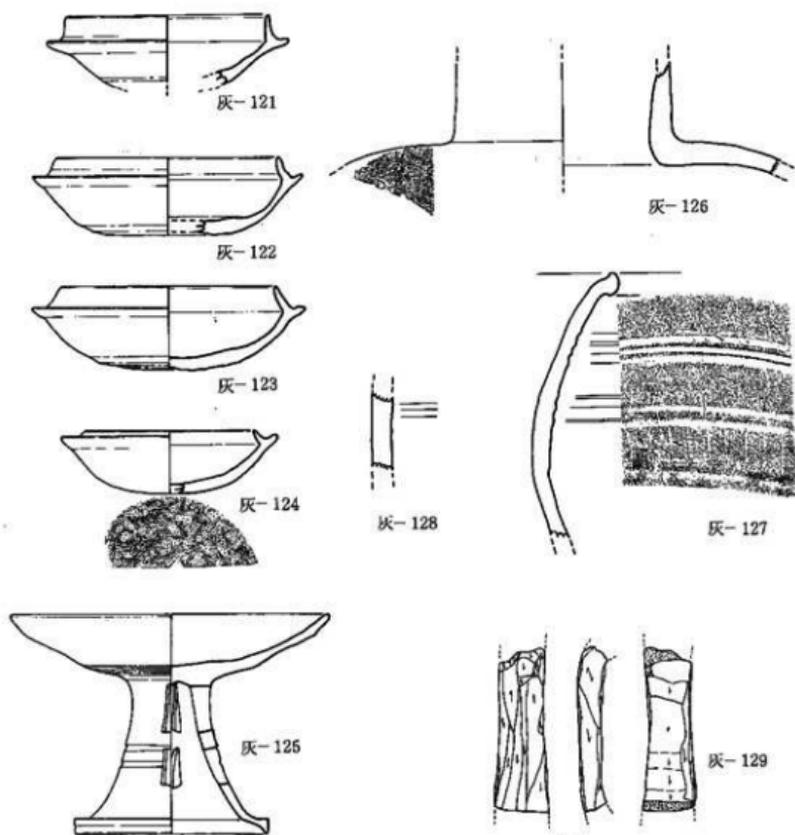
が非常に薄いことはA-A'・B-B'では見られなかったことである。

D-D'

これは上の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2)層、(4)層の順に堆積していたが、余り深く掘り下げていないために(5)層、(6)層は確認できなかった。(2)層はやはり東側に堆積していた。

E-E', F-F', G-G', H-H', I-I'

これらは下の北区～下の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2)層、

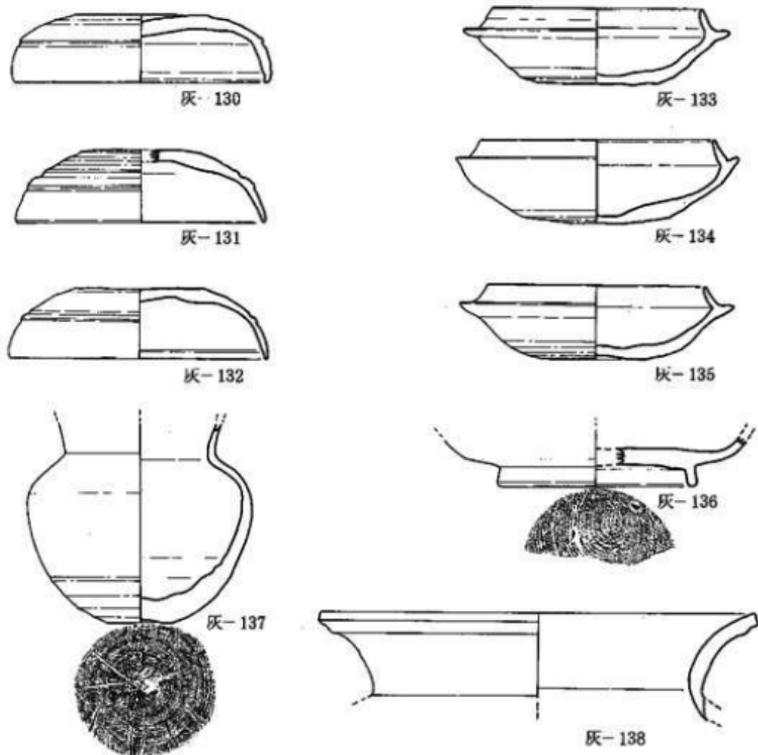


第50図 上の南区出土遺物実測図⑥(1/3)

(3)層、(4)層、(5)層、(6)層の順に堆積していたが、H-H'では(2)層が北側と南端の一部にしか認められず、また(3)層も認められなかった。他のE-E'・F-F'・G-G'・I-I'の(3)層が北区の途中から南端にかけてかなりの厚さをもって堆積していたの対照的である。(5)層はいずれも北区から流れ込んだ状況で堆積していた。(6)層はI-I'にしか認められなかった。つまり、(5)層はいずれも4・5号窯跡に関係するものであると思われる。

J-J', K-K', L-L'

これらは上の北区～上の南区の土層の堆積状況を示し、上から(1)層、(2)層、(2)層、



第51図 上の南区出土遺物実測図⑦(1/3)

(3)層、(4)層、(5)層、(6)層の順に堆積していたが、下の北区とは異なり上の北区には、(2)層は認められなかった。またK-K'・L-L'の上の北区では(5)層が認められたが、下の北区ほど厚くはなかった。さらに上の南区のかなり下方で(5)層と(6)層が認められたが、これはC-C'の上の南区のそれと対応できると思われる。この(5)層は4・5号窯跡のものとは異なり、別の窯跡が本調査区の南側斜面に構築されていた可能性を示すものである。

以上、各土層の堆積状況の概要を説明した。次に、上の北区・上の南区・下の北区・下の南区・C-1区の各土層から出土した遺物の概要を説明したい。

ウ、出土遺物

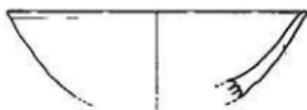
各区とも多量の出土遺物があったが、これらのうち実測できたのは、上の北区で53点、



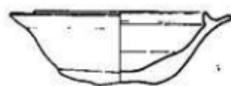
灰-139



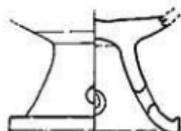
灰-140



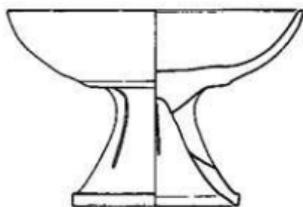
灰-144



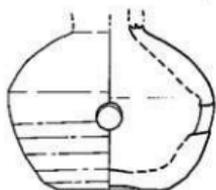
灰-141



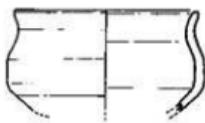
灰-143



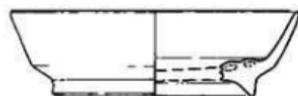
灰-145



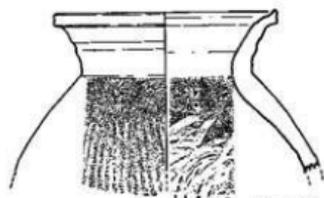
灰-147



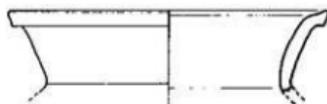
灰-146



灰-142



灰-148

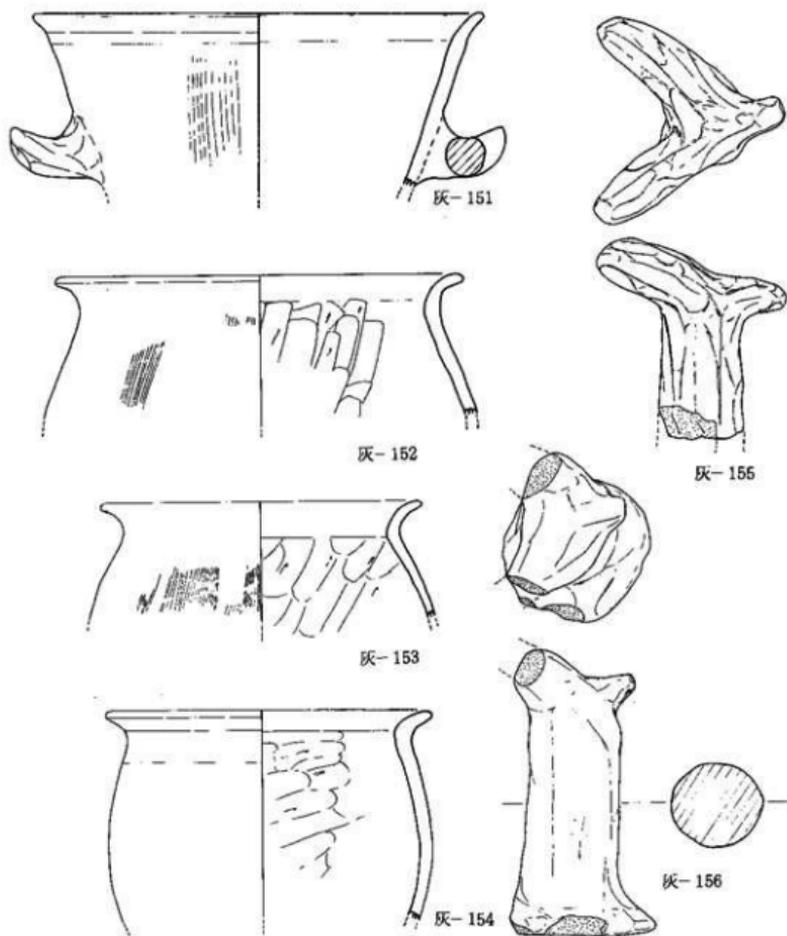


灰-149



灰-150(1/4)

第52図 上の南区出土遺物実測図⑧(1/3)

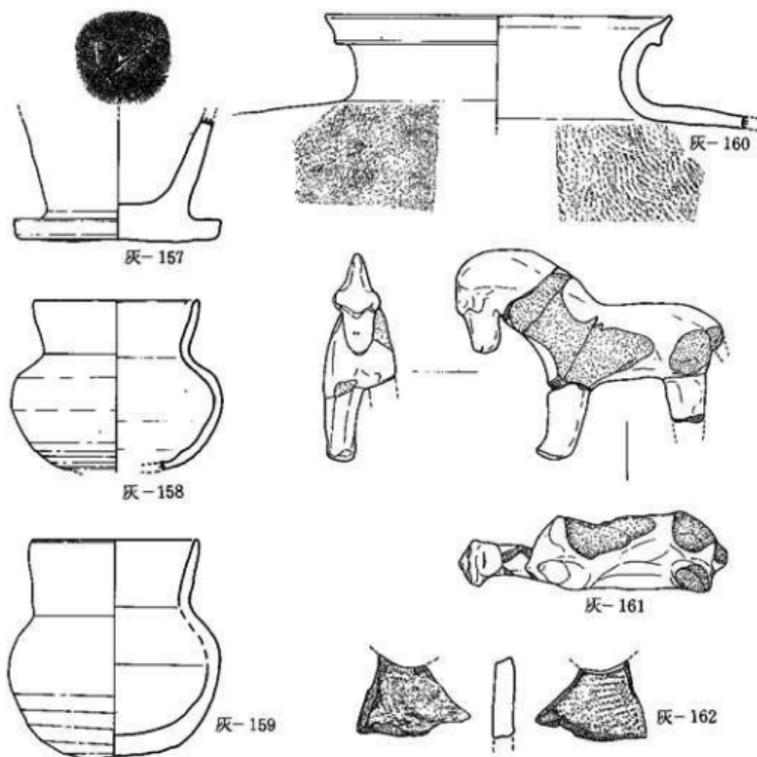


第53図 上の南区出土遺物実測図⑨(1/4)

上の南区で103点，下の北区で334点，下の南区で4点，C-1区で4点，の計498点であった。

上の北区

- (1)層と(3)層では，出土遺物は1点もなかった。
- (2)層では，垂直気味に立ち上がる頸部に外反する口縁部を有し口縁端部は外側にやや

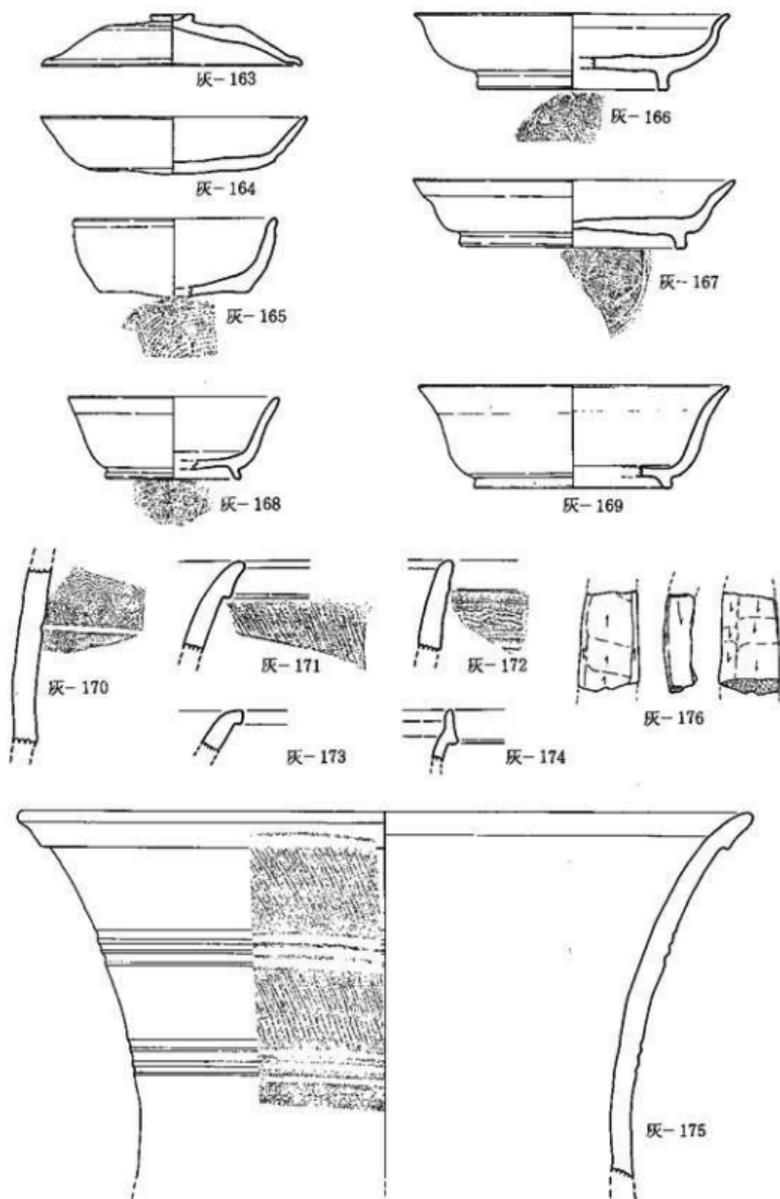


第54図 下の北区出土遺物実測図①(1/3)

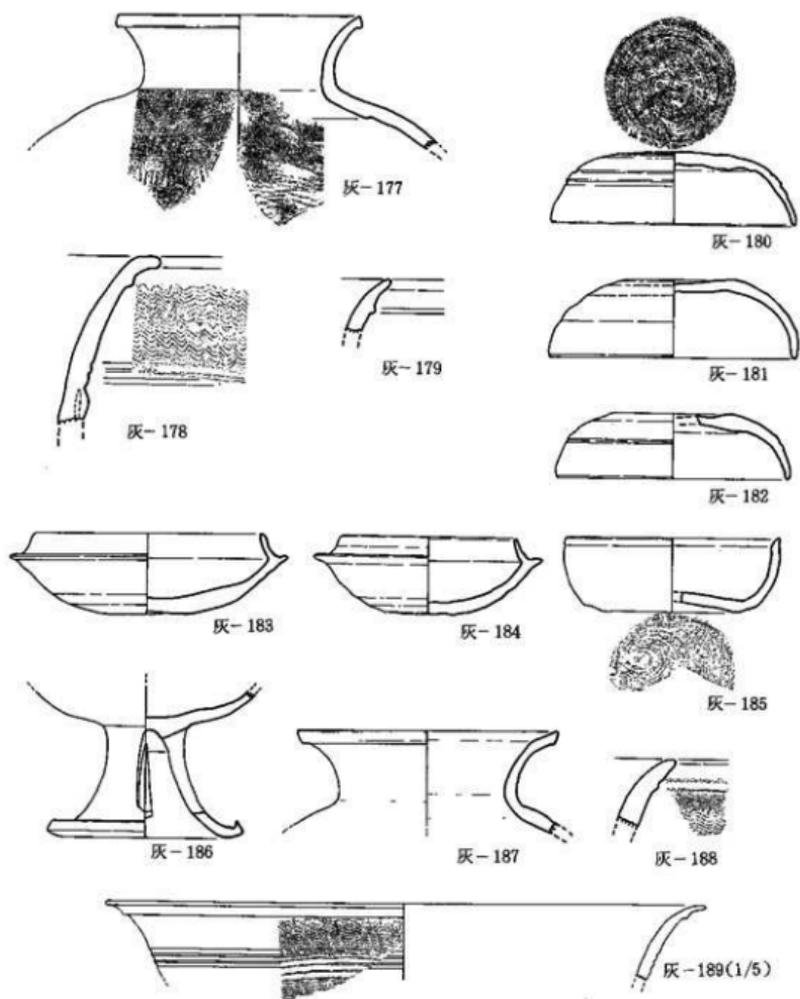
肥厚させ外面に平坦面を作り出す甕が4点(灰-1~4)、(2)層では回転糸切りの底部に低い立ち上がりをもつ甕が1点(灰-5)、頸部からは欠損しているが、肩部に刺突文を施しその上下に沈線を周回させる玉葱状の体部を有し底部は丁寧な回転篋削りで仕上げる甕が1点(灰-6)、であった(第40図)。

(4)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋と身が熔着した蓋環のセットが1点(灰-7)、全面に篋削りや指ナデ等を施して五角形状に仕上げる把手が1点(灰-8)、であった(第41図)。

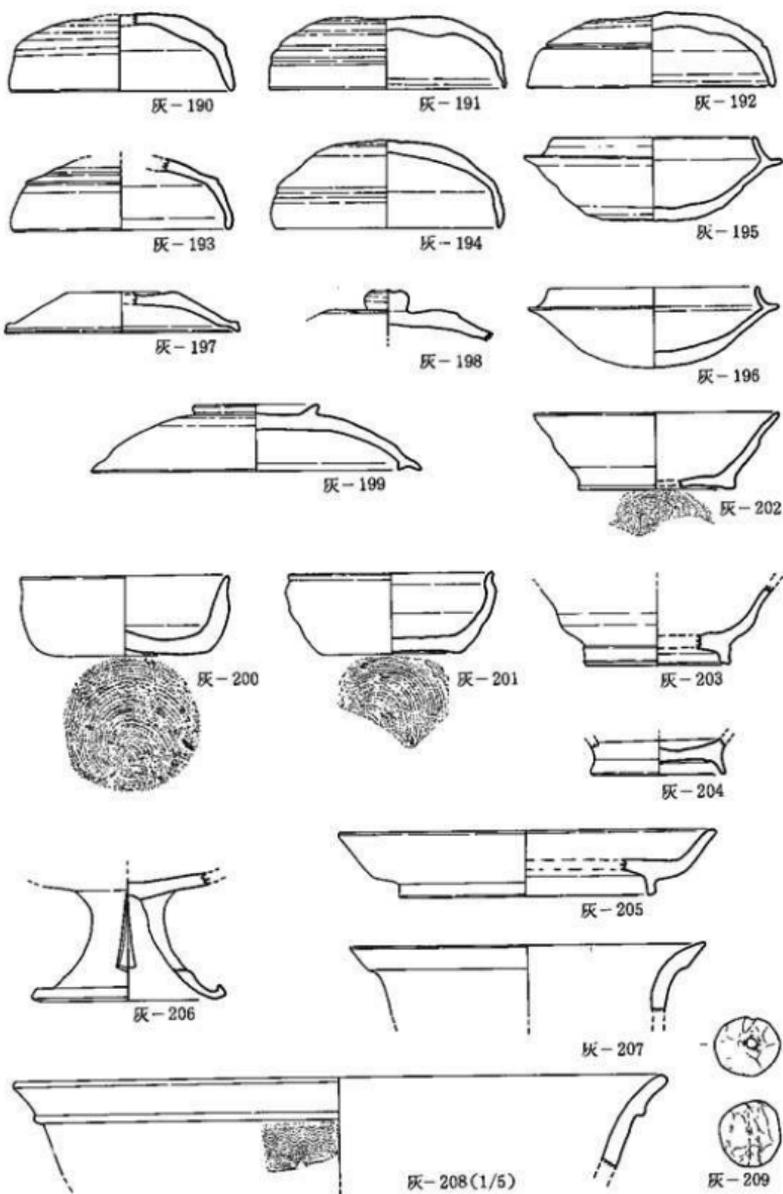
(5)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ環蓋と坏身が計21点(灰-9~29)、立ち上がりと受け部の高さがほぼ同じ坏身が1点(灰-30)、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋と身が熔着した蓋環のセットが3点(灰-31~33)、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ



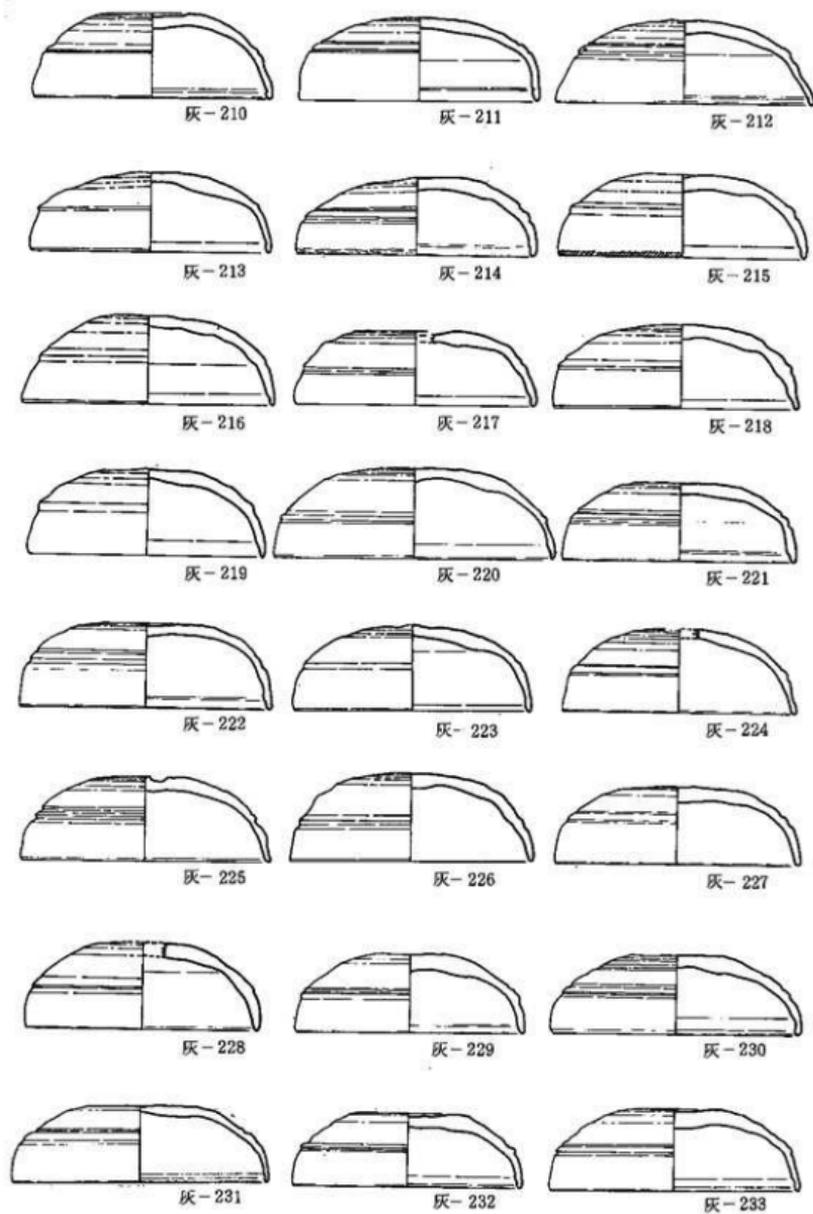
第55図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)



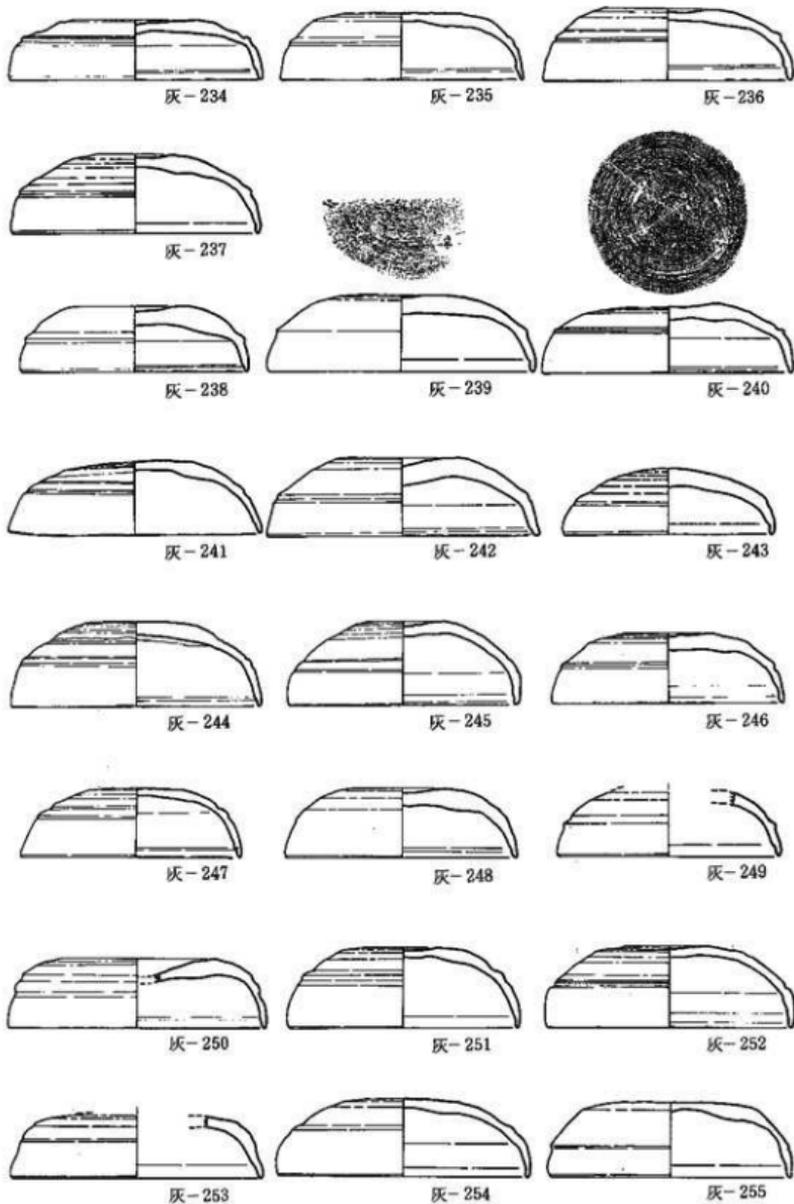
第56図 下の北区出土遺物実測図③(1/3)



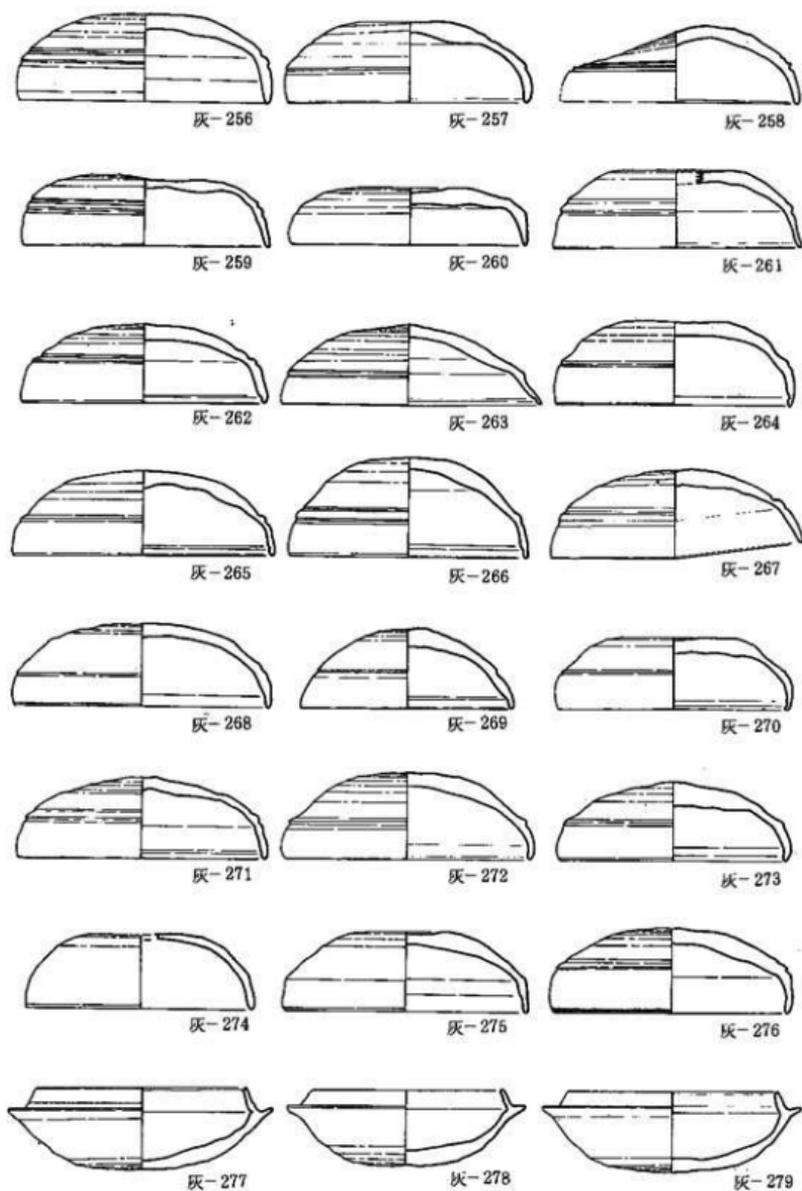
第57図 下の北区出土遺物実測図④(1/3)



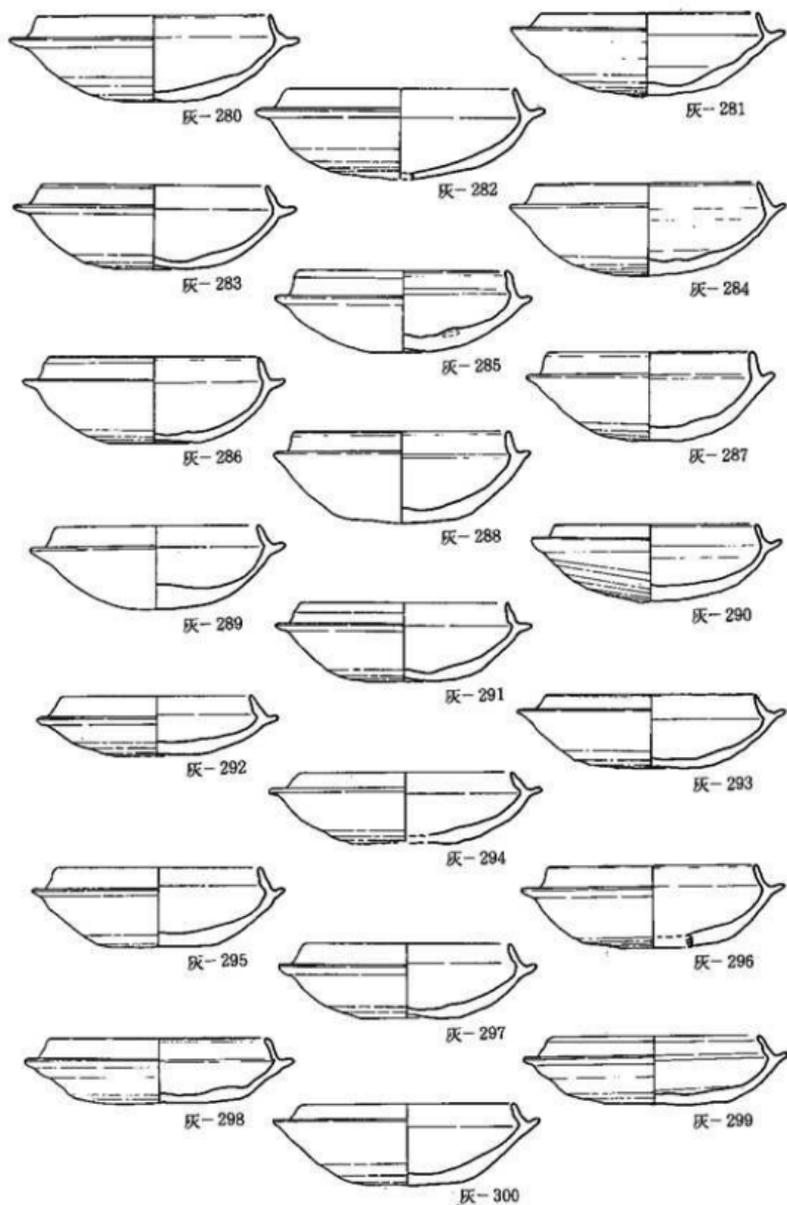
第58図 下の北区出土遺物実測図⑤(1/3)



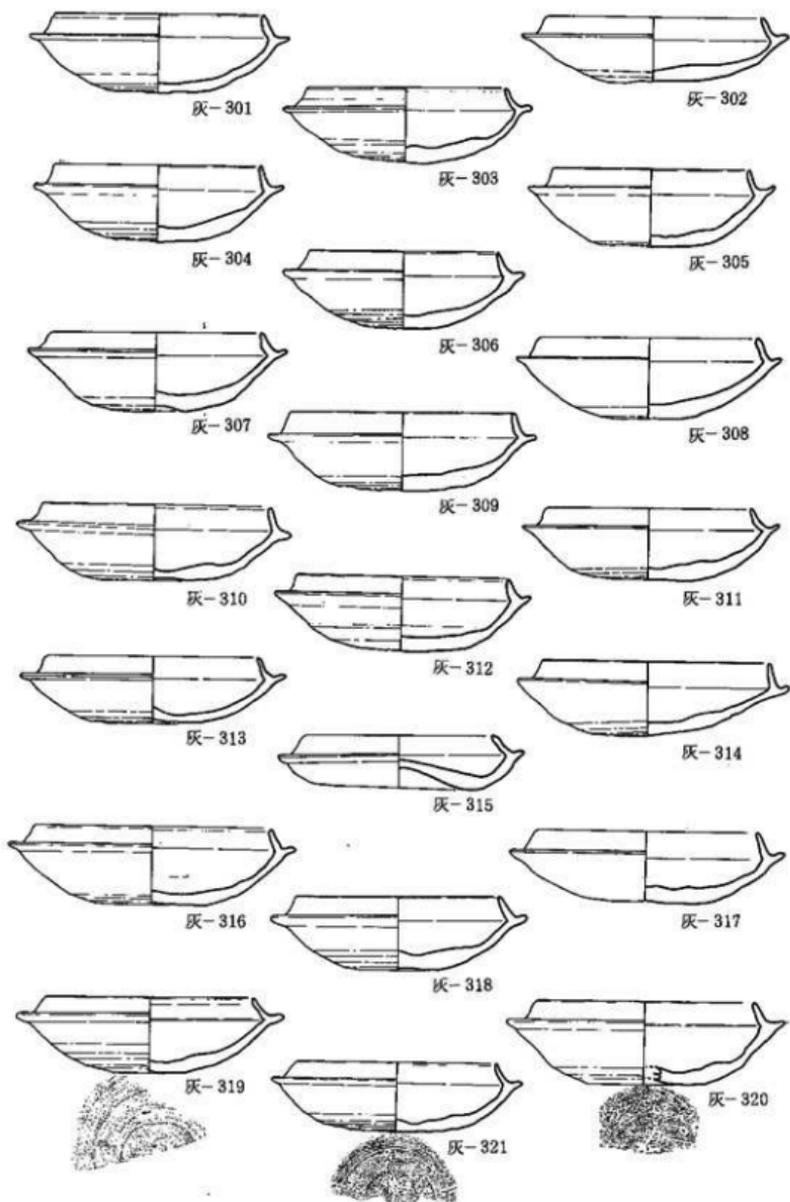
第59図 下の北区出土遺物実測図⑥(1/3)



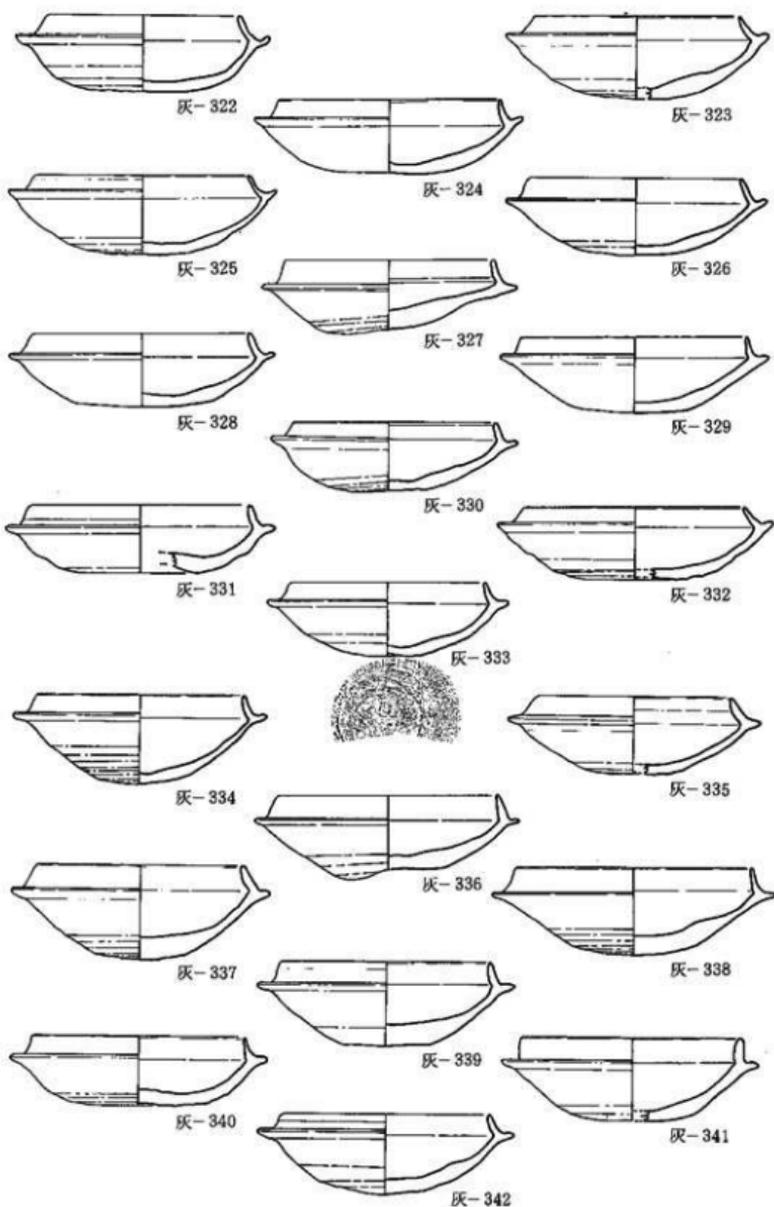
第60図 下の北区出土遺物実測図①(1/3)



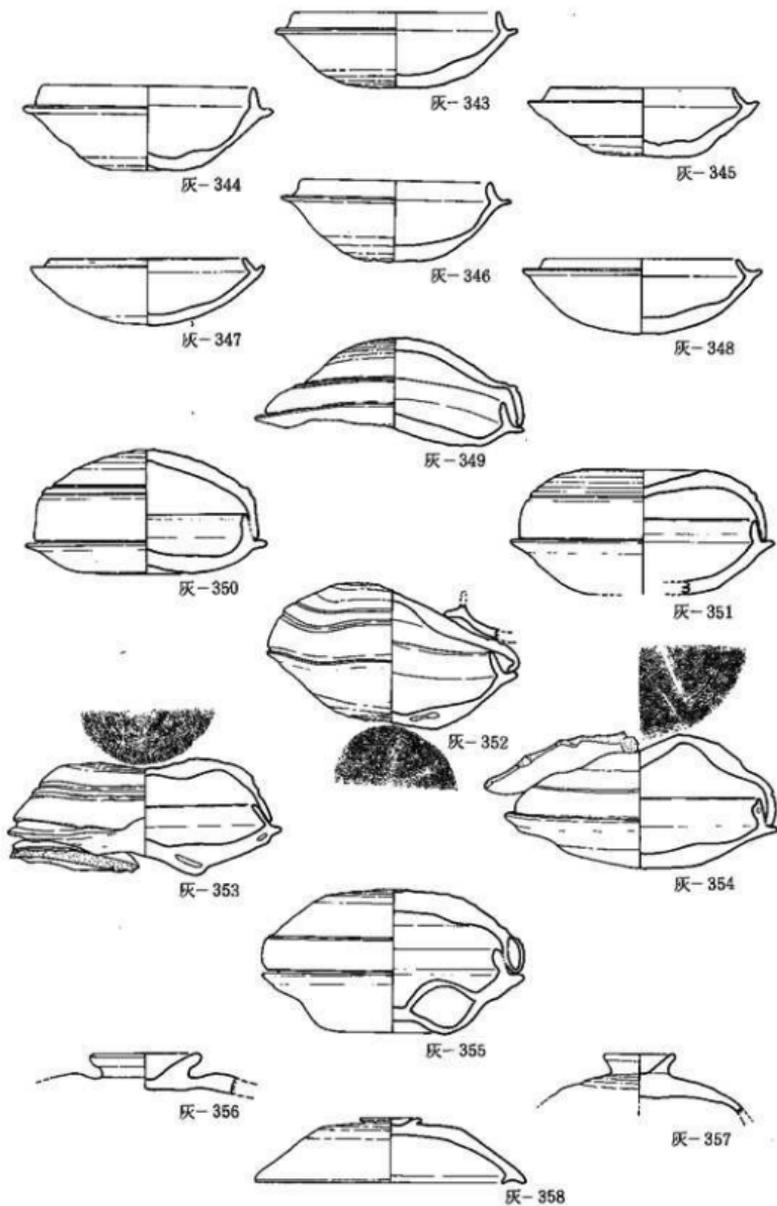
第81図 下の北区出土遺物実測図③(1/3)



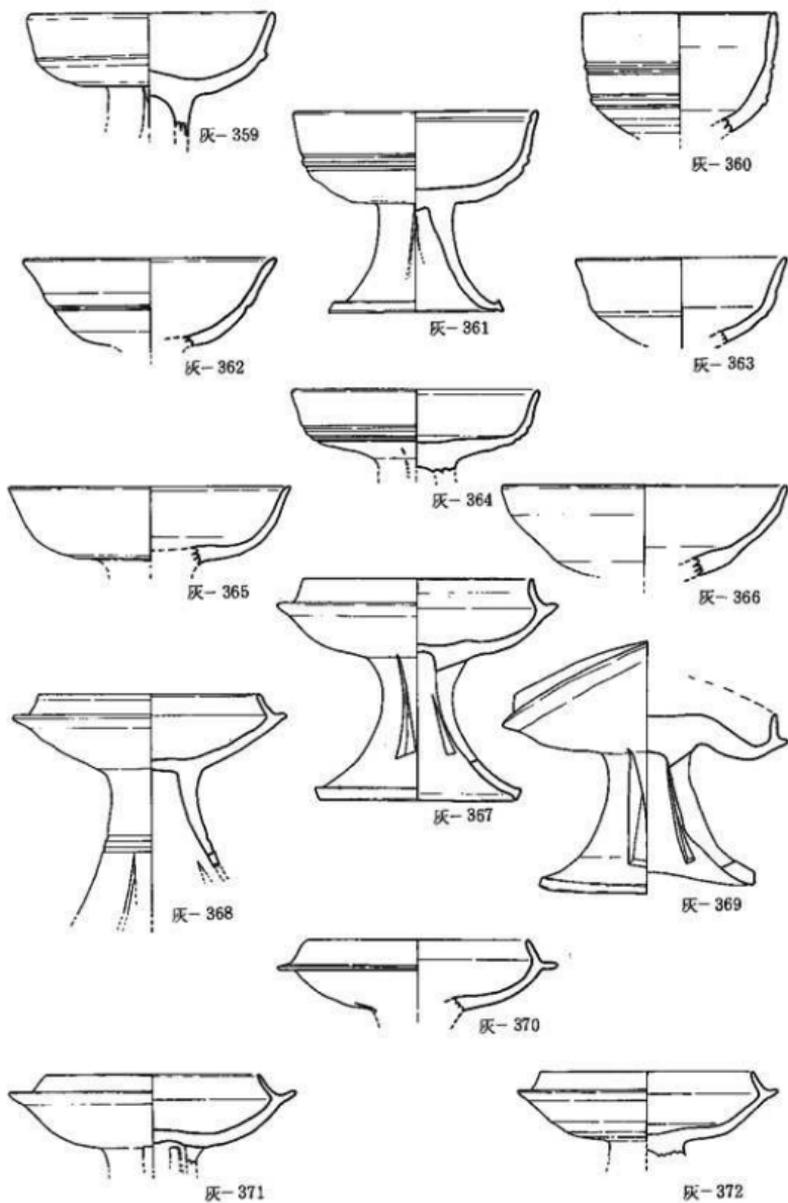
第62図 下の北区出土遺物実測図⑨(1/3)



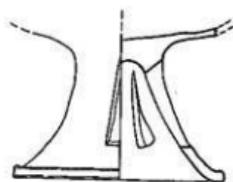
第63図 下の北区出土遺物実測図⑩(1/3)



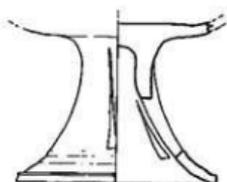
第64図 下の北区出土遺物実測図① (1/3)



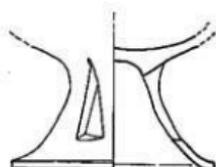
第65図 下の北区出土遺物実測図(2) (1/3)



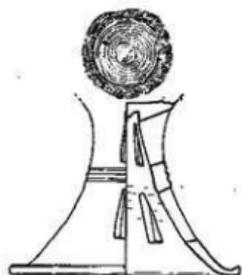
灰-373



灰-374



灰-375



灰-376



灰-377



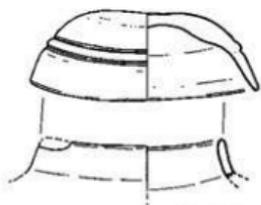
灰-378



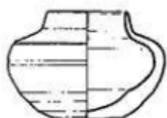
灰-379



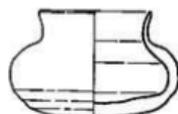
灰-380



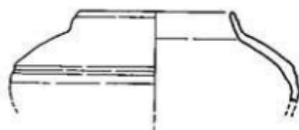
灰-381



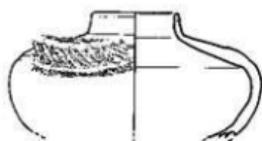
灰-382



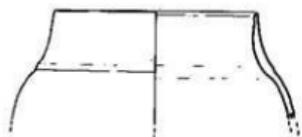
灰-383



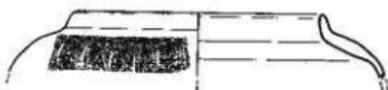
灰-384



灰-385

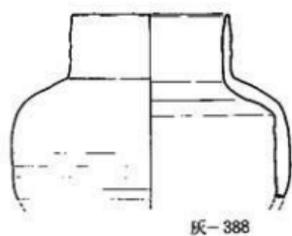


灰-386

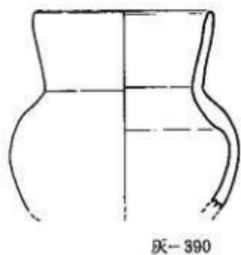


灰-387

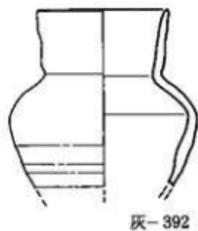
第66図 下の北区出土遺物実測図③(1/3)



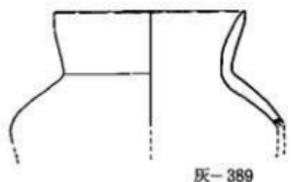
灰-388



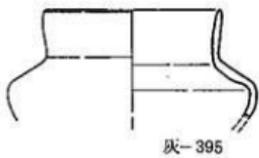
灰-390



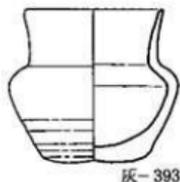
灰-392



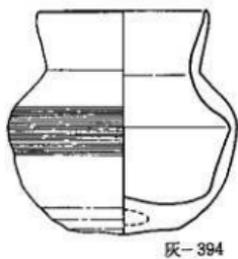
灰-389



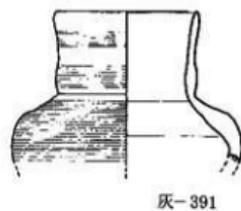
灰-395



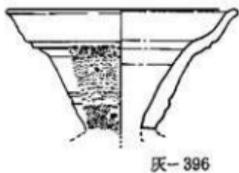
灰-393



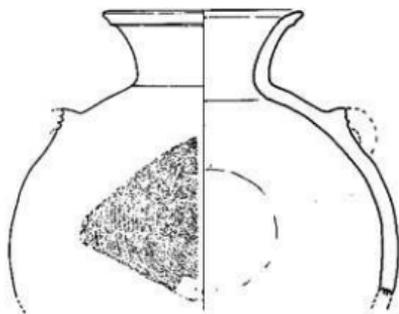
灰-394



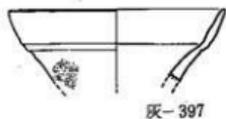
灰-391



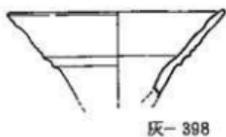
灰-396



灰-399

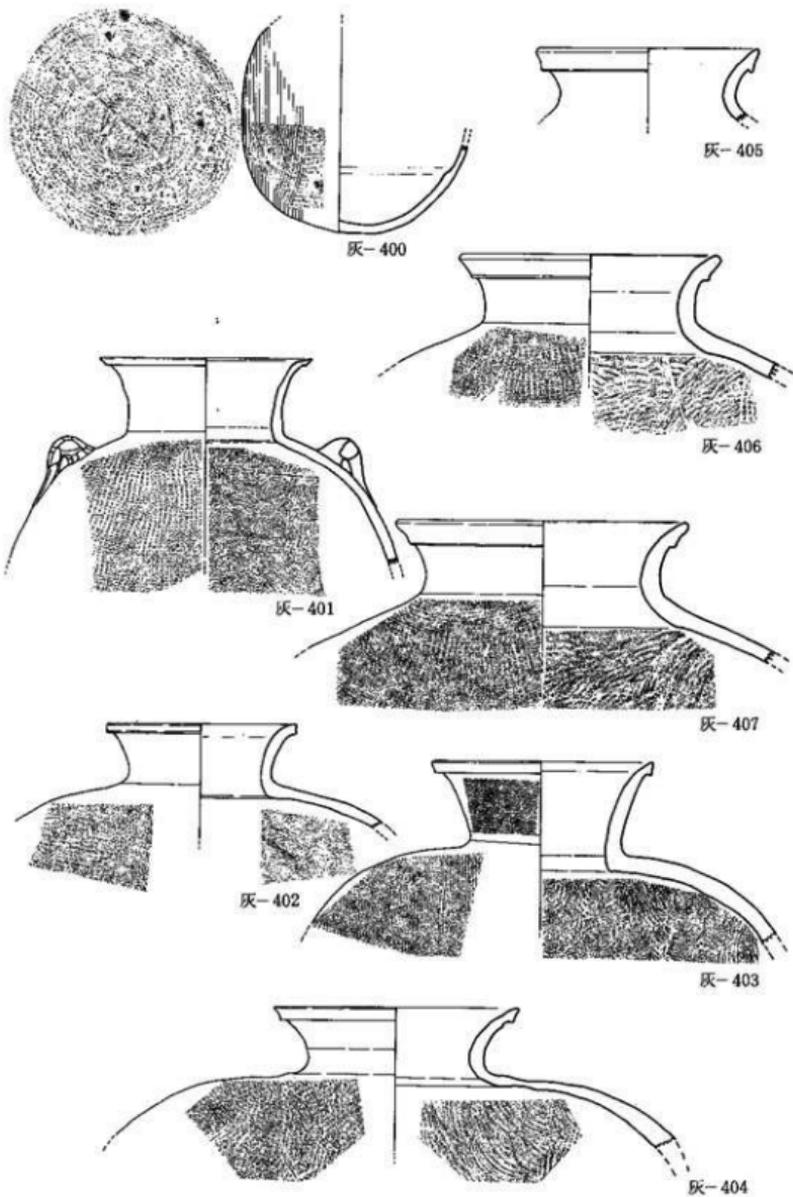


灰-397

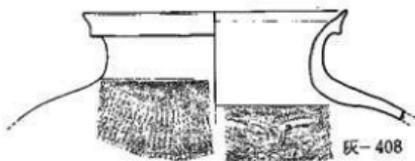


灰-398

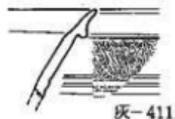
第67図 下の北区出土物実測図④(1/3)



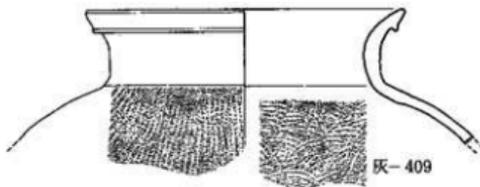
第68図 下の北区出土遺物実測図⑤(1/4)



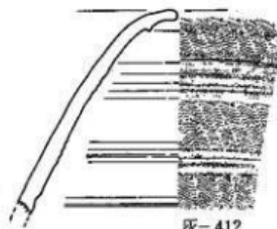
灰-408



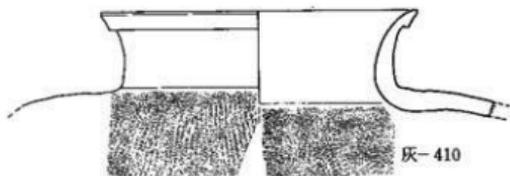
灰-411



灰-409



灰-412



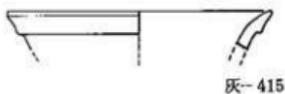
灰-410



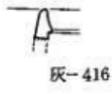
灰-413



灰-414



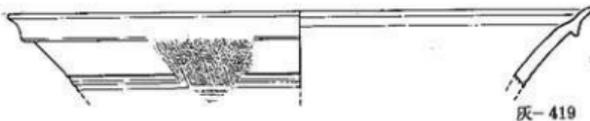
灰-415



灰-416



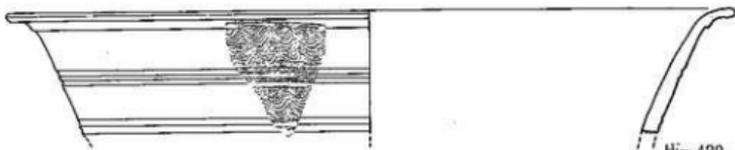
灰-417



灰-419

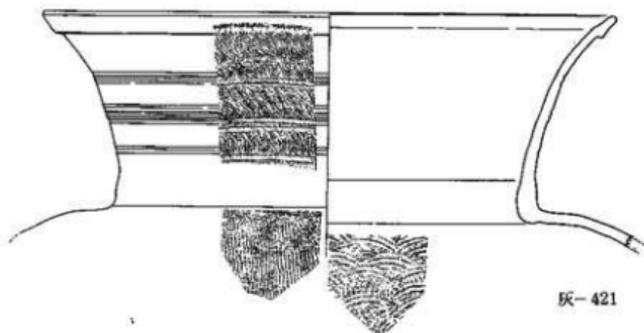


灰-418

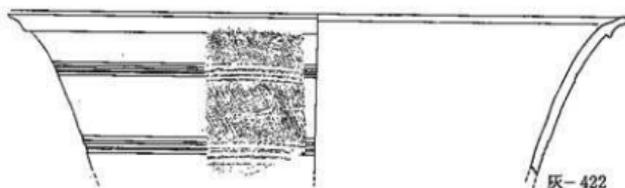


灰-420

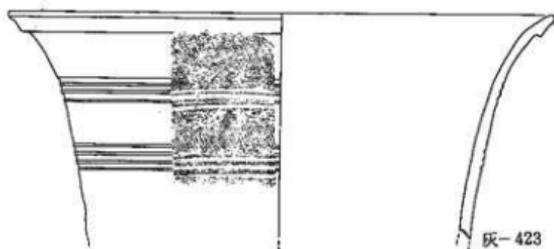
第69圖 下の北区出土遺物実測図⑩(1/4)



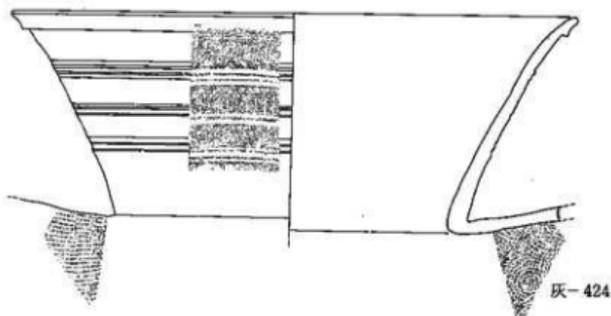
灰-421



灰-422

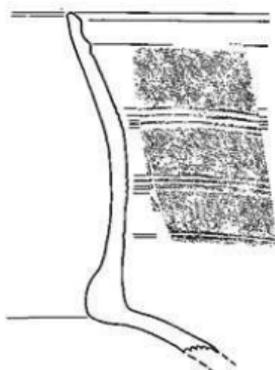


灰-423

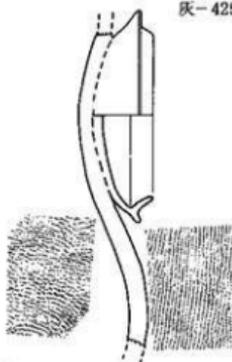


灰-424

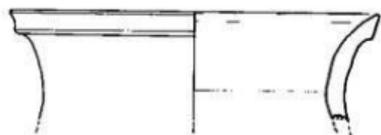
第70図 下の北区出土遺物実測図① (1/5)



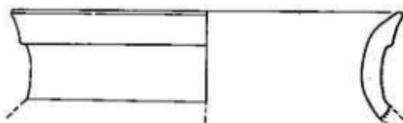
灰-425 a(1/4)



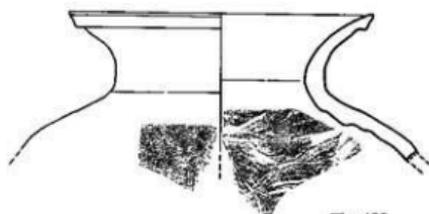
灰-425 b(1/4)



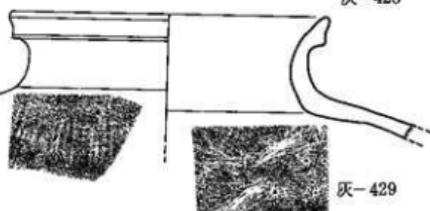
灰-426



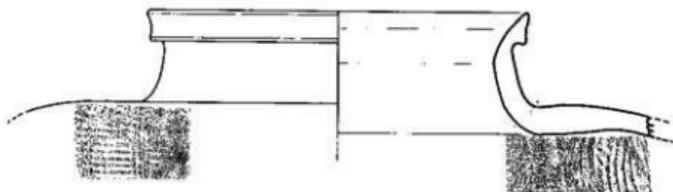
灰-427



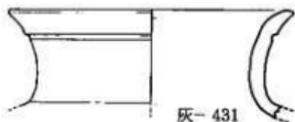
灰-428



灰-429



灰-430

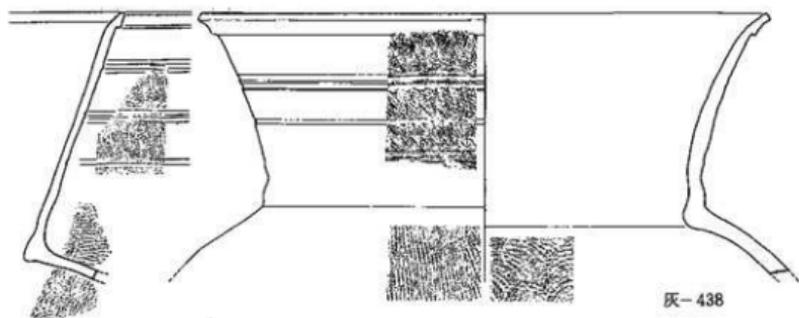


灰-431



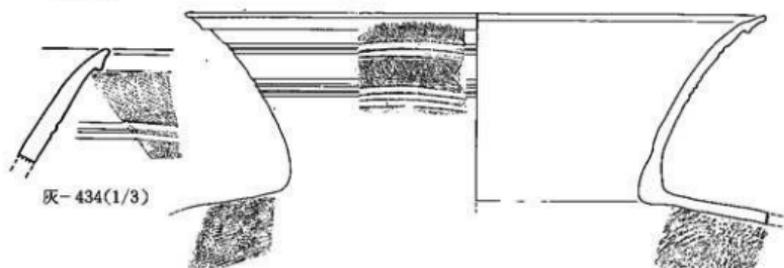
灰-432

第71図 下の北区出土遺物実測図⑧(1/3)



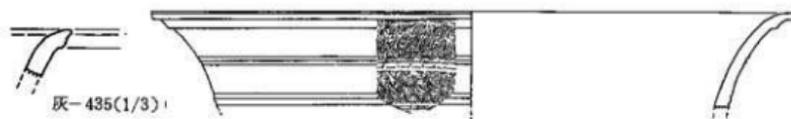
灰-433

灰-438



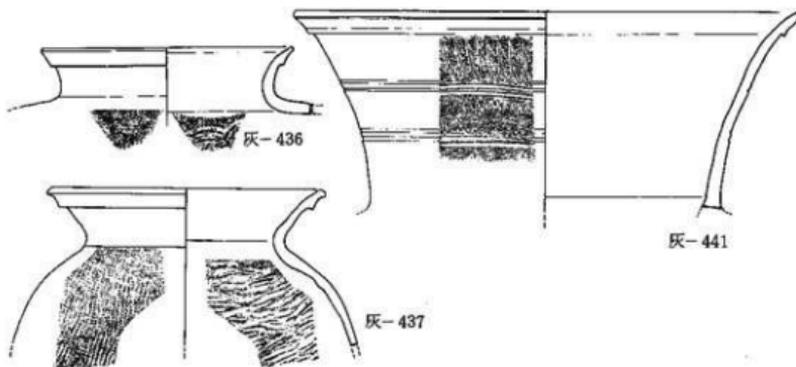
灰-434(1/3)

灰-439



灰-435(1/3)

灰-440

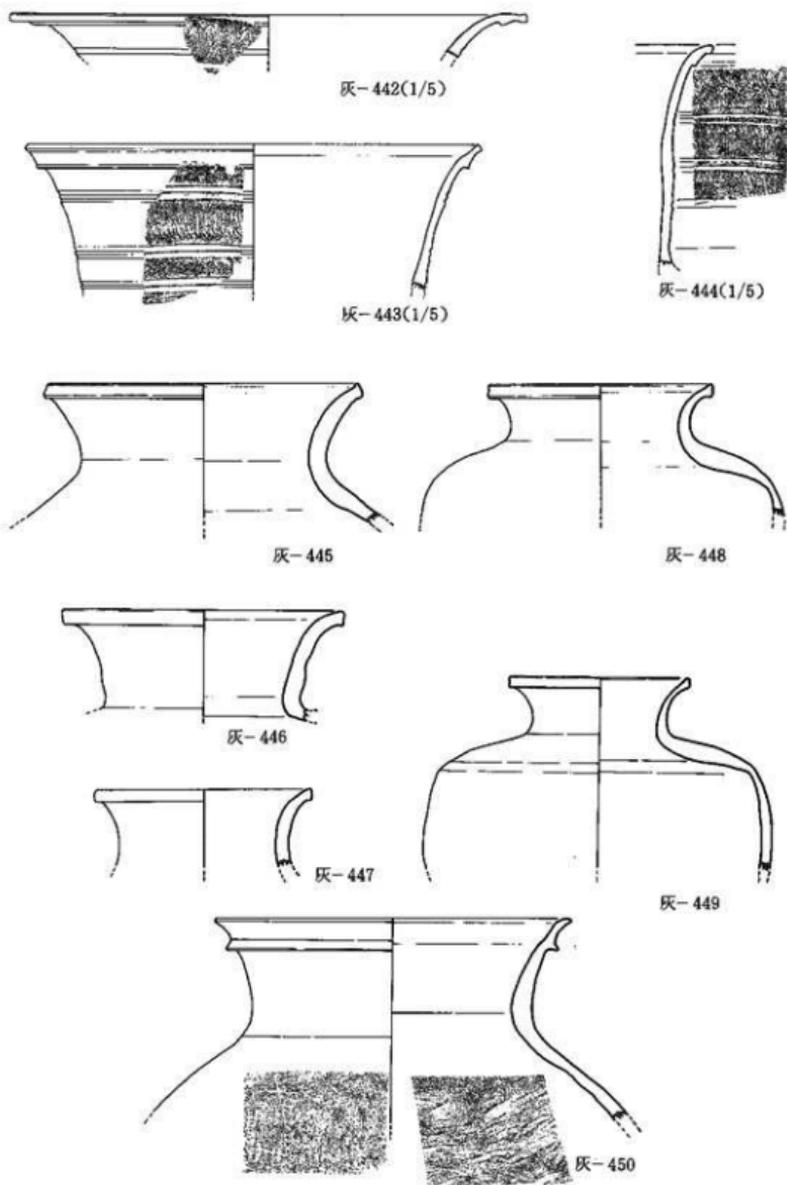


灰-436

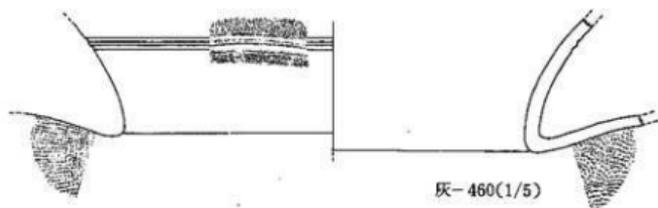
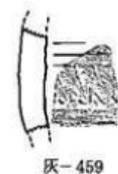
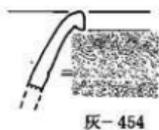
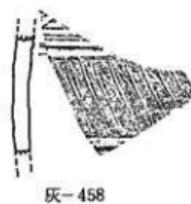
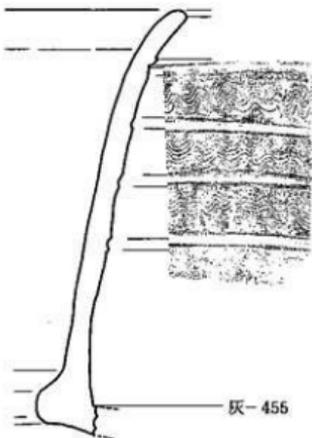
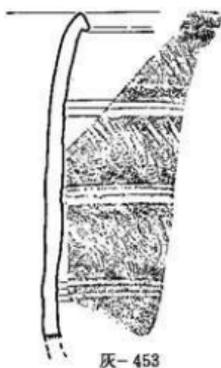
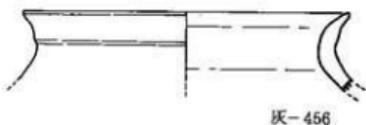
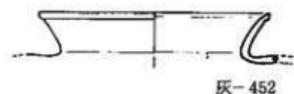
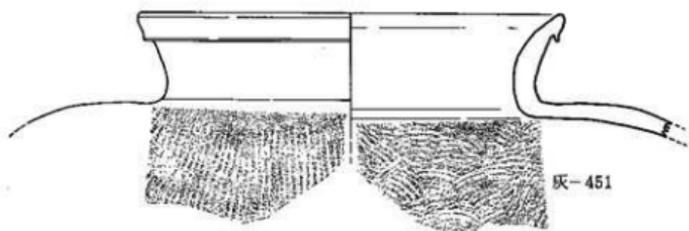
灰-437

灰-441

第72図 下の北区出土遺物実測図⑨(1/5)



第73図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)



第74図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)

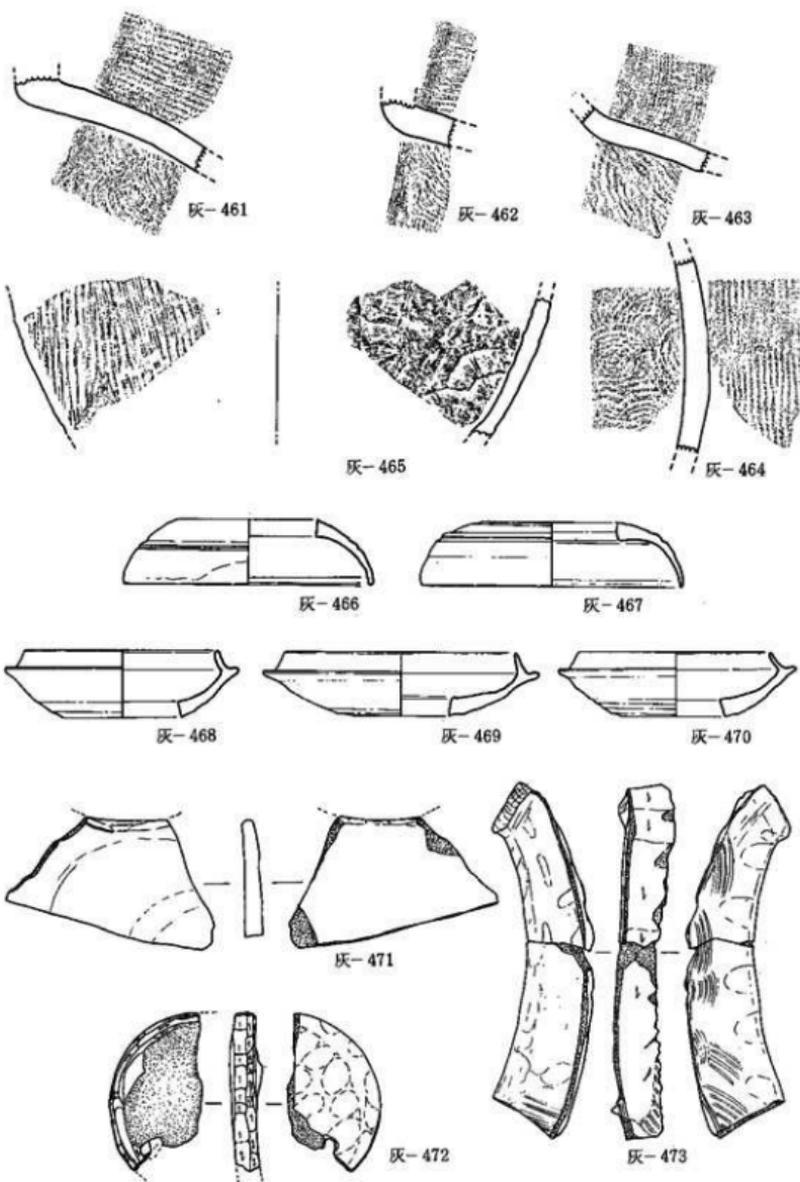
無蓋高環（灰-34, 35）と有蓋高環（灰-36~38）が計5点、4・5号窯跡や（灰-1~4）と同じ特徴を持つ甕が13点（灰-39~51）、土師質の甕と思われる把手が1点（灰-52）、土師質の土玉が1点（灰-53）、であった（第42~44図）。

上の南区

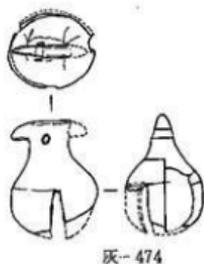
(3)層では出土遺物は1点もなかった。

(1)層では甕が1点（灰-54）であったが、小片のために詳細は不明である。(2)層では常滑焼きの甕が1点（灰-81）と須恵器の甕が1点（灰-82）、(2)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏蓋が1点（灰-55）、天井部が篋切りで口縁端部が短く直立し輪状や擬宝珠のつまみを付ける坏蓋が4点（灰-57, 59, 61, 62）、天井部が回転糸切りで同様な特徴を持つ坏蓋が3点（灰-56, 58, 60）、（灰-5）と同様な特徴を持つ皿が6点（灰-63~68）、底部が回転糸切りで緩やかに内弯しながら立ち上り口縁端部が屈曲する坏が2点（灰-69, 70）、やや外方に張り出すがしりした高台を持ち底部が糸切りの坏が3点（灰-71~73）、2段透しを持つ高坏の脚部（灰-75）、底部外周縁に低い高台を有し底部を糸切りで切り離す壺（灰-74）、頸部から直線的に口縁部に立ち上がる直口壺（灰-76）、口縁部が急激に外反する鍋（灰-78）、口縁部が外反し端部が上方に摘まみ上げられた甕（灰-77）、器種不明のもの（灰-79）、須恵器の把手（灰-80）、石製紡錘車（灰-83）、黒曜石製の石鏝（灰-84）が各1点、であった（第45・46図）。

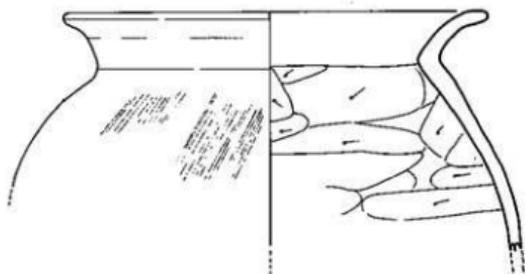
(4)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏蓋と坏身が2点（灰-85, 86）、（灰-30）と形態的特徴が同じ坏身が1点（灰-87）、（灰-56, 58, 60）と同様な特徴を持つ坏蓋が3点（灰-88~90）、（灰-69, 70）と同様な特徴を持つ坏が4点（灰-91~94）、底部が篋切り（灰-95）や回転糸切りで同上の特徴を持つ坏の重ね焼きのセットが4点（灰-95~98）、（灰-71~73）と類似する高台を持つ坏が2点（灰-99, 100）、（灰-74）と同様な特徴を持つ坏（灰-101~104）やこの特徴を有する坏の重ね焼きのセット（灰-105）が計5点、4・5号窯跡と同じ特徴を持つ高坏（灰-106）や透しのない高坏（灰-107）の脚部が計2点、底部が平坦な甕（灰-108）、くの字に屈曲する頸部から外方に緩やかに立ち上がる口縁部を持つ広口壺（灰-109）、同様な頸部から短く立ち上がる口縁部を持つ短頸壺（灰-110）、同様な特徴を持つ小型壺（灰-112）や（4-43）と類似する壺の口縁部（灰-111）が各1点、くの字に屈曲する頸部から短く立ち上がり口縁部が単純なつくりの甕（灰-113~115）や甕の頸部片（灰-117~119）が計6点、（灰-78）と極似する鍋が1点（灰-116）、それに土師質の甕の脚端部が1点（灰-120）、であった（第47~49図）。



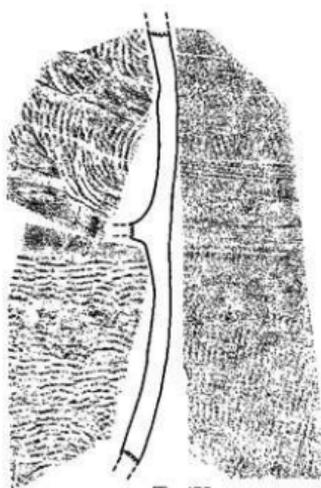
第75図 下の北区出土遺物実測図②(1/3)



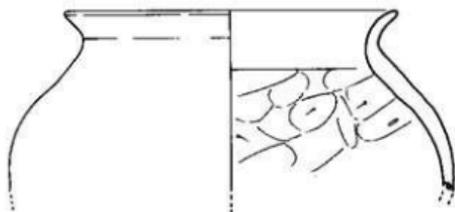
灰-474



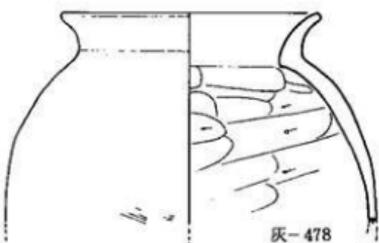
灰-476



灰-475



灰-477

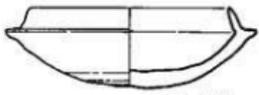


灰-478

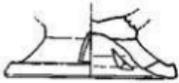
第76図 下の北区出土遺物実測図③(1/3)

(5)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ环身が3点(灰-121~123)、(灰-30, 87)と同様な特徴を持つ环身が1点(灰-124)、(灰-75)と極似する脚部に底の浅い环部を持つ高环が1点(灰-125)、4・5号窯跡や(灰-42)等と同じ特徴を持つ甕が3点(灰-126~128)、(灰-80)と同じ須恵質の把手が1点(灰-129)、であった(第50図)。

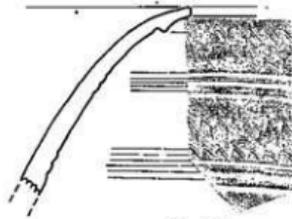
(6)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ环蓋と环身が計6点(灰-130~135)、(灰-71~73)と同様な特徴を持つ环が1点(灰-136)、篋削りの底部にくの字に屈曲する



灰-479



灰-480



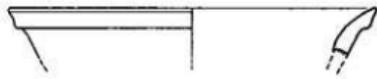
灰-481



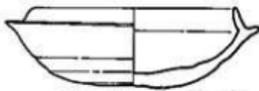
灰-482



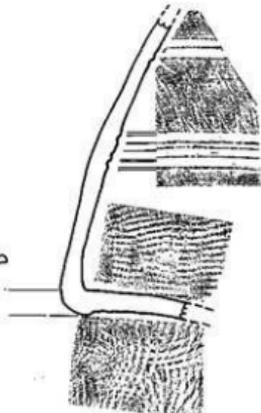
灰-483



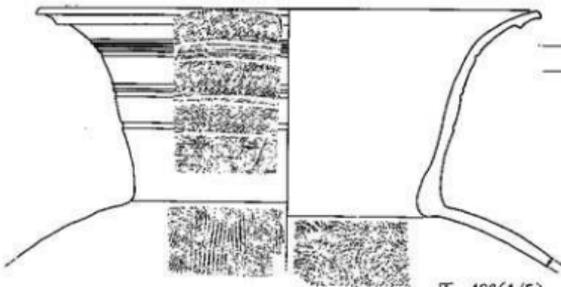
灰-484



灰-485



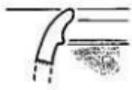
灰-489



灰-486(1/5)



灰-487

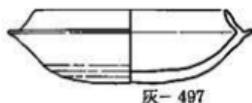
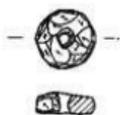
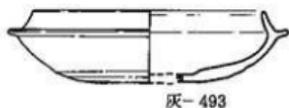


灰-488



灰-490

第77図 下の北区出土遺物実測図㉔(1/3)



第78図 下の南区・C-1区出土遺物実測図(1/3)

頸部を持つ壺が1点(灰-137)，(灰-2)と同じ特徴を持つ甕の口縁部が1点(灰-138)，であった(第51図)。

その他は流れ込みの土器群を指すが，(灰-124)と同じ特徴を持つ环身(灰-139～141)や4・5号窯跡と同様な特徴を持つ高环(灰-143～145)や甕(灰-148～150)が各3点，高台を持つ环(灰-142)や短頸壺(灰-146)や底部が平坦な甕(灰-147)が各1点，この他に土師器の甗が1点(灰-151)と壺が3点(灰-152～154)，土師質の土製支脚が2点(灰-155，156)，であった(第52・53図)。

下の北区

(1)層では^{土師}埴鉢が1点(灰-157)，直口壺が2点(灰-158，159)，甕が1点(灰-160)，須恵質の土馬が1点(灰-161)，円孔を持つ窯道具が1点(灰-162)，であった(第54図)。

(2)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つと思われる甕が3点(灰-177～179)，で

あった(第56図)。(2)層では(灰-88)と同じ坏蓋(灰-163)や(灰-63~68)と同じ皿(灰-164)や(灰-94)と同じ坏(灰-165)が各1点、(灰-71~73)と同じ特徴を持つ坏が4点(灰-166~169)、(4-43)と同じ甕口縁部(灰-173)や4・5号窯跡と同様な特徴を持つ甕が計6点(灰-170~175)、(灰-80, 129)と同一個体と思われる須恵質の把手が1点(灰-176)、であった(第55図)。このうち、(灰-171)と(灰-175)は同一個体の可能性がある。

(3)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ須恵器(灰-180~184, 186~189)の他に(灰-69)と同じ坏が1点(灰-185)、であった(第56図)。(4)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つと思われる坏蓋(灰-190~194)・坏身(灰-195, 196)・高坏(灰-206)・甕(灰-208)が計9点、6号窯跡と同様な特徴を持つ坏が1点(灰-202)、(灰-185)等と同じ坏が2点(灰-200, 201)、(灰-101~104, 166, 167)と同様な高台を持つ坏が3点(灰-203~205)、甕の口縁部片(灰-207)や須恵質の小玉(灰-209)が各1点、であった(第57図)。

(5)層では多量の遺物が出土し、実測できたのは計269点に上った(第58~76図)。これらのうち、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ須恵器の他に、(灰-199)と同様なつまみを持つ坏蓋が3点(灰-356~358)、透かしのない高坏の脚部が1点(灰-377)、(6-8)と同一個体と思われる破片が1点(灰-465)等、明らかに時期が下がるとと思われる遺物もある程度認められた。

(6)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏身(灰-479)や甕(灰-481~483)の他に、高さは低いが明瞭な三角形透かしを三方に穿つ高坏の脚部(灰-480)や(灰-405)と同様な口縁部(灰-484)も認められた。また、その他は「排土中出土」等のように層的に判断がつかなかったものであるが、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏身(灰-485)や甕(灰-486~490)が計6点、であった(第77図)。

下の南区

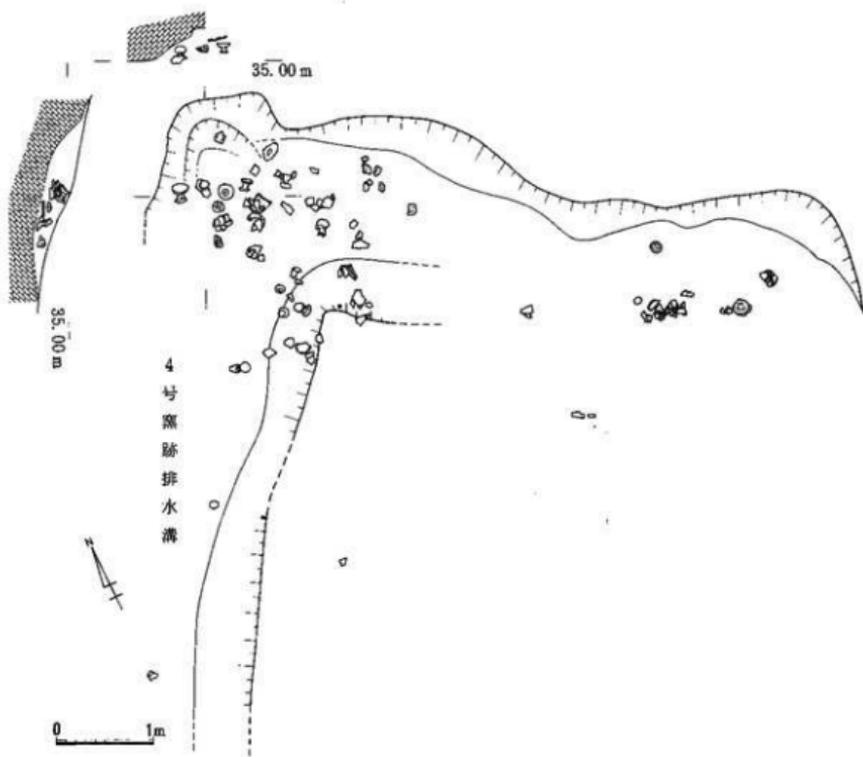
(2)層では(灰-203)と同じ高台が付き体部に把手が付く坏が1点(灰-491)、須恵質の紡錘車が1点(灰-492)、(6)層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏身が1点(灰-493)、(灰-201)と同じ坏が1点(灰-494)、の計4点であった(第78図)。

C-1区

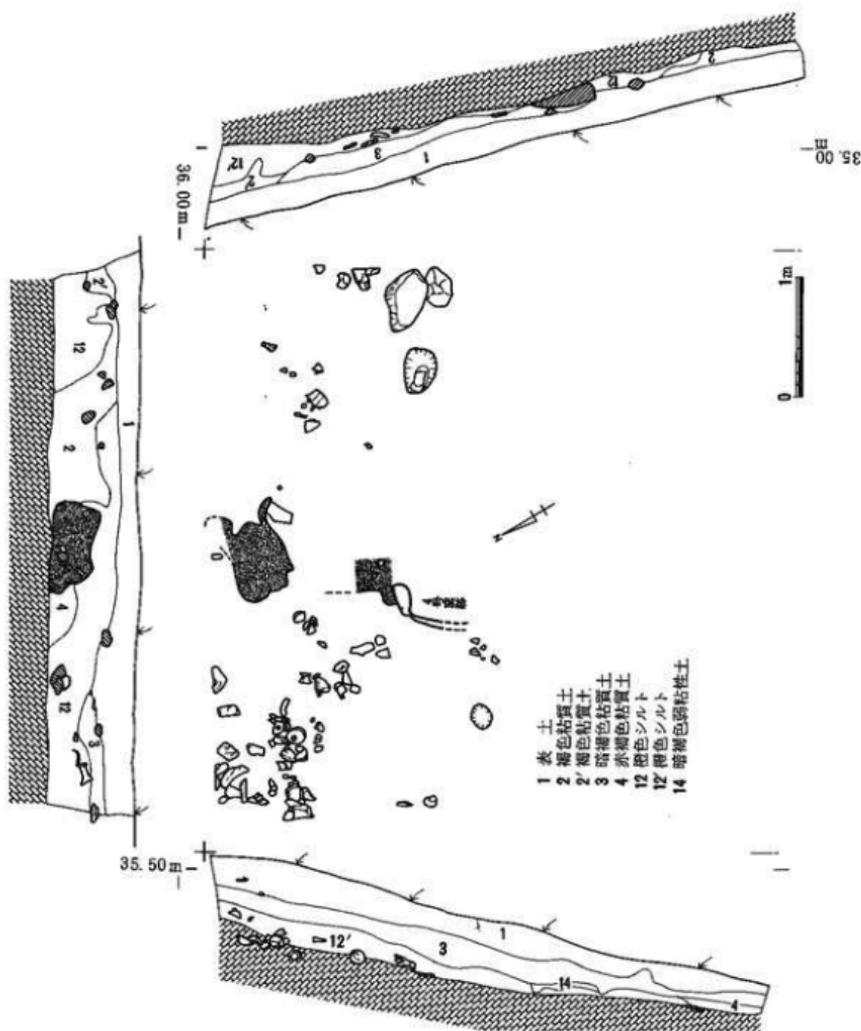
(1)層からのみ出土したが、このうち実測できたのは、4・5号窯跡と同様な特徴を持つ坏身が3点(灰-495~497)と器種不明が1点(灰-498)、の計4点であった(第78図)。

(6) 北部調査区

本調査区は、4・5号窯跡北側に崖をもって画されている標高33.7~37.8mを計る緩斜面で、本窯跡群の精査に伴って周辺に遺構が認められ、多量の遺物が出土した。よって本調査区全体を5×5mのグリッドで覆い、南から北へア、イ、ウ…、東から西へ1、2、3…とし、各々をア-1区、イ-1区等と呼称した(第2図)。このうち、特に遺構・遺物を集中的に検出した箇所についての概要を述べる。



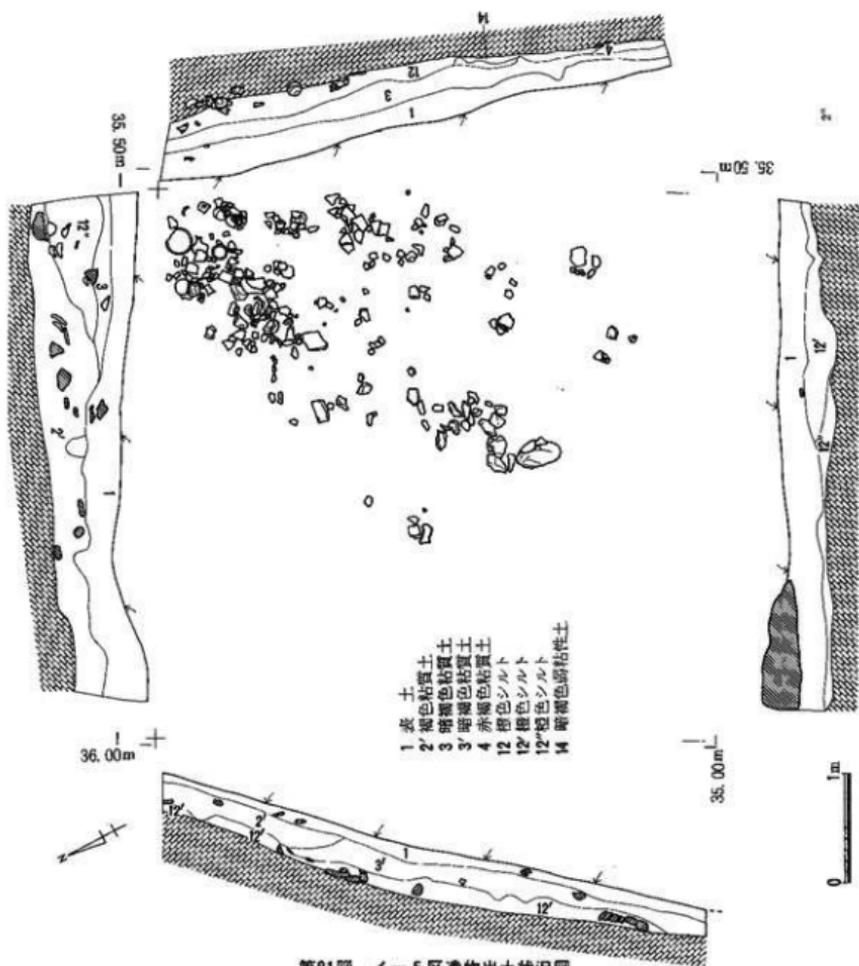
第79図 イ-3~5、ウ-4、5区遺物出土状況図



第80図 イー4区遺物出土状況図

ア、ア-4・5、イ-3~5、ウ-4・5区

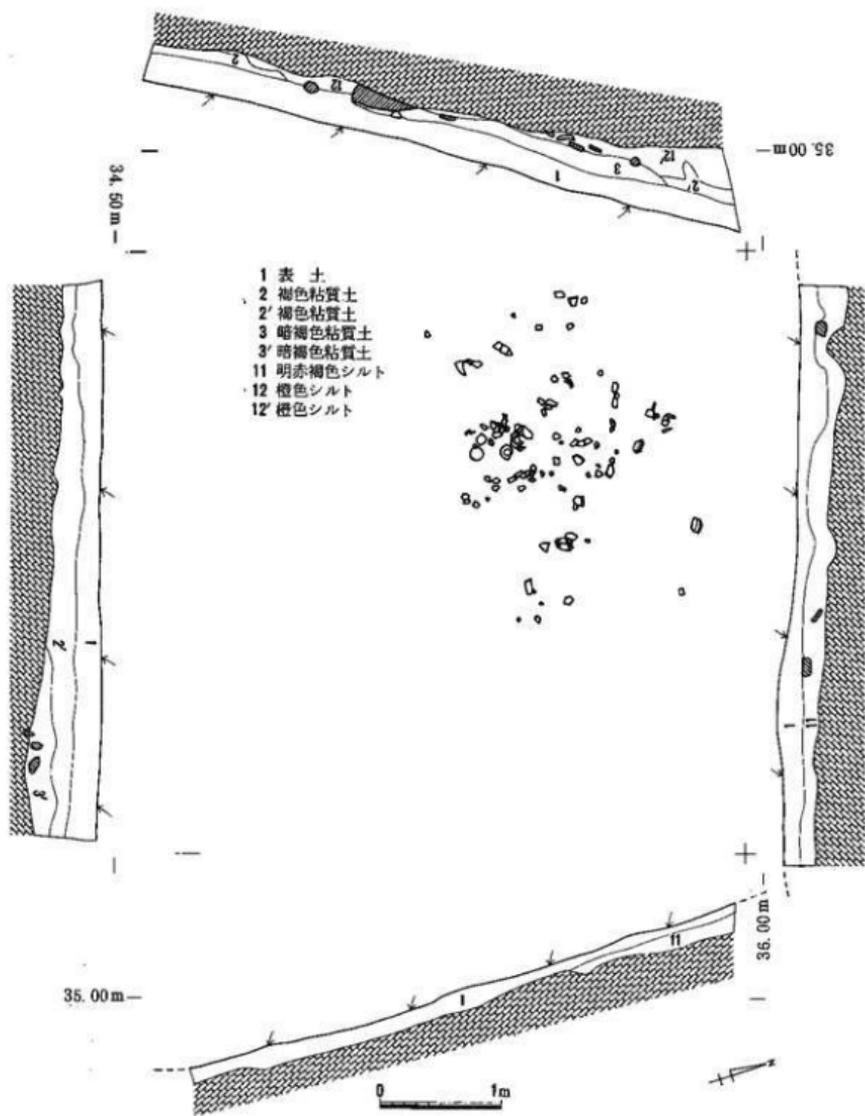
本区は4号窯跡の焼成部・煙道部・排水溝部分を指し、本窯跡関連の遺構以外はア-5区で焼土を1箇所検出したただけであった(袋とじ図①)。一方、4号窯跡のところで指摘したよ



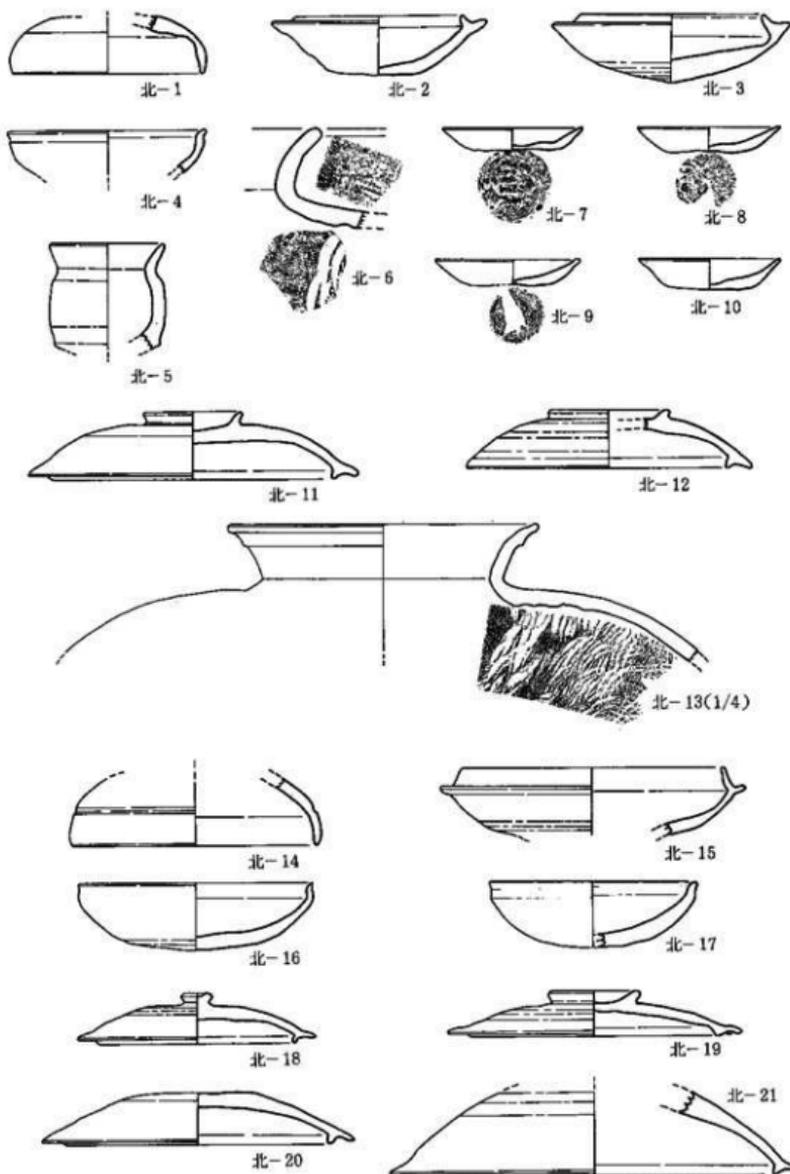
第81図 イー5区遺物出土状況図

うに、煙道部に本窯跡を壊すような形で楕円形の穴が認められ、これが本窯跡の廃棄(若しくは放棄)後に穿たれたと仮定すれば、この大穴も一つの遺構となる。しかし大穴内の埋土から出土した遺物を見ると本窯跡と同様な特徴を持つものばかりであり(第95図)、大穴の性格は不明と言わざるを得ない。よって、ここでは一応紹介のみに留めておく。

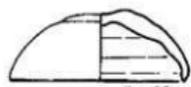
土層は第79～82図に示すように、第1層(表土)・第2層(褐色粘質土)・第6層(暗褐～黒褐色粘質土)・第4層(赤褐色粘質土)の順に堆積していた。このうち、第6



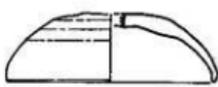
第82図 イ-3区遺物出土状況図



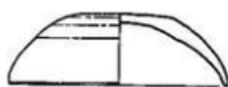
第83図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図①(1/3)



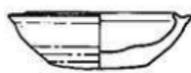
北-22



北-23



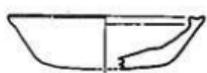
北-24



北-25



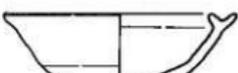
北-26



北-27



北-28



北-29



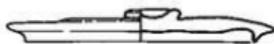
北-30



北-31



北-32



北-33



北-34



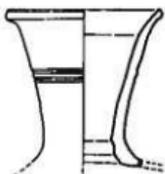
北-35



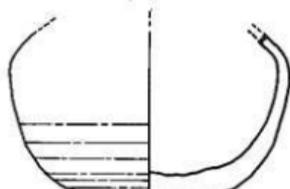
北-36



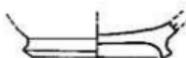
北-37



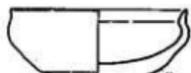
北-40



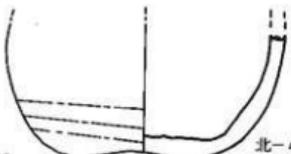
北-42



北-38

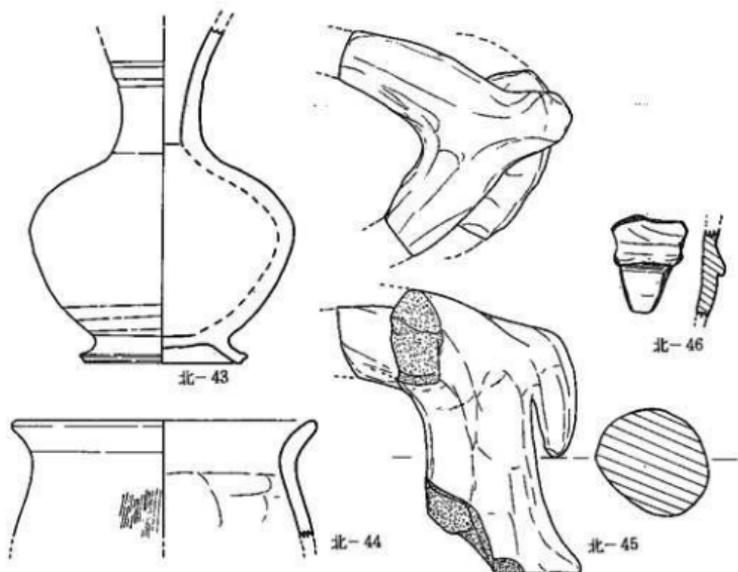


北-39



北-41

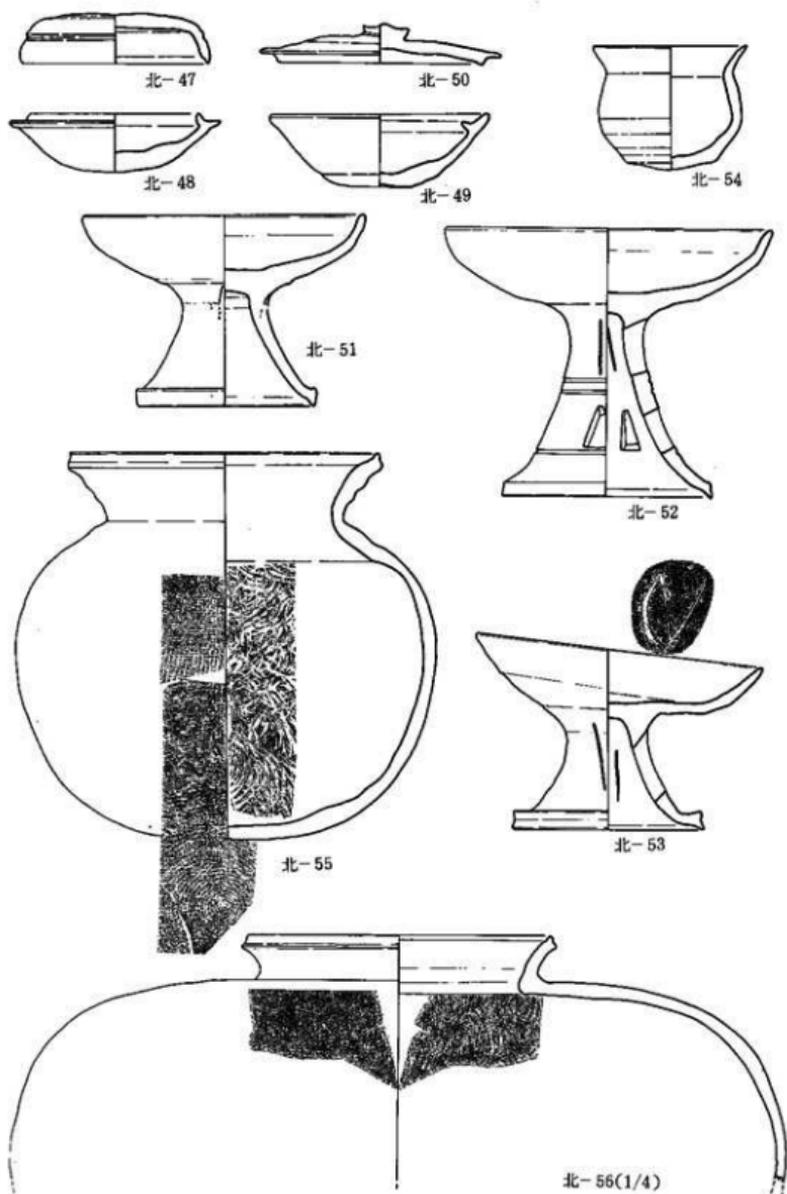
第84図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図②(1/3)



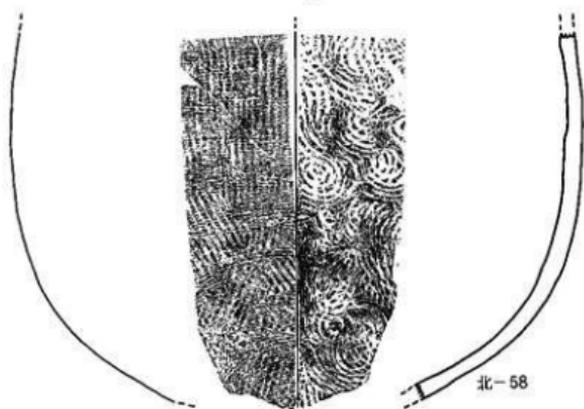
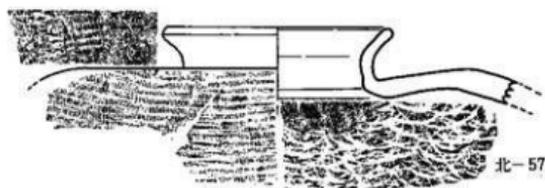
第85図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図③(1/3)

層は4号窯跡と排水溝を囲むように広い範囲に分布しており、その厚みは5~25cmを計った。また、排水溝を中心とする所で多種多量の遺物を検出した。

出土遺物をみると、第1層では4・5号窯跡と類似する特徴を持つ環蓋(北-1)や环身(北-3)の他に(灰-30)と同じ环身(北-2)、(灰-69・70)と同じ口縁部を持つ环(北-4)等が出土した。この他に中世と思われる土師質土器が1箇所から重なった状態で出土しており、このうちの4点を掲げた(北-7~10)。第2層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋环(北-14・15)の他に(北-4)と同じ环(北-16・17)、(灰-199)と同じ环蓋(北-18~21)が出土した(第83図)。第3層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ环身(北-30)の他に天井部の周辺に1条か2条の篋削りを施し天頂部が篋切り未調整でやや小形の环蓋(北-22~24)、(北-2)と同じ环身(北-25~29)、(北-18~21)と同じ环蓋(北-31~33)、(北-16・17)と同じ环(北-39)、(灰-99, 100)と同じ环(北-35~38)、土師器の甕(北-44)や土製支脚(北-45)等が出土した(第84~86図)。第4層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ蓋环(北-59・69)、高环(北-105~107・109)の他に、(北-22)や(北-25~29)と同じ蓋环(北-60~68, 70~84)、(北-18



第86図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図④(1/3)



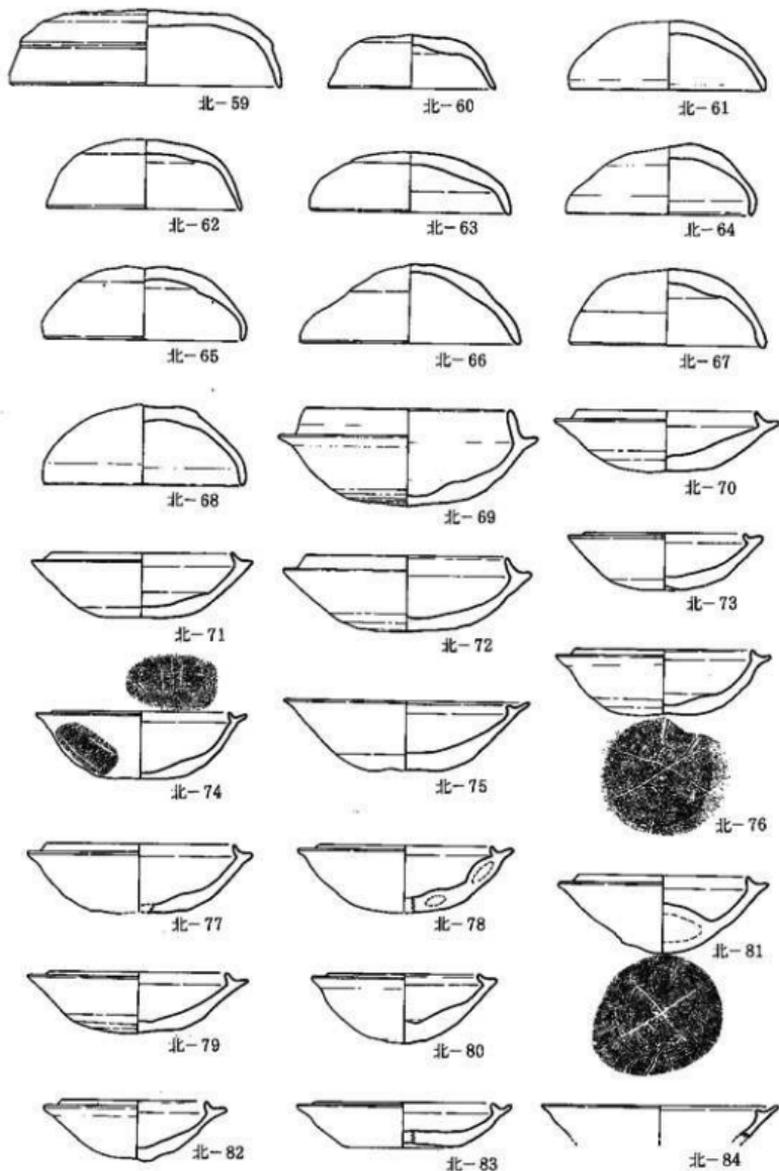
第87図 アー4・5、イー3～5、ウー4・5区出土遺物実測図⑤(1/3)

～21)と同じ环蓋(北-85～92)、(北-35～39)と同じ环(北-93～104)、(北-53)と類似する高环(北-108・110～114)等の須恵器、甗(北-130)等の土師器(北-130～136)が認められた(第88～93図)。第6層では4・5号窯跡と同様な特徴を持つ环蓋(北-137)の他に(北-85)等と同じ蓋(北-143)、(北-77)等と同じ环身(北-138・142)等の須恵器、土師器の甗片(北-139)が認められた(第94図)。

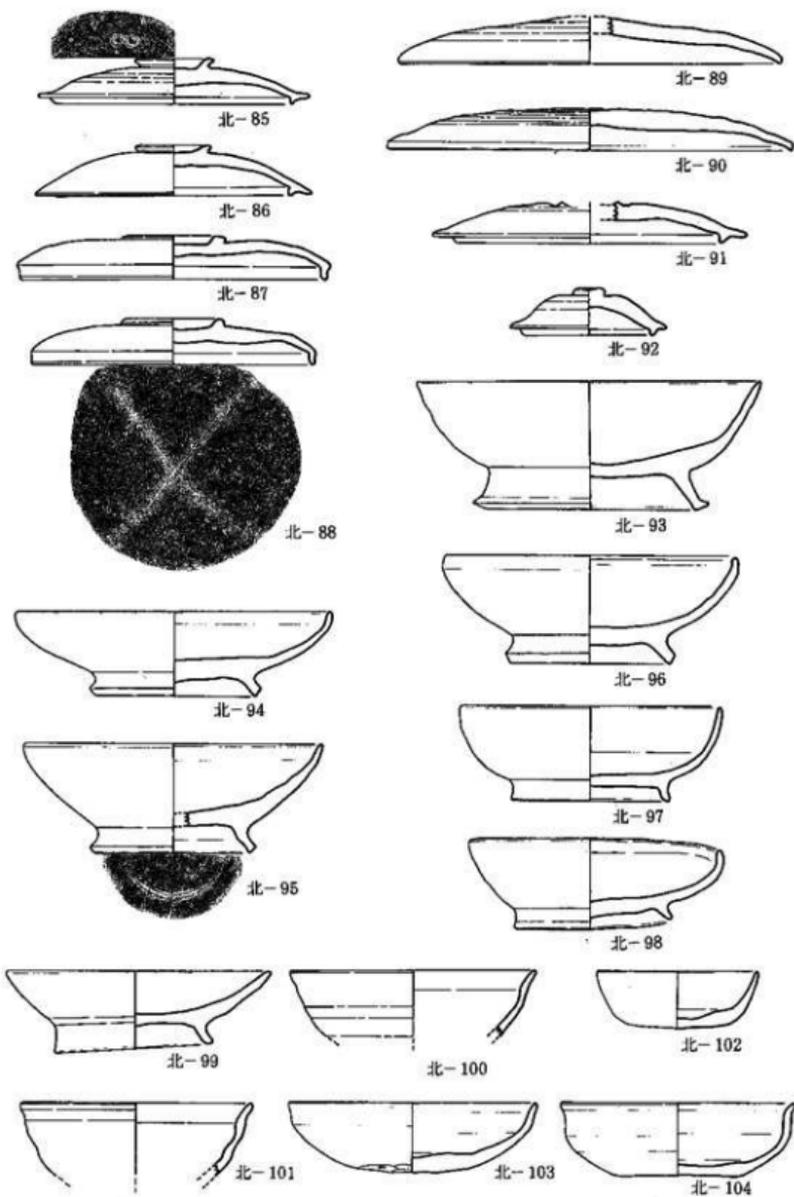
イ、アー2・3区

本区は4号窯跡の東側に位置を占め、すぐ南側の崖で東部地区のa・b区と接している。本区の遺構としては、南端部分の第4層で甗が据付けの状態で見出されただけであった(第96・97図)。甗内の埋土は焼土、炭、黄・桃・灰色ブロックを含む暗赤褐色土で、焚き口と思われる箇所では集中的に焼土が認められた(第101図)。本遺構は本調査区内でも数少ない“原位置”を保っていたものである。

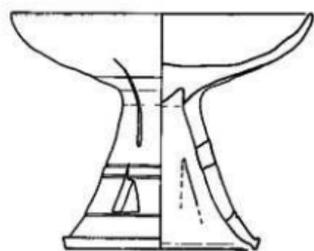
一方土層は、既述のアー4・5、イー3～5、ウー4・5区と同じ層順で堆積していたが、第6層を本区では第3層とした。そして第3・4層はほぼ全域に互って認められた



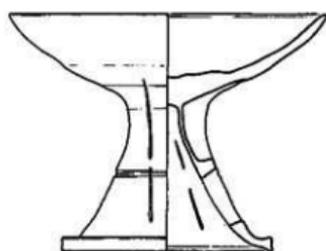
第88図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図⑧(1/3)



第89図 ア-4・5, イ-3~5, ウ-4・5区出土遺物実測図①(1/3)



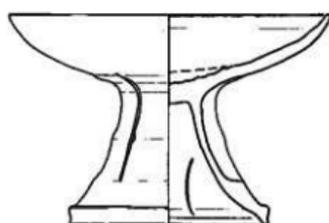
北-105



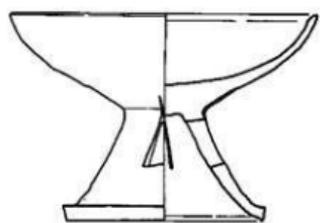
北-106



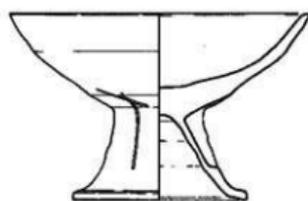
北-107



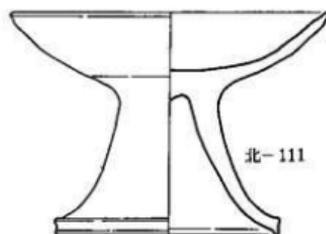
北-108



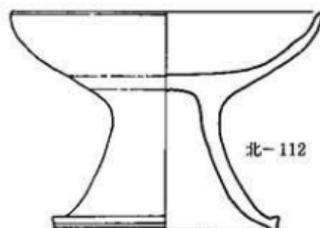
北-109



北-110

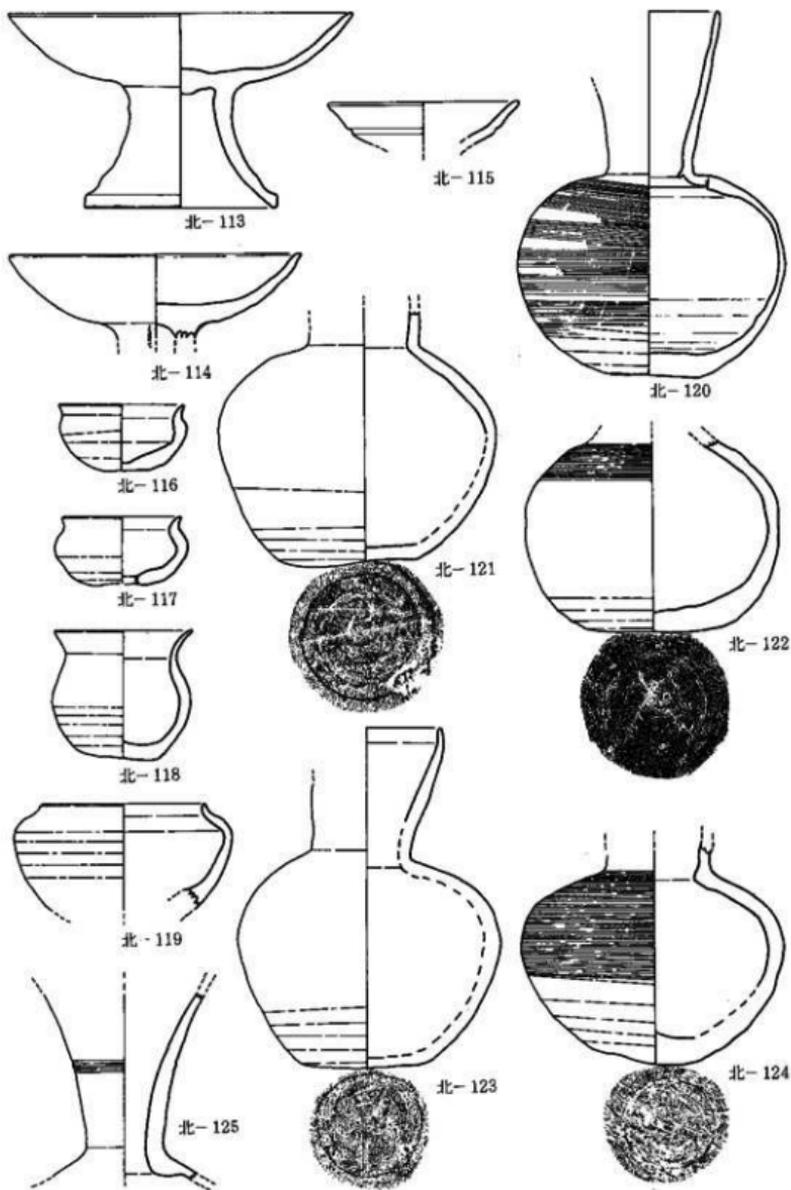


北-111

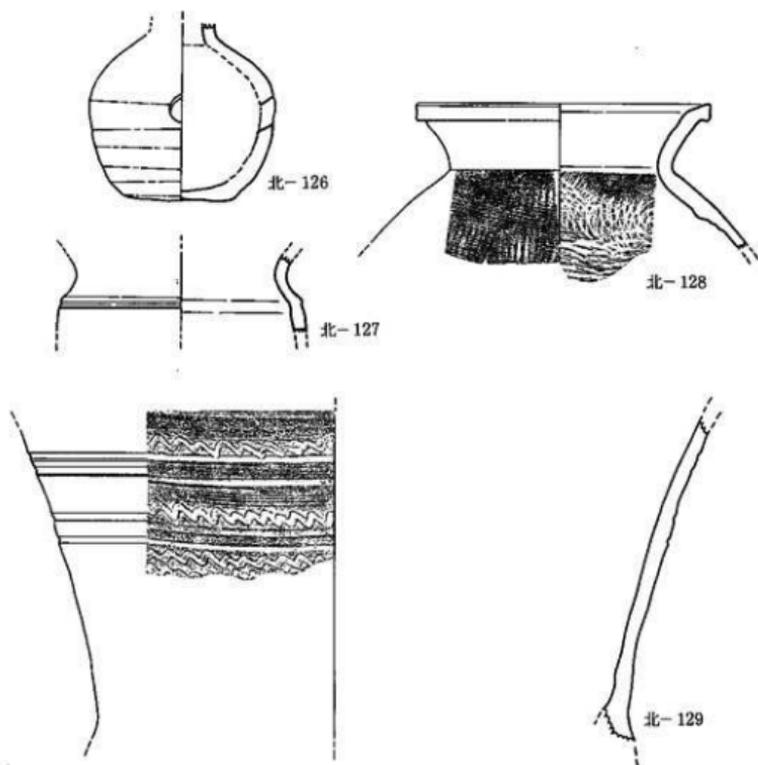


北-112

第90図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図⑥(1/3)



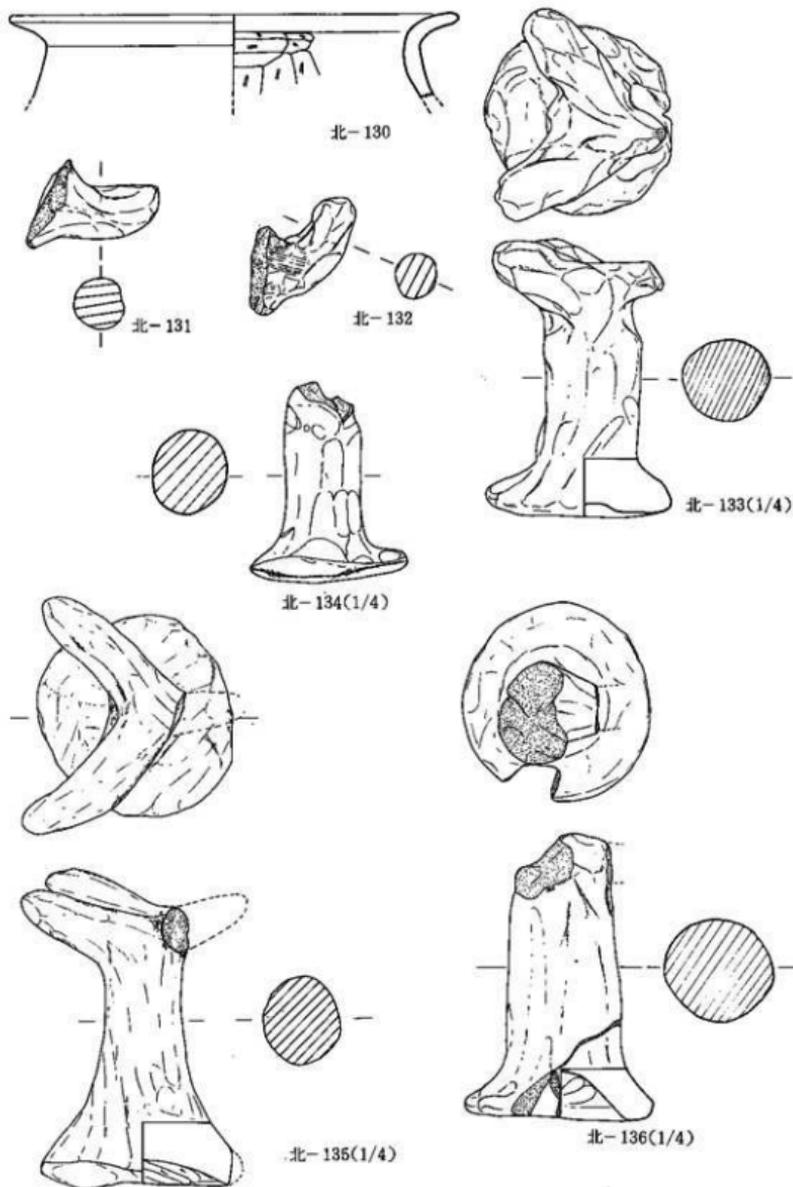
第91図 アー・5 イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図③(1/3)



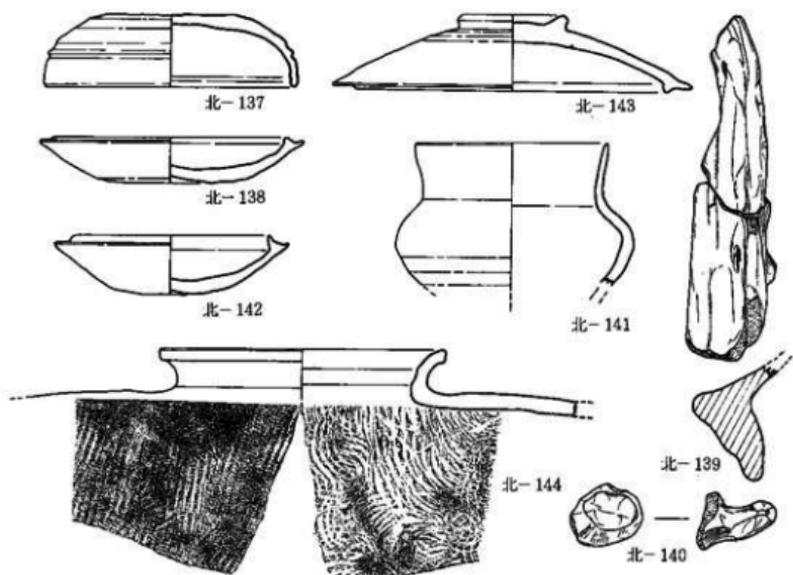
第92図 アー4・5、イー3～5、ウー4・5区出土遺物実測図①(1/3)

(第96・97図)。

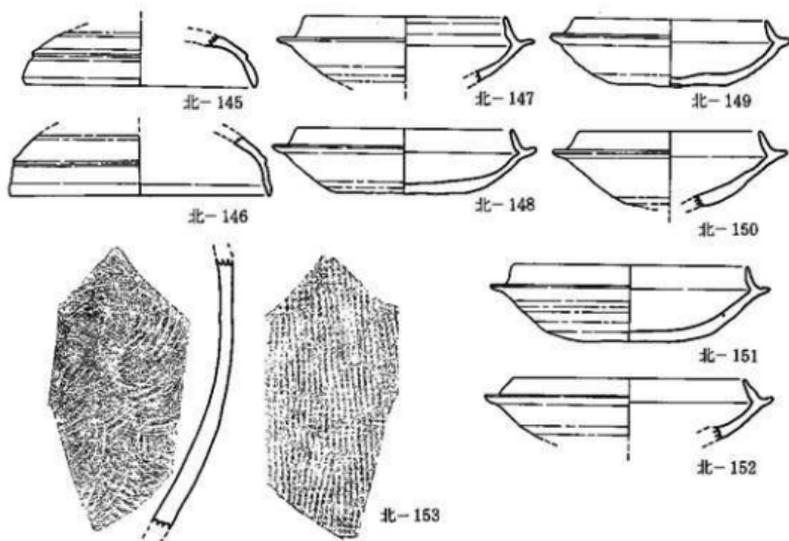
出土遺物を見ると、第1層では陶棺と思われる破片(北-154)が認められた。第2層には遺物はなかった。第3層は最も多く遺物が出土した層位で、アー2区では全面に亘って、アー3区ではやや東側に偏在して出土した。4・5号窯跡と類似する特徴を持つ蓋坏(北-155～158・160)、(北-70～84)と同じ坏身(北-159・161)、(灰-85～92)と同じ蓋(北-162～168)、(北-93～104)と同じ坏(北-169～171)、壁の頸部を再使用した窯道具(北-178)等の須恵器や甕(北-179)や鍋(北-180)等の土師器の他に、「寛永通宝」と読める古銭貨(北-184)、黒曜石の石鏃(北-185)等、計31点が認められた(第98～100図)。据付けの竈(北-192)が出土した地山直上の第



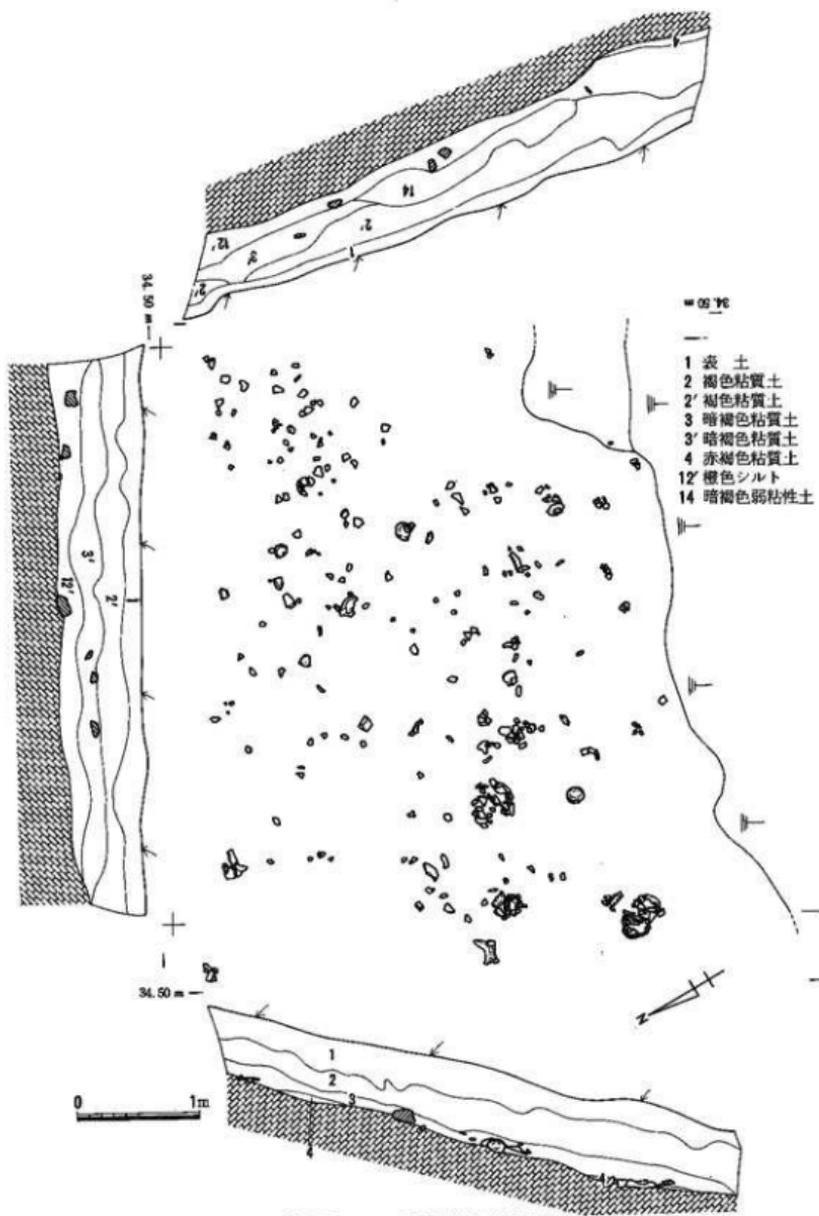
第93図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図①(1/3)



第94図 アー4・5, イー3~5, ウー4・5区出土遺物実測図(1/3)



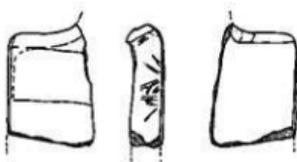
第95図 4号窯跡煙道部陥没内出土遺物実測図(1/3)



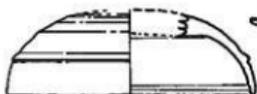
第96図 ア-2区遺物出土状況図



第97図 アー3区遺物出土状況図



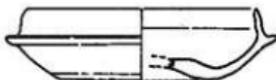
北-154



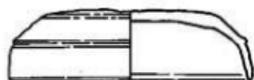
北-155



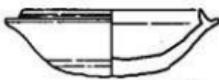
北-158



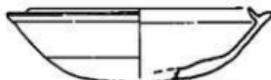
北-160



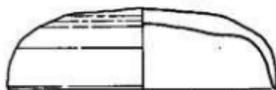
北-156



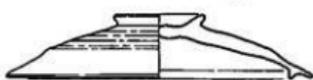
北-159



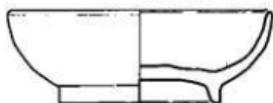
北-161



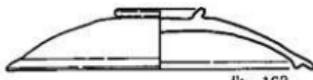
北-157



北-162



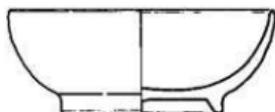
北-169



北-163



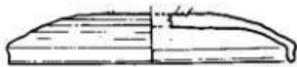
北-164



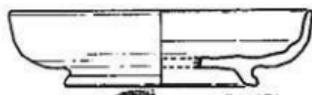
北-170



北-165



北-166



北-171

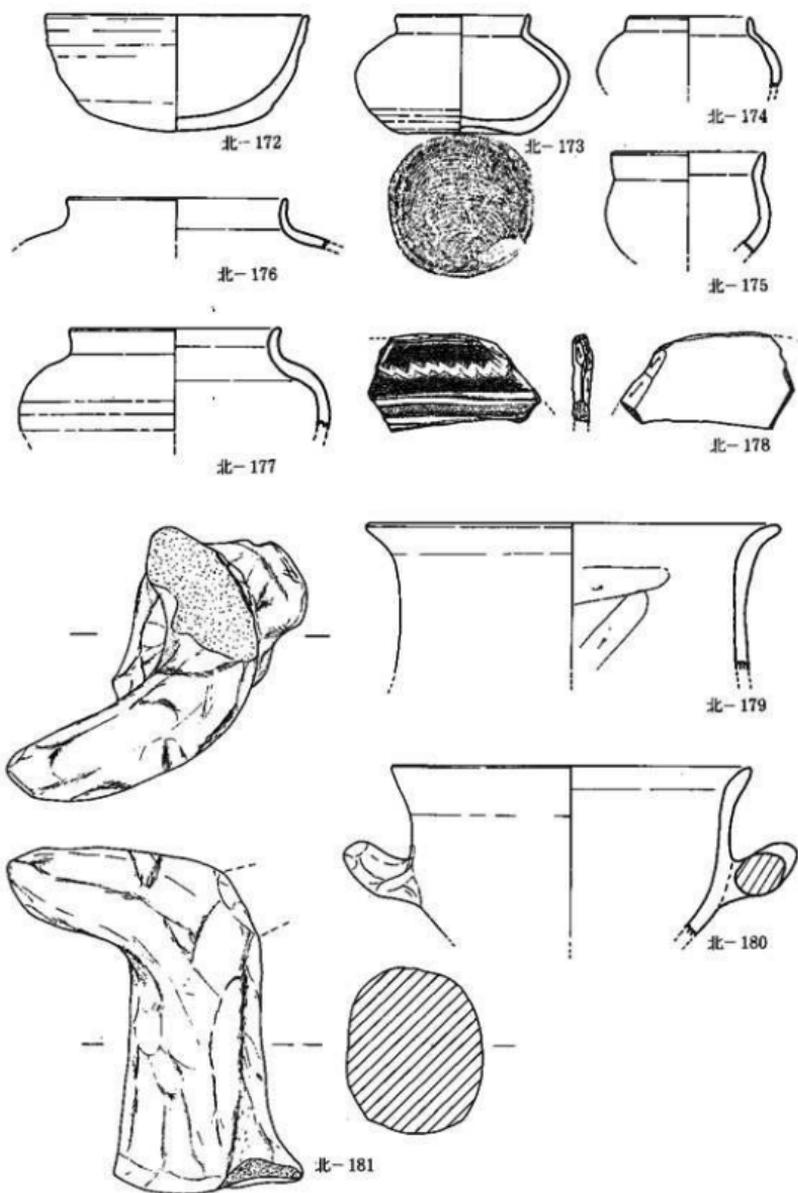


北-167

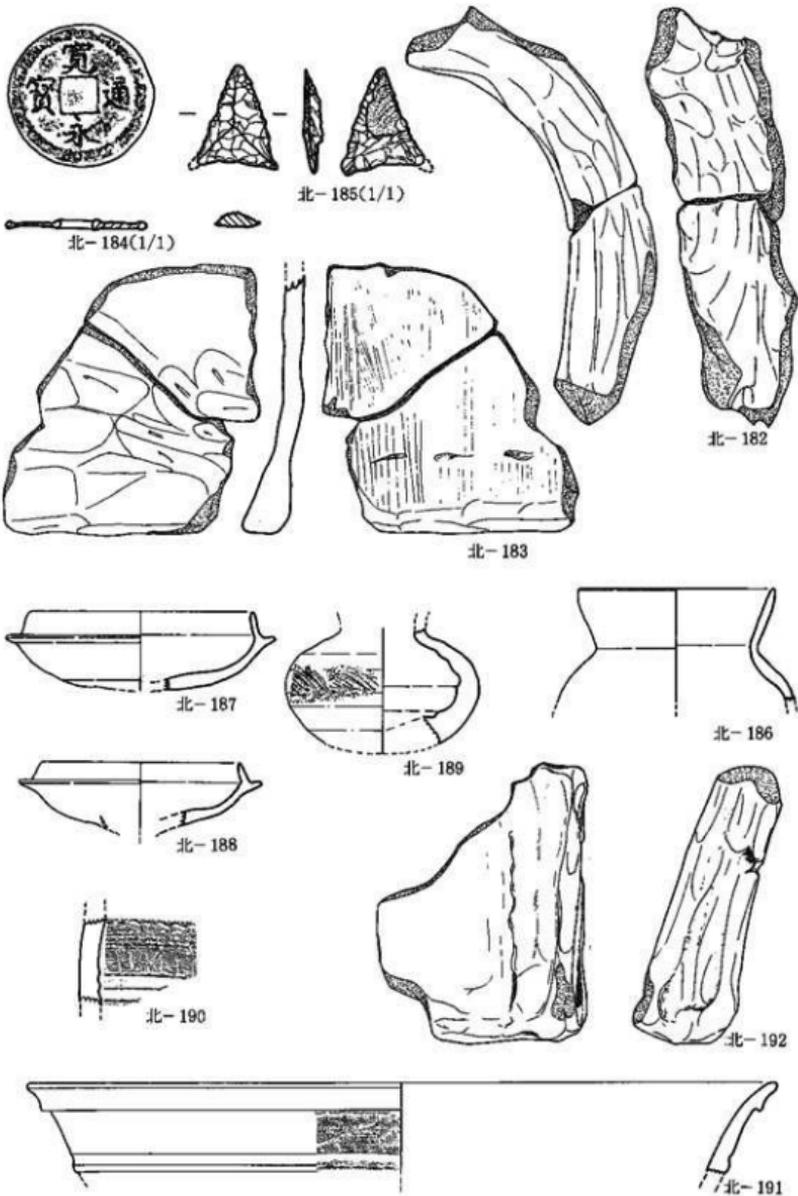


北-168

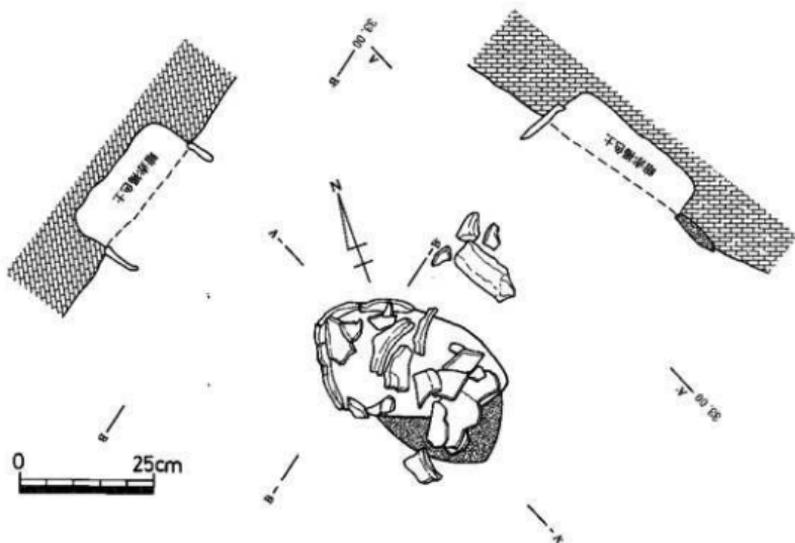
第98図 アー2・3区出土遺物実測図①(1/3)



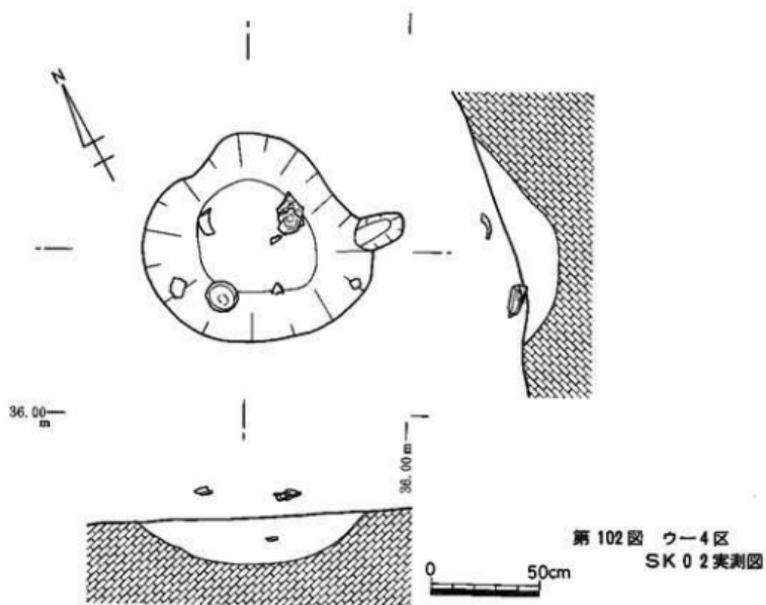
第99図 ア-2・3区出土遺物実測図②(1/3)



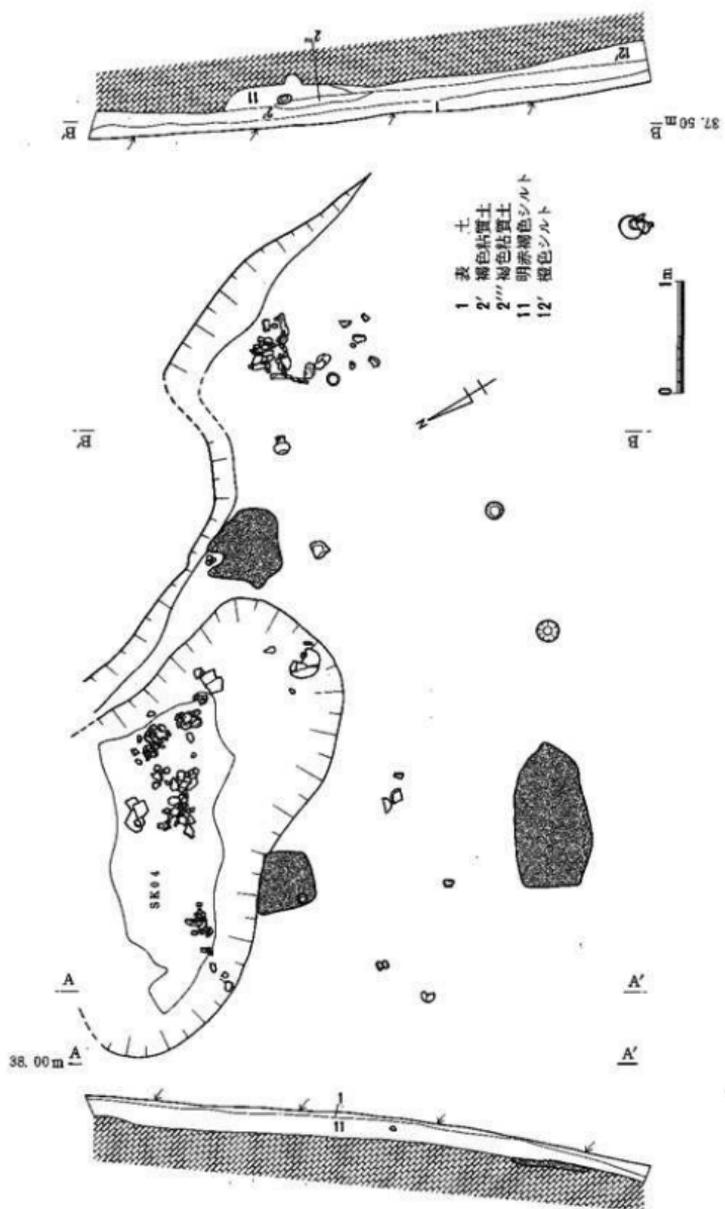
第100図 ア-2・3区出土遺物実測図③(1/3)



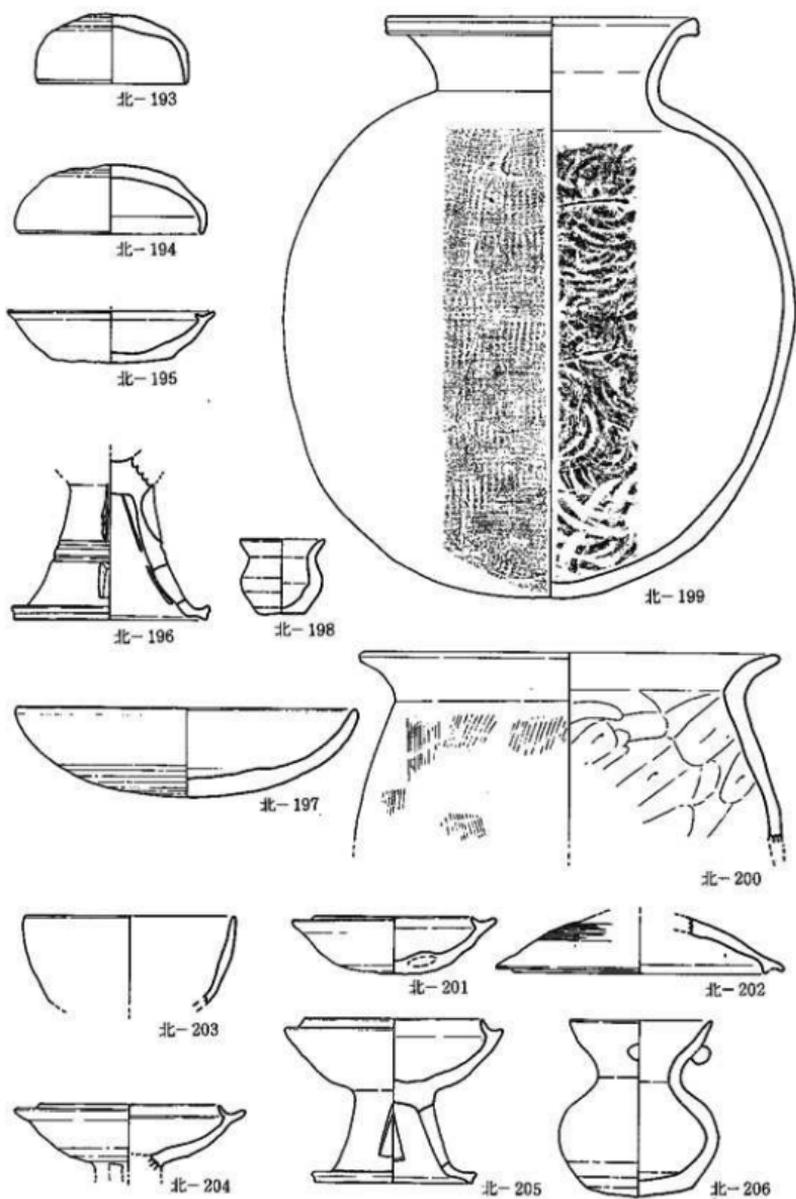
第101図 アー2区カマド実測図



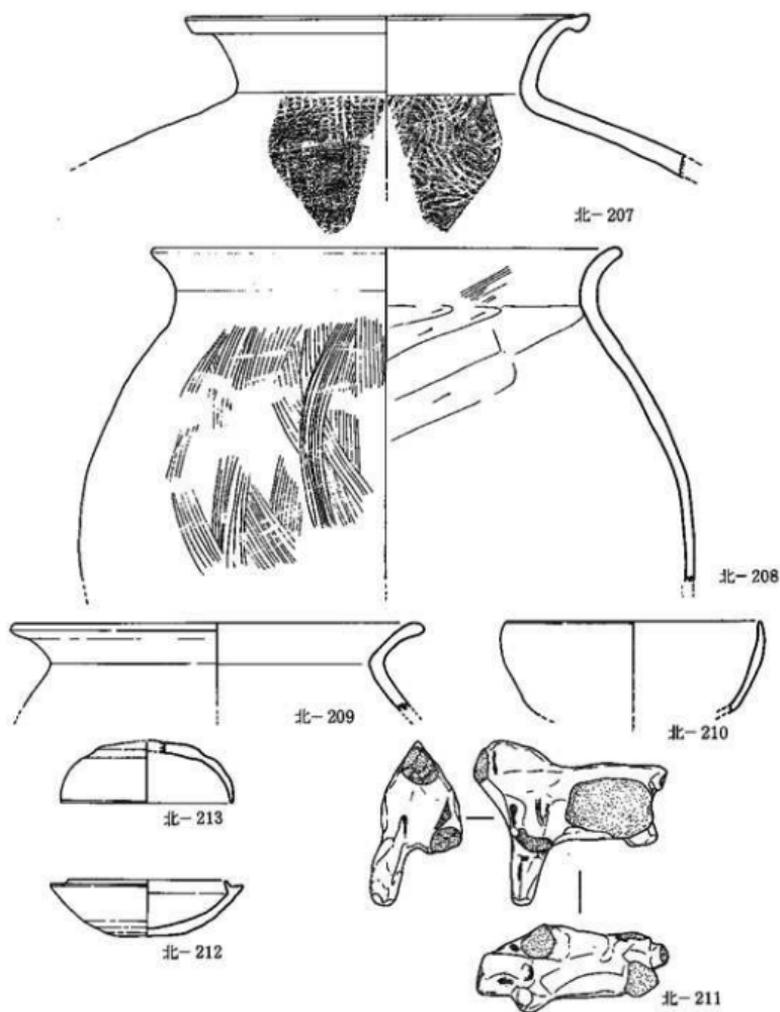
第102図 ウー4区
SK 02実測図



第 103 図 エ-3・4 区遺物出土状況図



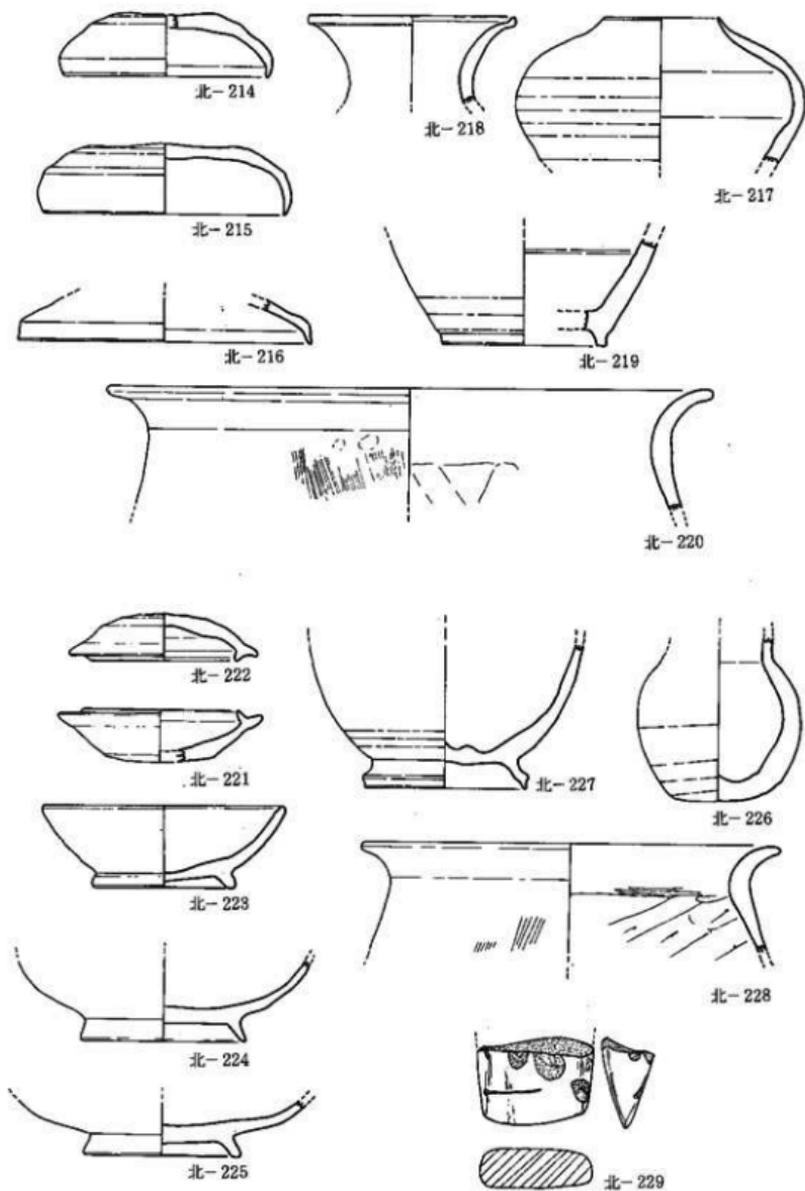
第 104 圖 エ-3・4 区出土遺物実測圖 (1/3)



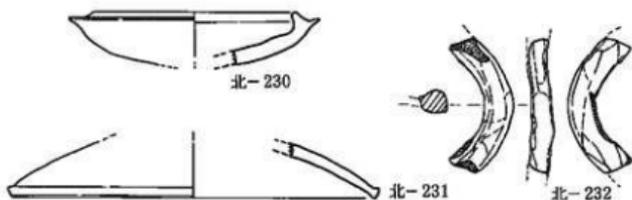
第 105 図 エー 3～5 区出土遺物実測図 (1/3)

4 層では、4・5 号窯跡と同様な特徴を持つ須恵器 (北-187～191) が認められた (第 100 図)。

また出土遺物の接合関係を検討した結果、本区出土の破片が他区出土のそれと接合したことが分かり、その遺物を第 107 図に掲げた。(北-230) は、4 号窯跡の排水溝東側 (イ



第106図 ア・イ-6, ウ-1・2区出土遺物実測図(1/3)



第107図 その他出土遺物実測図(1/3)

ー3区)の第3層出土の破片とアー2区第4層出土のそれが接合した坏身である。(北-231)も排水溝内出土の破片とアー2区第4層出土のそれが接合した蓋である。(北-232)はウー2区第1層出土の破片とアー3区第2層出土のそれが接合した窯道具である。

ウ、ウー4区

4号窯跡排水溝の北側に隣接する区で、第3層(褐色粘質土)面で径約1.0m、深さ約20cmを計る円形土壇(SK02)を1基検出し(第102図)、底には径5cm程の炭と焼土を確認した。また浮いた状態で坏身や壺の小片が若干出土した。

エ、エー3～5区

本調査区の最北端に位置し、第3層(赤褐色粘質土)面で楕円形の土壇(SK04)を1基、その周辺で焼土を3箇所と柱穴と思われるピットを2穴、検出した。土壇(SK04)は東西長約4.3m、推定南北長2.9m、深さ10cm前後を計るもので、この中から以下に述べる遺物が出土した。そして、約5.5mの長さを持つ低い段が本土壇の右側から南東方向へ伸びていた。更に、厚み7cm程の堅緻な焼土と少量の炭が本土壇の東端とこの段に挟まれる形で検出された。また本土壇の南端に接して別の焼土が、更にこの焼土から南へ約2m離れたところにも別の焼土が認められた。そしてこの南端の焼土の周辺で径7～9cm、深さ8～14cmを計るピットを2穴検出した(第103図)。

本土壇内とその周辺から若干の遺物が出土しており、(北-60～68, 70～84)と同じ蓋坏(北-194・195)、(北-105～107, 109)と同じ高坏(北-196)等の須恵器の他に土師器の壺(北-200)が土壇内より出土した(第104図)。土壇の周辺からは、上述と同様な須恵器の他に須恵質の土馬(北-211)などが出土した(第104・105図)。

オ、ウー1・2区

本区は本調査区の東北端に位置し、明確な遺構は検出できなかったが遺物が集中して出土した。第1層から(北-212)と同じ坏身(北-221)が出土した。第2層からは高台付きの坏(北-223～225)等の須恵器や土師器の壺(北-228)と共に始刃形磨製石斧(北-229)が出土している(第106図)。

カ、ア・イ-6区

本区は5号窯跡煙道部の北側に当たり、第2層（褐色～暗褐色粘質土）下層で南北長約2.2m、厚み約10cmを計る不整形の焼土を検出した。ここからは大小の礫と共に短頸壺（北-217）が出土した（第106図）。

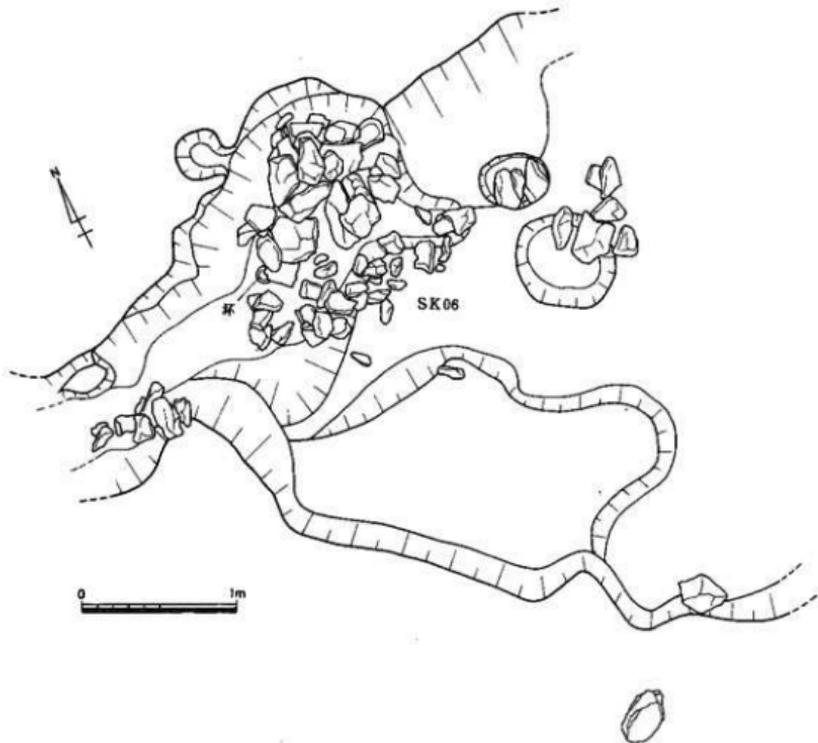
以上簡単であったが、北部調査区の概要を述べた。最後に若干のまとめをしておく。ア-2区第4層で土師質の甕が掘付けの状態出土し、同層出土の遺物も各々同じ特徴を持っていた。更に（北-230・231）が第4層に流れ込んだものとすれば、第4層は後世の攪乱を受けていないプライマリーな層と見なしても良い。更に遺物の出土状況や接合関係・器種関係を検討してみると、ア-2区の土師質の甕とエ-4区のSK04等が本調査区で攪乱されていない遺構と見なすことができ、殆どの層が攪乱を受けていた状況の中で重要であると思われる。何故ならば、ア-2区の第3層からは石鏃や古銭貨が、またウ-1区の第2層からは磨製石斧が出土した事実や、（北-230～232）の接合関係、各層毎の出土遺物の様相を検討してみると、上述のように殆どの層が攪乱されたことが言えるのではないだろうか。

(7) 東部調査区

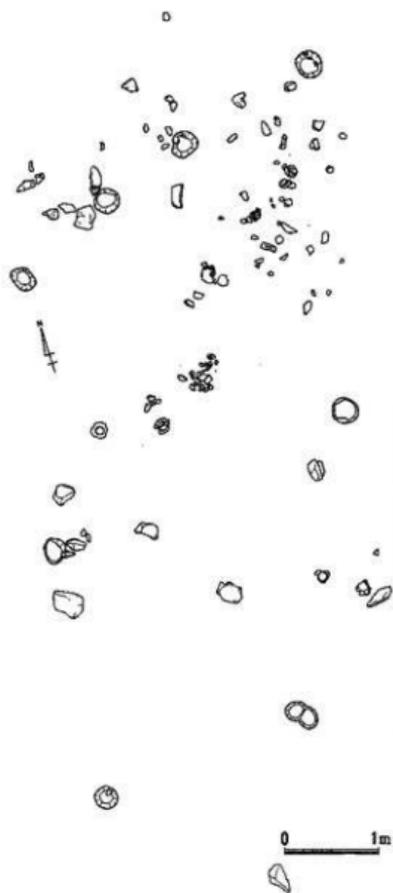
本調査区は4号窯跡の焚き口・燃焼部東側に位置しており、南北二つの崖により区画されている。そして八の字状に広がり、北から南へ緩やかな傾斜をなしている。既述のように、昭和61年度の調査で4号窯跡の焚き口・燃焼部の窯体規模が確認され中軸線が定まったことにより、これと平行に4.5 m間隔で4本の畦を設け、西より東へa・b・c・d・e区に便宜的に区画した。各区の遺構・遺物についての概要を以下に述べる。

ア、a・b区

第1層(表土)、第2層(茶褐色土)、第3層(明褐色土)には遺構はなかったが、北側崖下端付近で非常に堅緻な黒褐色土が認められ、その前面で幅 1.3×2.7 m、深さ0.6 mを計る不整形な溝状遺構を検出した(第108図)。そしてこの遺構内より高台付の坏(東-1・2)が、 45×20 cm \sim 15×10 cmの大きさの多数の礫と共に地山面より浮いた状態で出



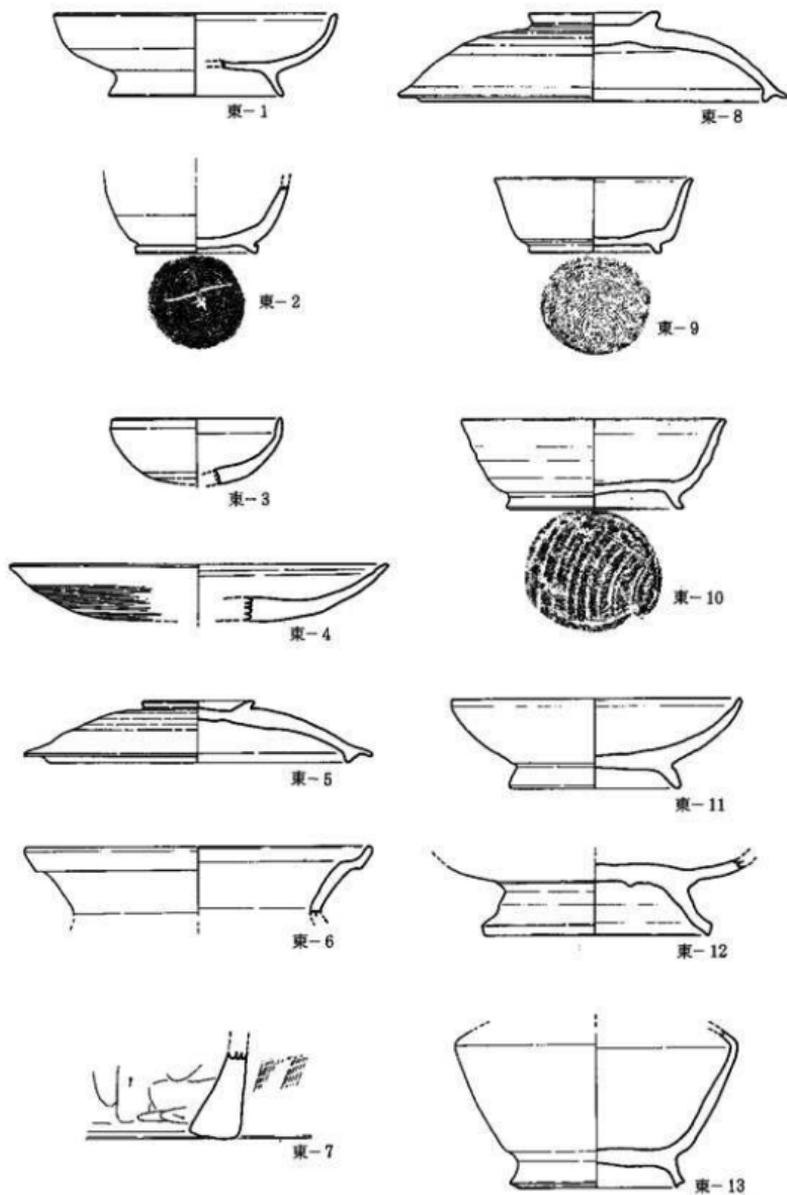
第108図 b区遺物出土状況図



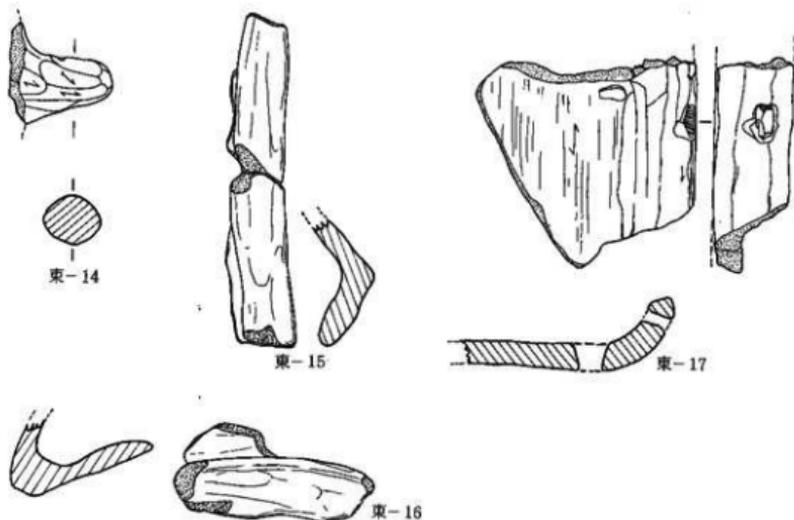
第 109 图 c 区遗物出土状况图



第 110 图 d 区遗物出土状况图



第 111 圖 b・c 区出土遺物実測圖 (1/3)



第 112 図 c 区出土遺物実測図 (1/3)

土した (第 111 図)。

またこれらの隙はあたかも溝に蓋をする目的を持ってそこにおかれた状況を呈していた。

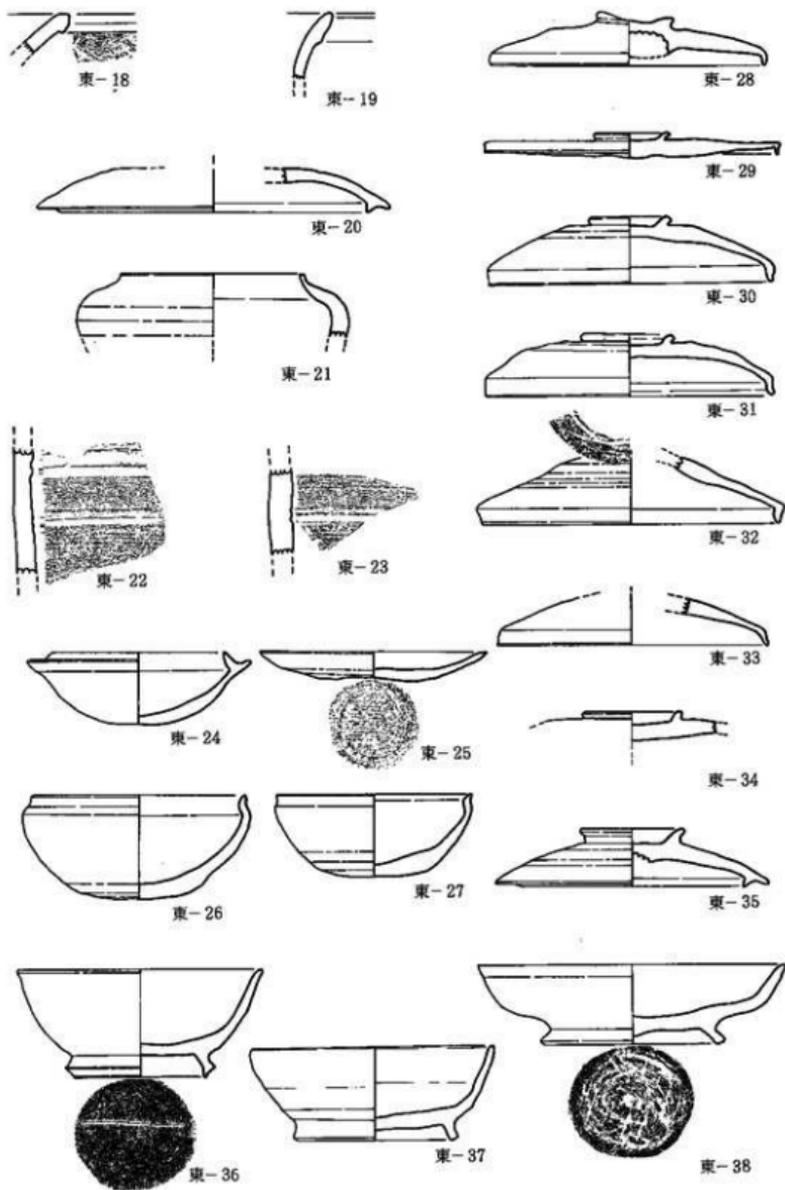
イ, c 区

第 1 層での出土遺物はなかったが、第 2 層 (茶褐色土) では輪状つまみ付の蓋 (東-5)、甕 (東-7) 等数点が出土した (第 111 図)。第 3 層 (明褐色土) 面で北側に 4 穴、南側に 4 穴の柱穴と思われるビットを検出し、これと共に多量の遺物が出土した。北側のビットは径 20~28cm、深さ 14~30cm、柱心距離 1.0~1.5m を計り、ほぼ一直線に並んでいた (第 109 図)。そして、このうちの 1 穴には窯体片が流入していた。しかしこれに対応するビットがなく、建物とすることはできなかった。そしてこの周辺には 20×25cm~5×10cm 大の礫が散在していた。また遺物はビットが並ぶ方向にほぼ平行して出土し、これらの中には高台付の坏 (東-9~12) 等の須恵器の他に陶棺 (東-17)、甕 (東-15・16) 等が認められた (第 111・112 図)。

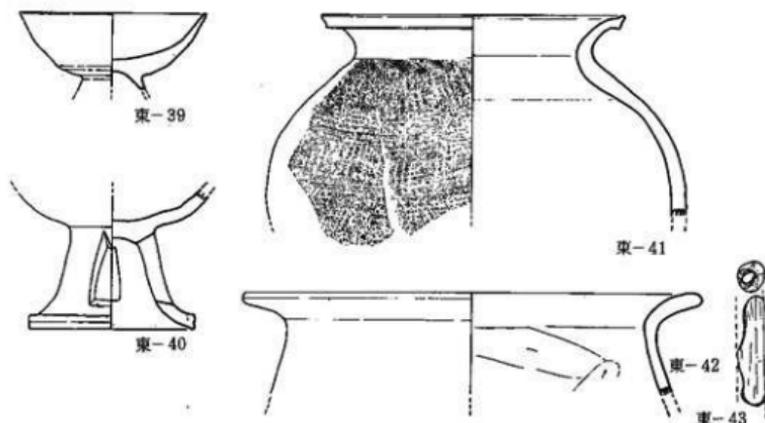
南側のビットは径 20~28cm、深さ 11~17cm を計るが、柱心距離が 2.3~3.4m もあり相互の関連を窺うことはできなかった。また遺物も出土しなかった。

ウ, d 区

第 1 層・第 2 層 (茶褐色土) には遺構がなく、遺物もかえりのある蓋 (東-20)、無頸甕



第113圖 d区出土遺物実測図①(1/3)



第114図 d区出土遺物実測図②(1/3)

(東-21), 甕(東-18・19・22・23)等数点しか出土しなかった(第113図)。

第3層(明褐色土)では遺構が認められ、遺物も多量に出土した。北隅では上端径約1.0mを計る円形の土壇(SK07)を検出した(第110図)。そして本土壇からは、坏(東-27), つまみ付の蓋(東-28), 壺等の須恵器や土師器の甕等が出土した(第113図)。南端部では、不定形ながら三連結の穴を2箇所検出した。各々方形に近く大きき25×25cm~40×30cm, 深さ9~17cmを計り、一定していない。そして一度掘り込んだ後更に深く円形穴を穿った穴や、粘土を含む穴が、中には認められた。また、SK07とこの三連結の穴との間には、径20~36cm, 深さ8~28cmを計る柱穴と思われるピットが10穴程検出された(第110図)。しかし、各々の規模や柱心距離や対応の仕方などに一定した関係が見られず、建物とはなり得なかったが、多数の遺物が35×20cm~10×10cm大の礫と共に出土した。その中につまみ付の蓋(東-29・30・32・35), 坏身(東-24), 高坏(東-40), 土師器の甕(東-42), 須恵質と思われる土鍾(東-43)等が認められた(第113・114図)。

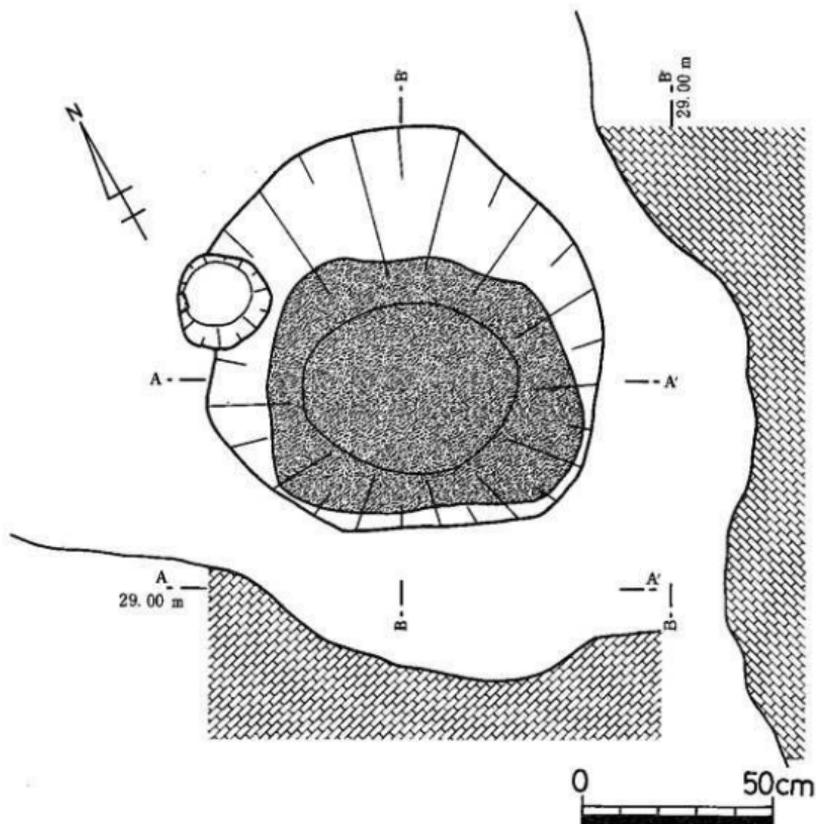
エ, e 区

第1層・第2層(茶褐色土)には遺構はなかったが、第2層中から坏身(東-46), 高台付の坏(東-53), つまみ付の蓋(東-47~51)等が出土した(第119図)。

第3層(明褐色土)面では本区の北東隅で焼土壇を3基, 本区の中央部で柱穴と思われるピットを6穴検出し、これと共に多量の遺物が出土した(第115図)。1号焼土壇は、上端径約1.0mを計る楕円形を呈し、この底に灰土が堆積していた。また本土壇の上端に

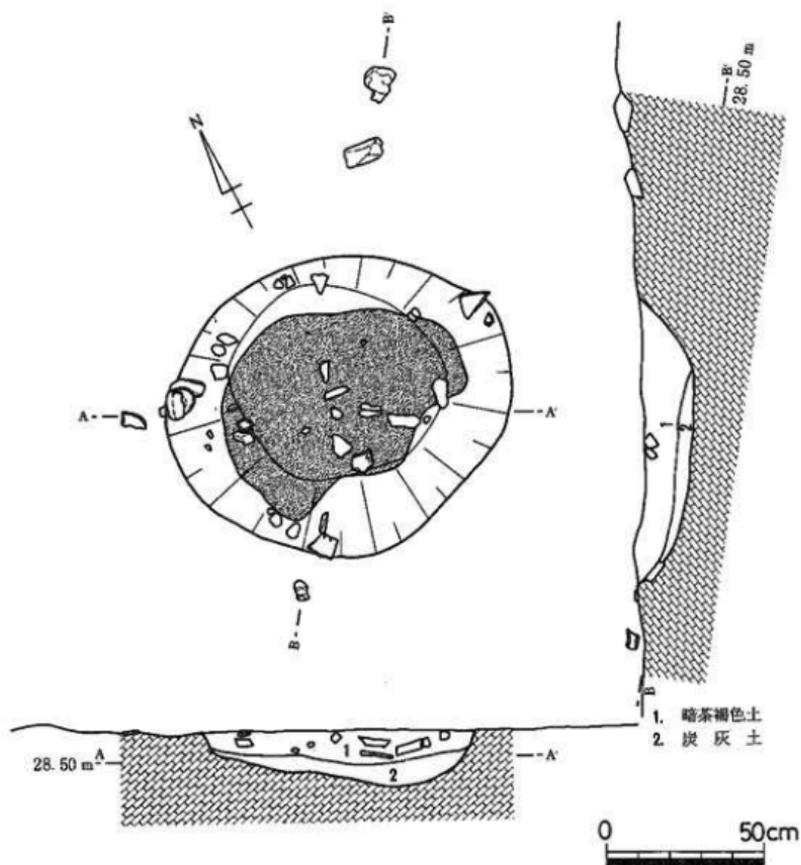


第 115 图 ①区遗物出土状况图



第 116 図 1号焼土壙実測図

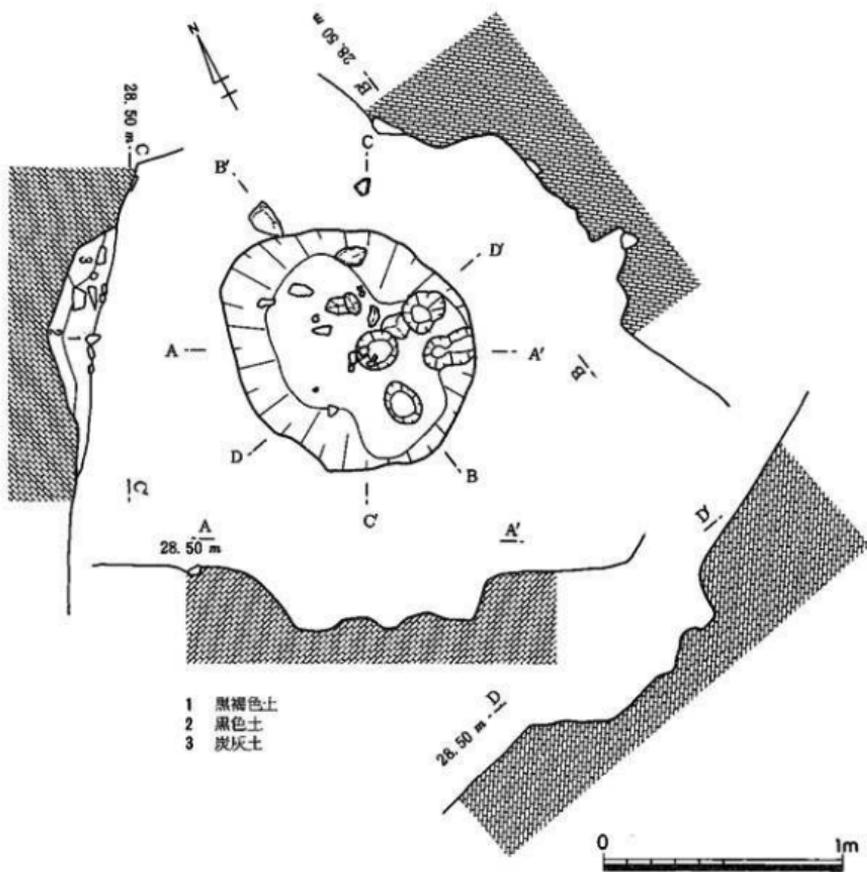
径23cm、深さ約27cmのビットが1穴確認されたが、本土壙に伴う遺物は出土しなかった(第116図)。2号焼土壙は、上端径約1.0m、深さ約28.4cmを計る楕円形を呈し、暗茶褐色土の下に炭灰土が堆積していた。土壙内から多数の小石と共につまみ付の蓋(東-44)や小壺(東-45)が出土した(第117・119図)。3号焼土壙は、上端径約1.0m、深さ約28.4cmを計る楕円形を呈し、黒褐色土の下に炭灰を多量に含む黒褐色土が堆積していた(第118図)。土壙内から須恵器の小片が出土したが、その詳細は不明であった。また、柱穴と思われるビットは、径20~30cm、深さ10~26cmを計るものであるが、柱心距離が一定せず、建物にはならなかった。さて、この層から多量の遺物が出土したが、これらは大小の礫と共に2号焼土壙の周辺を起点としてd区両側に向かって帯状に出土した。そしてこの



第117図 2号焼土坑実測図

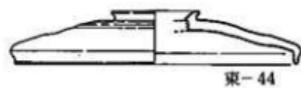
中には蓋環（東-63~67），つまみ付の蓋（東-68~78），環（東-79~84），高台付の環（東-86~96），等の他に陶棺（東-108），土師器の甕（東-110），甕（東-109），土製支脚（東-111・112）等が認められた（第119~123図）。

第4層（暗茶褐色土）は他の区では見られず，本区でも中央部にのみ堆積していた。この層では遺構は認められず，遺物も坏身（東-113・114）等少量であった（第123図）。



第 118 図 3号焼土壙実測図

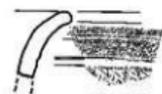
以上簡単であったが、東部調査区の概要を述べた。最後に若干のまとめをしておく。本調査区は4号窯跡の東側に隣接した緩斜面であり、当初工房跡か工人集落があるのではないかと期待された。そして調査の結果、20穴以上の柱穴と思われるピット・7号土壙・3基の焼土壙等を検出し、また出土遺物が多種多様で、中でも竈や土製支脚、土師器の壺等が出土したことは、当時の人々の生活の営みの痕跡をある程度明らかにできたと思われる。しかし、ピットの柱心距離がまちまちなために建物にはならず、また3基の焼土壙は火を焚いた跡とは言え、その上の焼け具合から判断して長期間使用したとは考えにくかっ



東-44



東-45



東-57



東-46



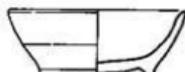
東-52



東-58



東-47



東-53



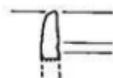
東-59



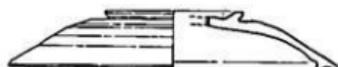
東-48



東-54



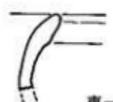
東-60



東-49



東-55



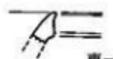
東-61



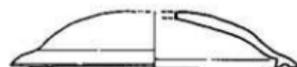
東-50



東-56



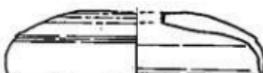
東-62



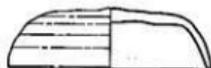
東-51



東-63



東-64



東-65



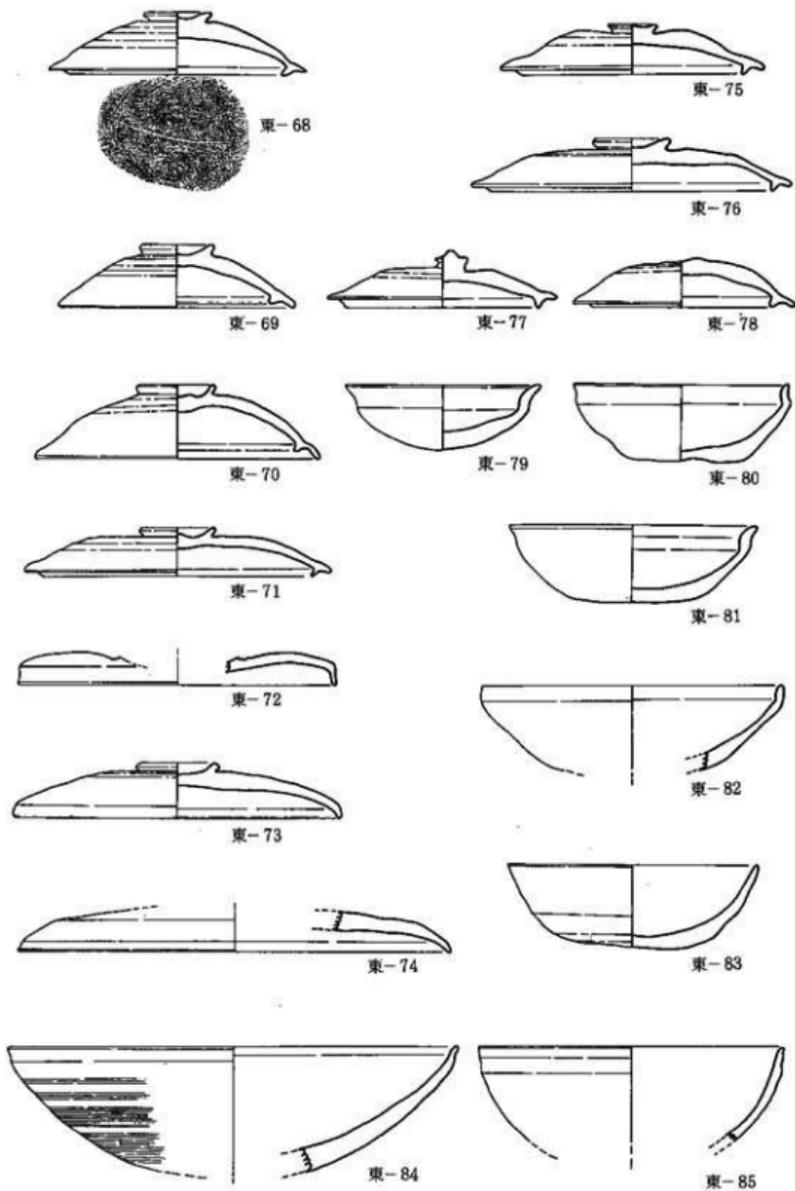
東-66



東-67



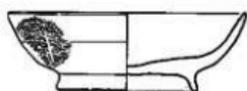
第119圖 e区出土遺物実測図①(1/3)



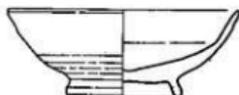
第 120 图 ● 区出土遗物实测图②(1/3)



東-86



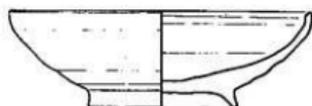
東-87



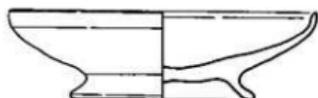
東-88



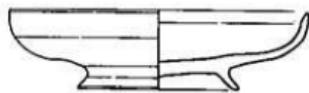
東-89



東-90



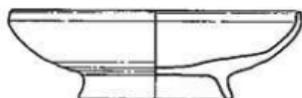
東-91



東-92



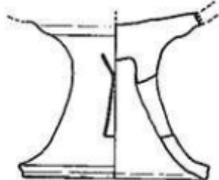
東-93



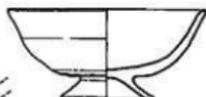
東-94



東-95



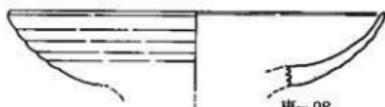
東-97



東-96



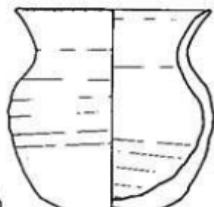
東-99



東-98

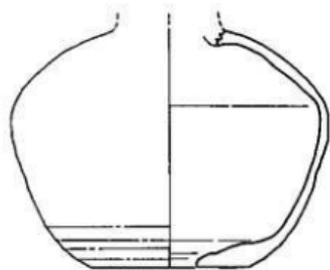


東-100

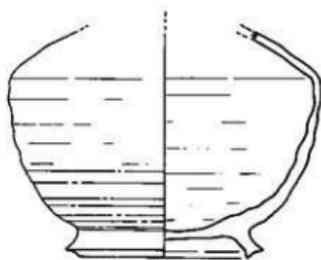


東-101

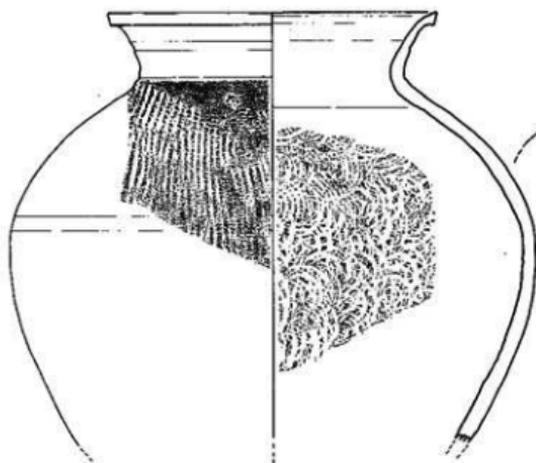
第 121 圖 ● 区出土遺物実測図③ (1/3)



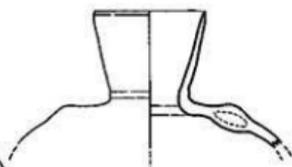
東-102



東-103



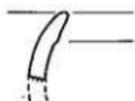
東-105



東-104



東-106



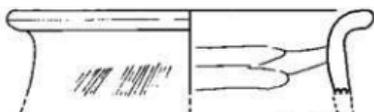
東-107



東-108



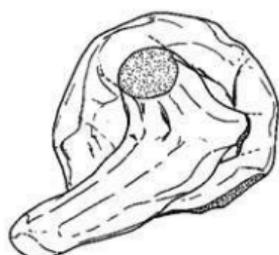
東-109



東-110



第122图 区出土物実測图④(1/3)



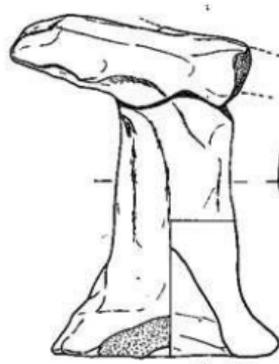
東-113



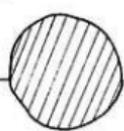
東-114



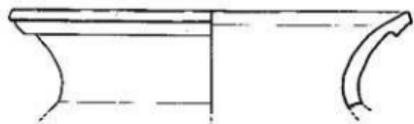
東-115



東-111



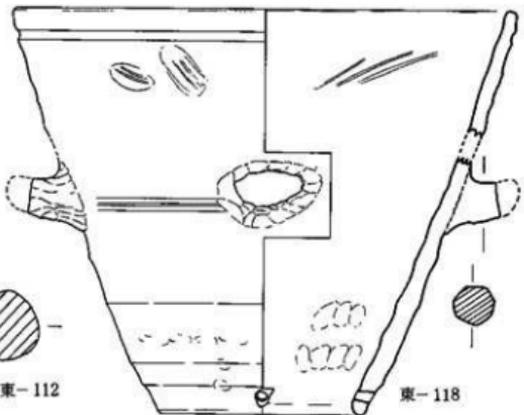
東-116



東-117

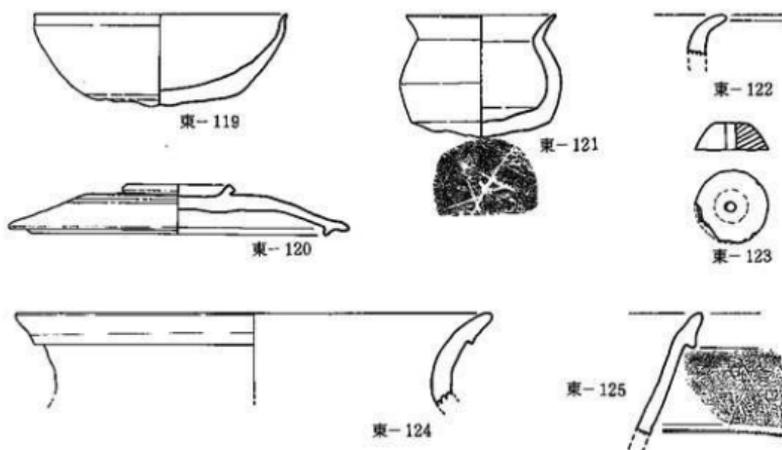


東-112



東-118

第 123 图 e 区出土遺物実測图⑤ (1/3)



第 124 図 北側斜面・その他出土遺物実測図 (1/3)

た。更に出土遺物に時期幅があることや(東-125)が示す接合関係は、本調査区が後世に攪乱や削平されたことを示すと思われる。

さて、4号窯跡・5号窯跡・6号窯跡・3号土壇・灰原調査区・北部調査区・東部調査区共にある程度の後世の攪乱・削平が認められたことは、何に起因するか検討する必要があると思われる。そしてこのことは、今日の“池ノ奥谷”がどのように形成されたかを総合的に検討する中で、考察しなければならないと思う。よって次章で、不完全であると思うが、“池ノ奥谷”の形成・削平等の過程についての我々の考えを述べてみたいと思う。

4. 小 結

1960年代以降、大阪府陶邑窯跡群等の大規模な須恵器窯跡群が全国的に調査され、窯体構造や出土須恵器等の研究が開始され、最近では須恵器製作工人集団の構成組織や供給範囲等、当時の社会構造の一端を解明しようとする動きも認められる。このように全国的には、莫大な資料の蓄積に裏付けられた総合的な研究が日進月歩の速さで進められている。しかし島根県内では、既述のように須恵器窯跡の調査例は稀少であり、このため窯業生産に関する論究が不十分であったり、山本清氏以降の須恵器研究も停滞気味であったと言わざるを得ない。

このような県内の情勢の中で、大井古窯跡群の一支群とは言え、池ノ奥窯跡群が調査され、その結果須恵器窯跡を3基・その灰原を1所・土壌を5基・焼土壌を3基・焼土を8ヶ所・柱穴と思われるピットを多数検出し、それらに伴う遺物も多量に出土した。そしてこれらは、須恵器窯跡を中心にしたもので、各々何らかの関係で結ばれていると言える。つまり今回の調査は、一支群とは言え、出雲地方の一大須恵器生産地域である大井古窯跡群に初めて“メス”を入れ、須恵器の研究や窯業生産に関する研究等、停滞気味あるいは遅延している研究分野における数多くの基礎的資料を得たこと、またそれから派生する新たな問題・課題等を提示できたこと、さらにこれらが一遺跡の調査で確認されたことは極めて有意義であったと言える。

以下不十分ではあるが、池ノ奥4・5・6号窯跡を中心に二・三の検討をおこなって、まとめとしたい。

(1) 須恵器窯跡

まず、3基の須恵器窯跡の概要を再度整理しておく。4号窯跡は主軸 $N-6^{\circ}48'40''$ -Eにとり、全長14.3m、床面最大幅2.0m、床面傾斜角度 $18\sim 21^{\circ}$ を計る「うなぎの寝床」状の細長い平面形を呈する半地下式無段密窯で、床面は二重であった。また排水溝・排煙口・上屋の外部施設を設けていた。5号窯跡は主軸 $N-9^{\circ}37'28''$ -Eにとり、残存長6.1m、床面最大幅1.8m、床面傾斜角度 $18.5\sim 20.5^{\circ}$ を計る半地下式無段密窯で、床面は一重であった。また排煙口の外部施設を設けていた。6号窯跡は残存長2.75m、床面最大幅1.5m、床面傾斜角度 $24\sim 26.5^{\circ}$ を計る半地下式無段密窯で、床面は一重であった。そして6号窯跡は4・5号窯跡のものと思われる「灰原層」を削平して構築されていた。これらのうち、全体的様相が正確に把握できたのは4号窯跡である。よって、4号窯跡を中心にして窯体構造を若干検討してみたい。

まず、4号窯跡の全長と床面最大幅の比率についてみよう。この比率を中村浩氏は「床

幅係数」と仮称され、大阪府陶邑窯跡群のそれを検討された。^{註3}氏にならって本窯跡のそれを導き出すと0.14(少数点第3位四捨五入)であり、「陶邑Ⅱ型式」のそれに含まれることが分かった。また「うなぎの寝床」状の平面形を呈することも「陶邑Ⅱ型式」と同じである。しかし「陶邑Ⅱ型式」の床面傾斜角度を調べてみると、25°前後が最も多かったのに対し4号窯跡では18～21°、5号窯跡では18.5～20.5°を各々計り、かなり緩やかであった。また4・5号窯跡と時期的に近い遺物を出土した益田市芝窯跡をみると、全長10.8m、床面最大幅1.8m、床面傾斜角度30°、床幅係数0.17を計り、陶邑窯跡群と同様^{註4}で4・5号窯跡よりも急である。出雲地方での6世紀末～7世紀前半の須恵器窯跡の調査例が本例のみである現況の中でこれ以上のことは言及できないが、床面傾斜が緩やかな点は池ノ奥窯跡群のみに認められる特徴か、大井古窯跡群に普遍的に認められるものか、今後検討すべき点であると思われる。

次に、「排水溝・排煙口」についてみよう。既述のように、溝状遺構が4号窯跡の煙道部に隣接して認められ、その地山に密着した状態で焼土が集中的に検出された。また③の2では触れなかったが、5号窯跡の煙道部に隣接して焼土が検出された箇所もやや凹地状になっていた。この遺構の平面形がコの字状を呈し窯跡を囲むように設けられていたことから、窯を雨水から守るための“排水溝”であろうと考えた。だがその後の検討の結果、いずれも排水溝の地山面に焼土を伴うことから陶邑窯跡群の大野池(ON)3号窯跡と同様な構造であろうと判断した。^{註5}つまり、このような構造を持つ施設は排水の用途ばかりでなく、窯入れ・焼成段階の煙りの出し方にも何か大きな役割を果たしたと思われ、この施設を便宜的に「排水溝・排煙口」と仮称しておく。そしてこの類例を探すと、福岡県牛頸ハセムシ1-II号窯跡・同12-II号窯跡・同18-1号窯跡、^{註7}牛頸井手A-3地区4号窯跡、^{註8}鳥取県鳥越山1・3号窯跡、^{註9}福井県上子保1・2号窯跡、^{註10}等で認められ、^{註11}今後本類例は増加すると思われる。「排水溝・排煙口」を伴う窯跡の調査例が日本海沿岸地域に分布している現段階での傾向は、地域性を示しているのではないだろうか。しかしながら、6世紀後半代から日本各地に地域性が具現するという傾向の中で、このような広範囲の地域に共通した施設が認められるのは何故か、また池ノ奥4・5号窯跡と既述した他の窯跡とは時期的に幅があると思われるがそれは何故か、今後の研究成果に委ねたいと思う。

(2) 窯跡の出土須恵器

既述のように4号窯跡の遺物の出土状況を、上の床面の浮き・密着・潜り込み、下の床面の浮き・密着・潜り込みの6種類と非二次焼成・二次焼成の2種類に区分して検討した結果、いくつかの特徴が認められた。例えば、4号窯跡の層位で最古と最新を示す「下の床面潜り込みの二次の遺物」と「上の床面浮きの非二次の遺物」を対比すると、殆ど同様な特徴を持つことが分かった。更に詳しく調べると、前者が後者よりもやや新しい傾向を持っていることが分かった。つまり、本窯跡の遺物は時期的に一括遺物として取り扱っても良く、それらに認められる特徴の違いはバラエティーの差、つまり製作工人集団の差と捉えてもよいと考える。また5号窯跡の出土遺物の特徴も本窯跡のそれに極似することから、4・5号窯跡の出土遺物はほぼ同時期として扱えて良い。さらに4号窯跡は上下二枚の床面であったが、既述のように上下の床面に関係なくほぼ同時期の遺物を出土したことから、本窯跡と5号窯跡は遺物に時期差が認められないほどの短時間に操業が開始されそして終焉したと考えられる。

このように、4・5号窯跡出土遺物を時期的一括遺物としてもよいことが分かった(第125図)。そしてこれらの特徴を持つ出土遺物を山本編年案に照らしてみると、^{註12}Ⅲ期に該当すると思われる。しかし最近では、山本編年の^{註13}Ⅲ期を二細分する方向も出されており、この考え方を採用すると「Ⅲ期の新」になるであろう。この「Ⅲ期の新」に於ける壺坏の特徴を見ると、坏壺には、形骸化が進みながら、稜がある程度残っており口縁部が段状を呈していたり沈線を周回させる等、古式須恵器からの伝統的な傾向がまだ残っているものが認められる。これに対して坏身は、口縁部に見られる古式須恵器の伝統的傾向が失われて単純化し、かつ底がやや浅くなっている。このことは、4号窯跡の坏蓋(4-201)と坏身(4-212)がセットで出土したことから確実に言えることである。このように形骸化が進みながら坏壺に古い様相的傾向が認められるのは出雲地方の地域性のようでもあり、^{註14}今後山本編年Ⅲ期を考えていく上で坏蓋だけでいろいろと言及することは避けねばならないと考える。

さて、「山本編年Ⅲ期の新」とした池ノ奥窯跡群の出土遺物をより詳しく検討するために、器種的に網羅されている高広遺跡の^{註15}編年案を取り上げる。この遺跡では山本編年Ⅲ期を「高広ⅠB期」に該当させ、実年代として「6世紀末～7世紀初頭」を当てている。一方、池ノ奥窯跡群では考古地磁気の実施しその結果を第Ⅳ章に掲げているが、4号窯跡は下の床面で 615 ± 25 A. D.、上の床面で 620 ± 15 A. D.、5号窯跡は 615 ± 10 A. D.、6号窯跡は 780 ± 15 A. D.、 1010 ± 20 A. D.との結果が出た。つまり4・5号窯跡の時期

	4 号 瓦 蓋	5 号 瓦 蓋
浮き (并2次)		
上 浮き (2次)		
床 蓋 (并2次)		
面 蓋 (2次)		
もぐり込み (并2次)		
下 (并2次)		
床 蓋 (2次)		
面 (2次)		

第125図 4・5号瓦蓋出土遺物一覽圖

は6世紀第4四半期(末頃)～7世紀第2四半期(前半)となり、「高広ⅠB期」の実年代ともほぼ重複するので、この考古地磁気の分析結果はあながち否定はできないと思われる。

しかしながら池ノ奥4・5号窯跡と高広遺跡とは大きく異なる点があり、次にその点について触れたい。蓋环は二遺跡とも同様な特徴を持っているが、高环を見ると底が浅く外面に稜もつかない無蓋高环の坏部や透かしの下に沈線が施されない脚部のものが認められるし、壺の口縁部ではやや外方に緩やかに立ち上がり端部で屈曲し外面に平坦面を持つものが認められる。これらの特徴を高広遺跡に照らすと「高広ⅡA期」に該当すると思われる。つまり、高広遺跡では「高広ⅠB期」・「高広ⅡA期」と時期分類されているものが、池ノ奥4・5号窯跡では一括資料として出土していることになる。この結果、高広遺跡の側に立脚すればかなりの時期幅が認められるということになり、逆に池ノ奥4・5号窯跡の出土状況を肯定すれば高広編年案をはじめとして全ての編年案の再検討を余儀なくされることとなる。発掘調査担当者としては池ノ奥4・5号窯跡の遺物の出土状況は信頼できると考えており、このことから考えて従来の鳥根泉内の須恵器の研究史に一石を投じることになると考える。

しかし既述のことは池ノ奥4・5号窯跡だけのこともかもしれないので、高环(第126図)・壺の口縁部の断面形態と波状文(第127図)・壺や壺の叩き目(第128～137図)を基礎的資料として掲げ、結論的なことについては将来の研究成果に委ねたいと思う。ただ今後は各器種やセット関係における時期的・形態的变化を考慮しながら編年することを志し、蓋环とか高环などの一器種のみ、あるいは特定器種における時期的・形態的变化のみに基づく編年等は極力避けるべきであろう。

一方、6号窯跡の出土遺物の特徴を見ると、4・5号窯跡とは大きく異なり、回転糸切り底の坏を中心に外面にかなり幅広い平行タキと内面に放射状の当て具痕を持つ壺等が認められる。この特徴を高広遺跡の編年案に照らすと「高広V期」、つまり9世紀中頃～後半代に該当すると思われる。しかし、本窯跡の考古地磁気の分析結果では既述のように8世紀第3四半期(後半)～8世紀第4四半期(末頃)か10世紀第4四半期(末頃)～11世紀第2四半期(前半)となり、考古学の成果とは実年代が大きくずれることになった。このような自然科学分析と考古学との大きな年代的な“ズレ”を理由に科学的分析結果を捨象するのではなく、今後は両者の“ズレ”を相互の研究成果の蓄積に基づいて縮めてゆく地道な作業をする必要を感じるのである。事実、平安時代の遺物^{註16}についての研究は最近緒についたばかりであり、今後の研究成果の充実に期待したい。ただ現段階では松江市古曾志平廻田窯跡を10世紀代と^{註17}考えており、6号窯跡と古曾志平廻田窯跡の遺物の検討の結

果、本窯跡が古曾志平廻田窯跡よりも一段階古く、穴道町小松窯跡から同様の特徴を持つ
環や鍋や壺等のタキが認められることから小松窯跡とはほぼ同時期に当たると思われる。^{註18}

最後に今回の調査では、¹⁴C分析・熱ルミネッセンス法などの自然科学分析を用いず
に熱残留磁気の分析のみを実施した。このため測定年代をそのまま呑み込むことは避
けねばならない。しかしながら、距離的に離れた2基の窯跡での測定結果が期せずして一
致したという興味深い事実に着目すれば、池の奥4・5号窯跡と同時期とした「高広I
B期」の実年代比定はほぼ正しいという科学的な根拠をひとつ得たことになる。今後は熱
残留磁気等多くの自然科学的分析の成果を取り入れて考古学の各分野の精度をより高めて
ゆくことが肝要であると考えられる。

(3) “池ノ奥谷”について

ここでは以上のことを総合的にまとめて、“池ノ奥谷”について若干検討してみたい。
そのために、これまでに判明したことを箇条書きで再度整理してみる。

- 1) 調査開始当初、上段の崖断面で側壁が左右より立ち上がる状態で、4号窯跡の窯体
を検出した。5号窯跡は、削平された状態で窯体断面を露出させていた。
- 2) 4号窯跡の焚き口部分の天井部は削平・消失しており、焚き口部分より南側では灰
原は検出できなかった。5号窯跡は窯体面より深いレベルまで削平されており、焚き
口・燃焼部は完全に消失しており、その痕跡はなかった。
- 3) 4号窯跡の焼成部の天井部はほぼ完全に遺存していたが、煙道部には大穴が開いて
おり、この前後の天井部は後世の攪乱を受けて消失していた。5号窯跡の焼成部・煙
道部の天井部は後世の攪乱を受け消失しており、窯体片を含む攪乱土が堆積していた。
- 4) 4・5号窯跡は共に半地下式無段客室で、「排水溝・排煙口」を設けていた。
- 5) 6号窯跡は4・5号窯跡に関係する“灰原層”の東端部分を削平して構築され、焼
成部以外は削平され天井部も崩落していた。天井部の上には“2次堆積層中の灰原層”
が認められた。
- 6) 調査当初、遺物や大小の礫を含む黒色炭化物層が下段の崖断面の崖ライン上にはぼ
等間隔で検出され、これを1・2・3号窯跡(土塼)と仮称したが、調査の結果これらの
窯跡はその崖によって削平され半分程消失していた。更に1・2号窯跡の黒色炭化物層は
“灰原層”に挟んでおり、また波状文を持つ甕口縁部片の接合関係の検討の結果、4
号窯跡出土の破片や“灰原層”出土破片と接合した。よって1・2号窯跡(土塼)は
4・5号窯跡に関係する“灰原層”の一部と判断した。また、3号窯跡(土塼)は性
格不明の土塼状遺構であった。

- 7) 灰原調査区では、“表土”直下に“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”をほぼ均等の厚みで検出したが、この傾向は下の北区で著しかった。これに対し上の北区でも“表土”下で“2次堆積層中の灰原層”を検出したが、東側の一部でしか認められなかった。また上の南区の“2次堆積層中の灰原層”は純然たるものではなく他の土と混在しており、全体的に赤味を帯びていた。
- 8) 下の北区北側の崖断面下では“表土”の下に“2次堆積層中の灰原層”があり、それを除去すると明褐色土（地山）が平坦面として検出された。この平坦面が落ち込み始める箇所から“灰原層”が始まっており、従ってこの地点では“表土”直下の“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”と“灰原層”は一つになっていた。
- 9) 明黄褐色の大小の礫を含む“攪乱層”を“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”の下に検出したが、これは明らかに南側斜面から客土した土として、下の南区を中心に認められた。
- 10) “2次堆積層中の灰原層”とこの下に堆積した“中間層”は水平方向に堆積していたのに対して、その下の“灰原層”は概ね北から南へ急速に落ち込む形で下降していた。“灰原層”をB-5区にごく近いA-5区の深い所で検出しており、この傾向は下の北区、上の北区で顕著であった。
- 11) 灰原調査区の各層の堆積状況、遺物の出土層位・形態的特徴・接合関係の四面から検討した結果、灰原調査区はかなりの広範囲で、ある程度の攪乱・削平を受けていると判断した。
- 12) 上の南区では“2次堆積層中の灰原層”から2m余り下の“灰原層”で、回転糸切り底の環の重ね焼きが4個体程出土した。
- 13) 北部調査区ア-2・3区第4層で据置きの甕を検出すると共にこの層の出土遺物の時期は4・5号窯跡とほぼ同じであったことから、この層位は攪乱されていないと判断した。しかしア-2・3区第4層以外の遺物の出土状態や接合関係の検討の結果、本調査区の殆どの層は後世の攪乱を受けていると判断した。
- 14) 東部調査区a・b区の土壌は多数の転石（礫）の集積を除去して検出されたものであり、また本調査区で検出された柱穴と思われるピット・遺物・焼土塊は、当時の人々が生活を営んだ証拠である。しかし、4号窯跡を境にして西と東とは遺物の出土状況が異なり、前者では少なく後者では多かった。
- 15) 全調査区の出土遺物の時期について、高広遺跡編年案を参考にして表にまとめてみる。

調査区	中心の時期	備考
4号窯跡	山本Ⅱ期・高広ⅠB～ⅠA期 (6世紀末～7世紀前半)	地磁気 下の床面 615 ± 25 A. D 上の床面 620 ± 15 A. D
5号窯跡	山本Ⅱ期・高広ⅠB～ⅠA期 (6世紀末～7世紀前半)	地磁気 615 ± 10 A. D
6号窯跡	高広Ⅴ期 (9世紀～10世紀代)	地磁気 780 ± 15 A. D 1010 ± 20 A. D
3号土壇	高広ⅡA～ⅡB期 (7世紀初頭～8世紀前半)	高広ⅠB期～高広ⅣB期の遺物が出土 (6世紀末～9世紀前半)
灰原	高広ⅠB～ⅣB期 (6世紀末～9世紀前半)	山本Ⅱ期～常滑焼きの遺物が出土 (6世紀前半～13世紀後半)
北部	高広ⅡA～ⅣA期 (7世紀中頃～8世紀後半)	縄文時代～江戸時代(寛永)の遺物が出土
東部	高広ⅡA～ⅣA期 (7世紀中頃～8世紀後半)	高広ⅠB期～高広ⅣB期の遺物が出土 (6世紀末～9世紀前半)

以上、これまでに判明したことを箇条書きで整理した。これらを基にして我々が、“池ノ奥谷”について考察したことを述べてみたい。

- (1) “池ノ奥谷”は元々急斜面であり、谷底はかなり深かったと思われる。
- (2) 灰原調査区の出土遺物の検討の結果、4・5号窯跡構築以前に、少なくとも窯跡が1基構築された可能性が認められる。
- (3) 既述の4)より、4・5号窯跡の構築直前に、少なくとも窯跡を中心としたある範囲が削平されたが、この時は未だ上段・北部調査区・東部調査区・下段の区別は、できていなかった。そして、4・5号窯跡が北側緩斜面に構築されたと思われる。
- (4) 既述の1)・2)・3)より、上段・下段の崖断面の形成や北部調査区・東部調査区の削平は、4・5号窯跡の廃棄若しくは放棄の後であったと思われる。
- (5) 既述の5)より、6号窯跡の構築時には未だ灰原が露出ししており、本窯跡放棄(廃棄)後に“2次堆積層中の灰原層”が堆積して現在の水田面が形成されたと思われる。
- (6) 既述の6)より、1・2・3号土壇は各々別の時期に削平されたのではなく、同一の時期に削平されたと思われる。また、上段崖と下段崖の削平、崖断面と緩斜面の形成の前後関係を考察することは、灰原調査区の全土層の堆積状況・各遺構の削平に関連して重要であるが、結論としての絶対的な確証は未だ得ていない。
- (7) 既述の6)より、3号土壇の“灰原層”は5号窯跡に関係すると考えた。つまり、粘土採掘場であった本土壇から粘土が採掘された後に“灰原層”がここに堆積した。更にこの後に、何らかの理由で一部の“灰原層”を残して新たに削平されたと考えた。

しかし、5号窯跡との距離関係を考えると5号窯跡の焚き口・燃焼部の横ぐらになり、このような所に“灰原層”が形成されるか疑問である。

(8) 既述の7)~11)より、“表土”直下の“灰原を含む2次堆積層”・“2次堆積層中の灰原層”・“中間層”の堆積状況は、“灰原層”の上に客土したことを示すが、それだけの大量の土は、北部調査区・東部調査区の他に南側斜面の削平に伴う客土がなされなければ出てこないはずである。つまり、灰原調査区の客土の状況は調査区全体から出土した遺物の接合関係からみるとかなり大規模であると共に、上の北区・上の南区・下の北区・下の南区とそれぞれに客土過程・時期が異なり、複雑であったようである。更に“2次堆積層中の灰原層”を他の堆積土と区別して敷き詰めた状況は、水田耕作と何らかの関係があった（例えば水捌け等）と思われる。

(9) 既述の12)より、上の南区南側斜面の周辺には2基以上の窯跡（これを「7・8号窯跡」と仮称する）があった可能性が非常に強いと思われる。何故ならば池ノ奥4・5・6号窯跡とは明らかに別の窯跡で生産された須恵器が、灰原調査区・北部調査区・東部調査区や池ノ奥古墳群などから出土した。これは、7・8号窯跡が4・5・6号窯跡の灰原を共有する場所、つまり灰原調査区の南側斜面に構築されていたと考えられる。このことを示すように7世紀後半代と8世紀後半代の二つの異なる時期の重ね焼きの須恵器が出土している。

00 第Ⅱ章に掲げた胎土分析の結果、4・5・6号窯跡産の須恵器とは明らかに異なり、鉄分の非常に高い胎土を持つ須恵器（7~8世紀代の糸切り底の坏が大半）が灰原調査区をはじめとする周辺の遺跡から多数出土したことが分かった。この鉄分の高い須恵器は既述の7・8号窯跡と時期的に重複すると思われる、この胎土分析の結果は、須恵器生産に適する原料粘土について大きな問題（例えば、鉄分の高い粘土は大井地域以外から搬入したものか等）を提起することになり、今後注目していかなければなら
^{註19}
ないだろう。

以上、我々が考察したことについて簡単にまとめてみた。6号窯跡と灰原との関係や1・2・3号土壌がどのように形成されたかなどについては、疑問な点がまだまだ残っているが、ご容赦戴きたい。

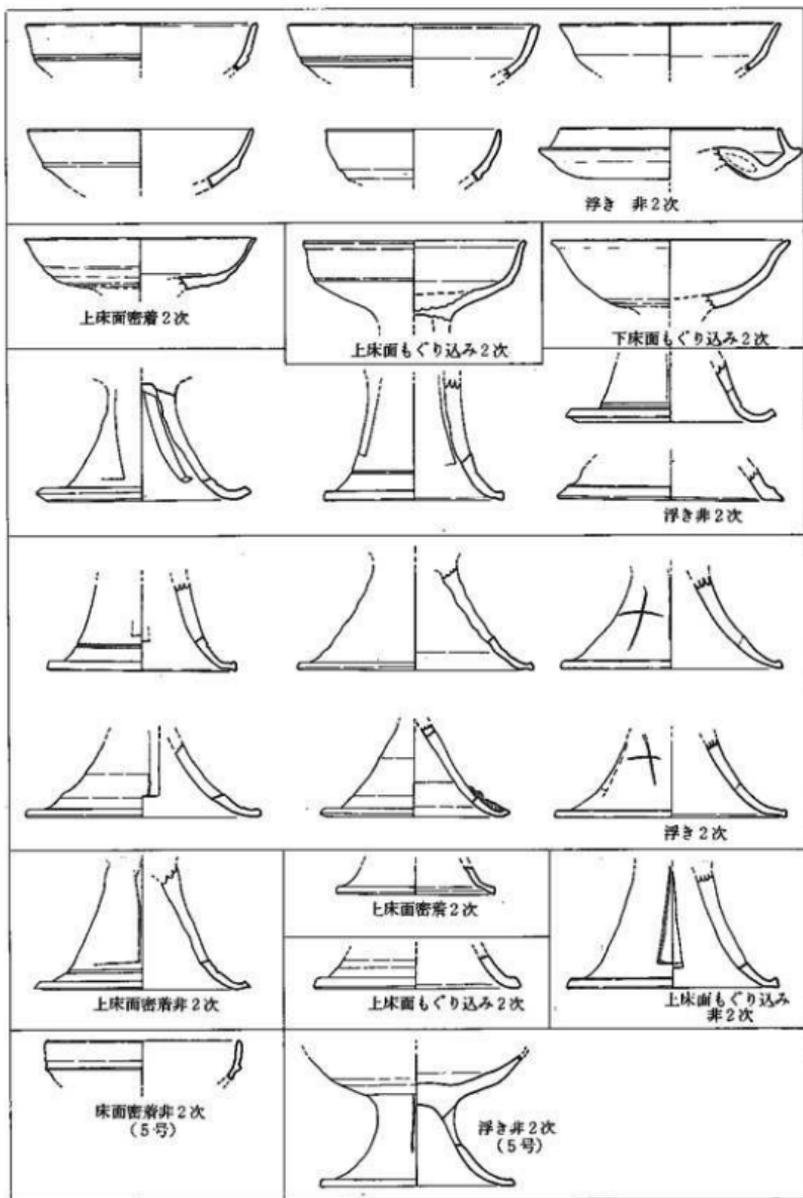
さて、我々は“池ノ奥窯跡群”の狭い領域でしか考えることができなかったが、本窯跡群周辺の“イガラビ遺跡”や“池ノ奥A遺跡”では、“池ノ奥窯跡群”の北部調査区・東部調査区・7・8号窯跡とはほぼ同時期の7世紀中頃~8世紀後半代の遺物や窯体片等が出土した。このことから本窯跡群周辺のこれらの遺跡は、工人集団の集落跡・工房跡等、須

須器生産に何らかの関係がある遺跡と思われる、今後は総合的に考察する必要がある。

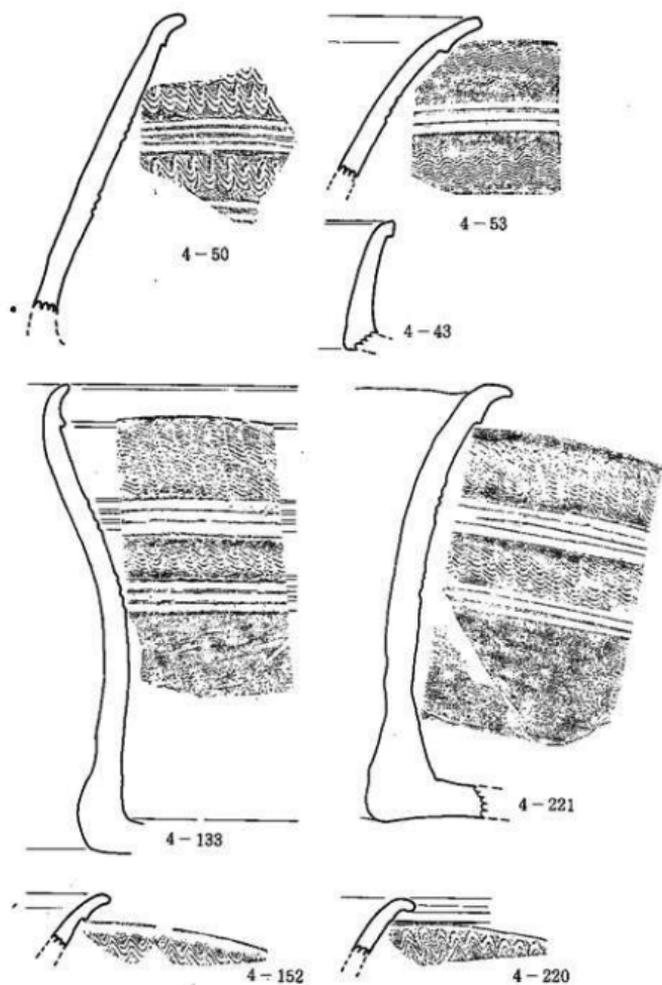
また既述のように、本窯跡群では熱残留磁気・胎土分析等の自然科学的分析を実施し、須器の粘土の供給源は窯跡周辺のみか、窯跡と周辺の遺跡とはどのような関係か、等の大きな課題を多く残したと言える。そして我々が提示したこの基礎的な資料によって、今後の総合的な考古学の研究が一步でも前進し未だ不明瞭な事象が少しでも解明されれば幸いと考える。

註

- 註1 例えば、(財)大阪府文化財センター『陶邑』I～VI 1976～1987がある。
- 註2 例えば、中村浩氏『和泉陶邑窯の研究—須器生産の基礎的考察—』1981がある。
- 註3 中村氏は「I型式の窯跡の床幅係数は0.18～0.31、II型式のそれは0.13～0.22、III型式のそれは0.26～0.3」等とされ、II型式の窯跡は、“うなぎの寝床”状の平面形を呈し、床面傾斜が急になること、床幅係数が低くなること、などの特徴を示すと指摘しておられる。中村浩「窯体構造の時期変化」(『和泉陶邑窯の研究—須器生産の基礎的考察—』1981)
- 註4 田中義昭「益田市西平原窯址群の意義について」(『ふいーど・のーと』3号 1982)
- 註5 (財)大阪府文化財センター『陶邑』I 1976
- 註6 大谷女子大学 中村浩助教授の御教示によるところが大きい。
- 註7 大谷女子大学『大谷女子大学資料館報告書第23冊 牛頸Ⅱ—ハセムシ窯跡群発掘調査報告書—』1989
- 註8 福岡県教育委員会『福岡県文化財調査報告書第80集 牛頸窯跡群Ⅰ』1988
- 註9 鳥取県岡金町・日野塚郎氏、倉吉市教育委員会・根鈴輝雄氏の御教示による。
- 註10 武生市教育委員会『武生市埋蔵文化財調査報告Ⅳ 王子保窯跡群第1次発掘調査概要報告』1986
- 註11 この他に中村浩氏は「石川県小松市調査例でも認められる」としておられるが、管見では確認できなかった。前掲 註5・7
- 註12 山本清「山陰の須器」(『島根大学開学10周年記念論文集』1960)
- 註13 浅沼政誌・宍道年弘「島根県東出雲町埴谷1号墳出土の須器」(『古文化談叢』第18集 1987)・島根県教育委員会『岡田薬師古墳 瀬北台第二回地造成に伴う発掘調査報告』1986等である。
- 註14 このことについては、今岡一三氏も指摘しておられる。今岡一三『出土遺物の検討』(松江市教育委員会『高沢A遺跡・鹿沢B遺跡・別所遺跡』1988)
- 註15 島根県教育委員会『高広遺跡発掘調査報告書—和田田造造成工事に伴う発掘調査—』1984
- 註16 広江耕史・片岡時子「島根県における古代米—中世にかけての須器について」(『中近世土器の基礎研究Ⅳ』1988)
- 註17 島根県教育委員会文化課主事 広江耕史、丹羽野裕 両氏の御教示による。
- 註18 島根県八束郡宍道町教育委員会『宍道町埋蔵文化財調査報告書3 小松古窯跡群範囲確認調査報告書』1983
- 註19 このために現在、補充資料の胎土分析を奈良教育大学三辻利一氏にお願いしており、後日、その成果を公表する予定にしている。



第 126 图 4号・5号窯跡出土高环突测图



第 127 图 4号窖跡出土簋口緣部形態圖



4-44



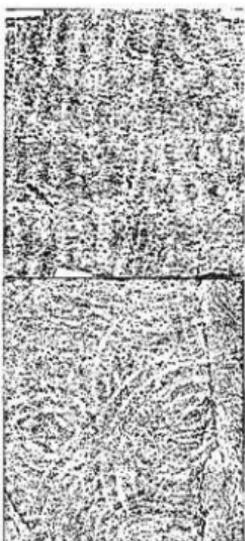
4-46



4-47



4-52



4-64



4-54

第128图 4号窯跡出土炭拓本(浮き・非2次)①



4-55



4-63



4-62



4-66

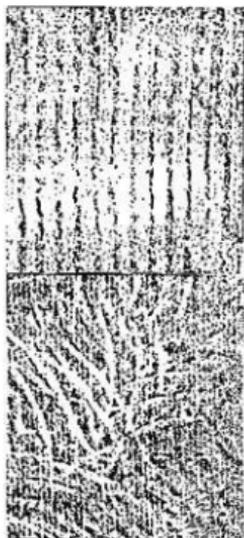


4-119



4-121

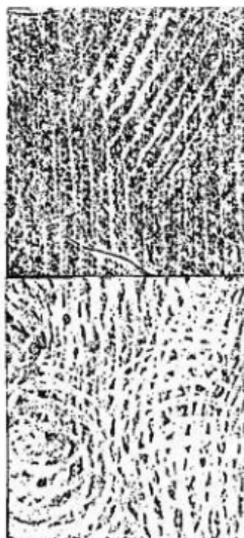
第129图 4号窯跡出土瓦拓本(上:浮き・非2次,下:浮き・2次)②



4-128



4-133



4-126



4-132



4-111



4-112

第130图 4号高跡出土要拓本(浮き・2次)③



4-113



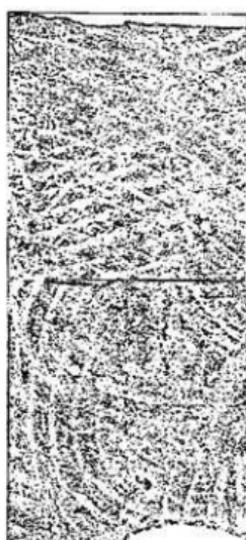
4-117



4-127



4-131



4-118



4-124

第131圖 4号窯跡出土裏拓本(平吉・2次)④



4-120



4-153



4-184



4-195



4-183

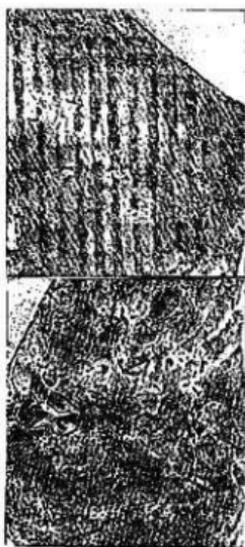


4-182

第 132 图 4号痕跡出土壁拓本(左:浮き・2次,中:密着・非2次,右:密着・2次)⑤



4-191



4-194



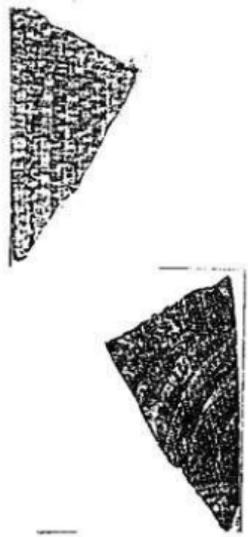
4-189



4-196



4-188

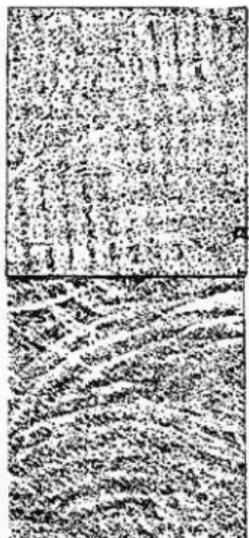


4-187

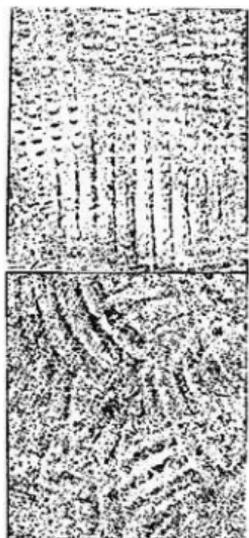
第 133 图 4号藻跡出土表拓本(密着・2次)⑥



4-199



4-216



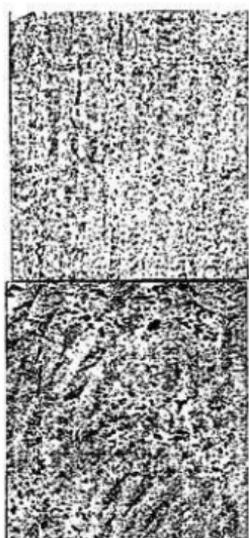
4-217



4-218



4-219



4-224

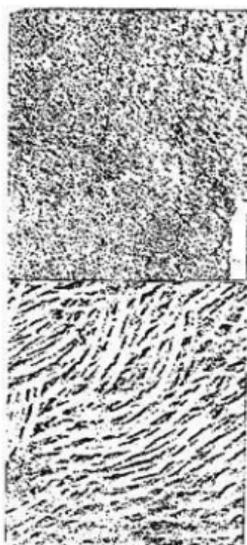
第134圖 4号窯跡出土竈拓本(上:もぐり込み・2次, 下:下床面浮き・非2次)①



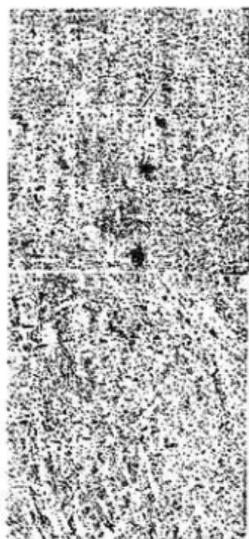
4-225



4-226



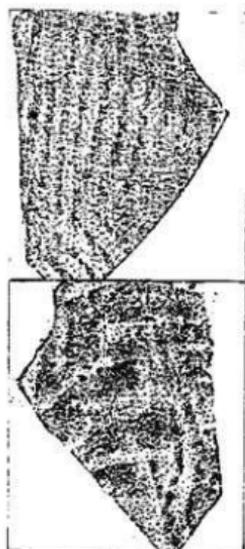
4-228



4-227



4-231



4-232

第135图 4号窯跡出土瘦拓本(上:下床面浮き・2次,下:下床面密着・2次)⑧



5-10



5-13



5-14



5-16



5-15



6-8

第 136 图 5·6号熏蒸出土夏拓本



第 137 図 4号窯跡下の熱変化層
出土の裏拓本

4-239

4号墓跡出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	高さ cm	備考	番号	地区・層位	形態	口径 cm	高さ cm	備考
4-001	床面土より浮き	坏蓋	12.8		非2次焼成	4-031	床面土より浮き	無蓋高坏	12.8		非2次焼成 坏部
4-002	床面土より浮き	坏蓋	13.8	4.7	非2次焼成	4-032	床面土より浮き	無蓋高坏	13.2		非2次焼成 坏部
4-003	床面土より浮き	坏蓋	12.8		非2次焼成	4-033	床面土より浮き	無蓋高坏	14.6		非2次焼成 坏部
4-004	床面土より浮き	坏蓋	12.6		非2次焼成	4-034	床面土より浮き	無蓋高坏	13.0		非2次焼成 坏部
4-005	床面土より浮き	坏蓋	13.0	3.4	非2次焼成 墨記号	4-035	床面土より浮き	無蓋高坏	10.0		非2次焼成 坏部
4-006	床面土より浮き	坏蓋	13.8	3.1	非2次焼成 墨記号	4-036	床面土より浮き	有蓋高坏	12.4		非2次焼成 坏部
4-007	床面土より浮き	坏蓋	12.6	4.2	非2次焼成 墨記号	4-037	床面土より浮き	高坏			非2次焼成 胴部 2 方透かし
4-008	床面土より浮き	坏蓋	12.8	2.9	非2次焼成 墨記号	4-038	床面土より浮き	高坏			非2次焼成 胴部 2 方透かし
4-009	床面土より浮き	坏蓋	13.2	4.1	非2次焼成	4-039	床面土より浮き	高坏			非2次焼成 胴部 透 かし
4-010	床面土より浮き	坏蓋	14.0		非2次焼成	4-040	床面土より浮き	高坏			非2次焼成 胴部
4-011	床面土より浮き	坏蓋	13.2	3.9	非2次焼成 墨記号	4-041	床面土より浮き	蓋の重	10.0	3.7	非2次焼成
4-012	床面土より浮き	坏蓋	13.0		非2次焼成	4-042	床面土より浮き	底口蓋			非2次焼成 口縁部片
4-013	床面土より浮き	坏蓋	11.3	2.6	非2次焼成	4-043	床面土より浮き	蓋	17.0		非2次焼成 口縁部
4-014	床面土より浮き	坏蓋	12.4	3.8	非2次焼成	4-044	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部
4-015	床面土より浮き	坏蓋	12.4	4.1	非2次焼成	4-045	床面土より浮き	握縁の把手			非2次焼成
4-016	床面土より浮き	坏蓋	12.6	4.4	非2次焼成	4-046	床面土より浮き	横板			非2次焼成 胴部片
4-017	床面土より浮き	坏蓋	13.8	4.1	非2次焼成 墨記号	4-047	床面土より浮き	横板			非2次焼成 胴部片
4-018	床面土より浮き	坏蓋	13.0	4.4	非2次焼成 すのこ状	4-048	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-019	床面土より浮き	坏身	11.1	4.1	非2次焼成	4-049	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-020	床面土より浮き	坏身	10.6	4.3	非2次焼成	4-050	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 口縁部片
4-021	床面土より浮き	坏身	11.6	4.1	非2次焼成	4-051	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-022	床面土より浮き	坏身	10.6		非2次焼成	4-052	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-023	床面土より浮き	坏身	11.4		非2次焼成	4-053	床面土より浮き	蓋	53.5		非2次焼成 口縁部
4-024	床面土より浮き	坏身	11.6		非2次焼成	4-054	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-025	床面土より浮き	坏身	10.6	4.2	非2次焼成	4-055	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-026	床面土より浮き	坏身	11.6		非2次焼成	4-056	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-027	床面土より浮き	坏身	11.4		非2次焼成	4-057	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-028	床面土より浮き	坏身	8.2		非2次焼成	4-058	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-029	床面土より浮き	坏身	10.2		非2次焼成	4-059	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片
4-030	床面土より浮き	坏身	12.2		非2次焼成	4-060	床面土より浮き	蓋			非2次焼成 胴部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-001	床面土より厚き	壺			非2次焼成 胴部片
4-002	床面土より厚き	壺			非2次焼成 胴部片
4-003	床面土より厚き	壺			非2次焼成 胴部片
4-004	床面土より厚き	壺			非2次焼成 胴部片
4-005	床面土より厚き	壺			非2次焼成 胴部片
4-006	床面土より厚き	壺			非2次焼成 胴部片 杯身破片
4-007	床面土より厚き	陶棺			非2次焼成 口縁部片
4-008	床面土より厚き	坏蓋	13.5	4.2	2次焼成
4-009	床面土より厚き	坏蓋	13.2	4.1	2次焼成
4-010	床面土より厚き	坏蓋	12.8	3.7	2次焼成
4-011	床面土より厚き	坏蓋	12.3	3.6	2次焼成 墨記号
4-012	床面土より厚き	坏蓋	12.4	3.2	2次焼成 墨記号
4-013	床面土より厚き	坏蓋	13.2	3.5	2次焼成
4-014	床面土より厚き	坏蓋	12.9	3.8	2次焼成 墨記号
4-015	床面土より厚き	坏蓋	12.2	3.7	2次焼成 墨記号
4-016	床面土より厚き	坏蓋	12.2	3.3	2次焼成
4-017	床面土より厚き	坏蓋	13.6	3.8	2次焼成
4-018	床面土より厚き	坏蓋	11.8		2次焼成
4-019	床面土より厚き	坏蓋	13.2	4.2	2次焼成
4-020	床面土より厚き	坏蓋	11.1	4.1	2次焼成
4-021	床面土より厚き	坏蓋	13.0	3.7	2次焼成
4-022	床面土より厚き	坏蓋	13.0	4.1	2次焼成
4-023	床面土より厚き	坏蓋	10.8		2次焼成
4-024	床面土より厚き	坏蓋	12.8	4.1	2次焼成
4-025	床面土より厚き	坏蓋	12.2	4.0	2次焼成
4-026	床面土より厚き	坏蓋	14.0	4.1	2次焼成
4-027	床面土より厚き	坏蓋	12.0	3.2	2次焼成
4-028	床面土より厚き	坏蓋	14.2		2次焼成
4-029	床面土より厚き	坏蓋	12.0	4.0	2次焼成 墨記号
4-030	床面土より厚き	坏蓋	11.2		2次焼成

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-031	床面土より厚き	坏蓋	10.8	3.9	2次焼成
4-032	床面土より厚き	坏身	11.0	4.4	2次焼成
4-033	床面土より厚き	坏身	10.8	3.7	2次焼成
4-034	床面土より厚き	坏身	11.0		2次焼成
4-035	床面土より厚き	坏身	10.2	3.5	2次焼成
4-036	床面土より厚き	坏身	10.6	3.6	2次焼成
4-037	床面土より厚き	坏身	11.2		2次焼成
4-038	床面土より厚き	坏身	9.8	3.1	2次焼成
4-039	床面土より厚き	坏身	11.4		2次焼成
4-100	床面土より厚き	坏身	12.0		2次焼成
4-101	床面土より厚き	坏身	12.7		2次焼成
4-102	床面土より厚き	坏身	11.6		2次焼成
4-103	床面土より厚き	坏身	11.7	3.4	2次焼成
4-104	床面土より厚き	高坏			2次焼成 胴部 3方透かし 墨記号 赤色顔料
4-105	床面土より厚き	高坏			2次焼成 胴部 3方透かし 墨記号 赤色顔料
4-106	床面土より厚き	高坏			2次焼成 胴部 3方透かし
4-107	床面土より厚き	高坏			2次焼成 胴部 2方透かし
4-108	床面土より厚き	高坏			2次焼成 胴部 3方透かし
4-109	床面土より厚き	高坏			2次焼成 胴部 2方透かし
4-110	床面土より厚き	壺の蓋	10.0	4.1	2次焼成 墨記号
4-111	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片
4-112	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片
4-113	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片
4-114	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片
4-115	床面土より厚き	高透貝類			2次焼成 胴部片
4-116	床面土より厚き	高透貝類			2次焼成 胴部片
4-117	床面土より厚き	高透貝類			2次焼成 胴部片
4-118	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片
4-119	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片
4-120	床面土より厚き	壺			2次焼成 胴部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-121	床面上より浮き	宮蓋貝類			2次焼成 胴部片
4-122	床面上より浮き	宮蓋貝類			2次焼成 胴部片
4-123	床面上より浮き	宮蓋貝類			2次焼成 胴部片
4-124	床面上より浮き	宮蓋貝類			2次焼成 胴部片
4-125	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-126	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-127	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-128	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-129	床面上より浮き	宮蓋貝類			2次焼成 胴部片
4-130	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-131	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-132	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-133	床面上より浮き	宮蓋貝類			2次焼成 口縁部片
4-134	床面上より浮き	壺			2次焼成 底面片
4-135	床面上より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-136	床面上部着	坏蓋	12.3	3.9	非2次焼成
4-137	床面上部着	坏蓋	11.4		非2次焼成
4-138	床面上部着	坏蓋	12.6		非2次焼成
4-139	床面上部着	坏蓋	11.8		非2次焼成
4-140	床面上部着	坏蓋	13.0		非2次焼成
4-141	床面上部着	坏蓋	13.0	2.6	非2次焼成
4-142	床面上部着	坏蓋	14.2		非2次焼成
4-143	床面上部着	坏蓋			非2次焼成 口縁部片
4-144	床面上部着	坏身	11.0	4.1	非2次焼成
4-145	床面上部着	坏身	13.4	4.0	非2次焼成
4-146	床面上部着	坏身	12.0		非2次焼成
4-147	床面上部着	坏身	10.8	4.2	非2次焼成
4-148	床面上部着	高坏			非2次焼成 胴部 2 方透かし
4-149	床面上部着	腹口蓋	8.2		非2次焼成 口縁部
4-150	床面上部着	壺			非2次焼成 胴部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-151	床面上部着	壺			非2次焼成 胴部片
4-152	床面上部着	壺	41.0		非2次焼成 口縁部
4-153	床面上部着	壺			非2次焼成 胴部片
4-154	床面上部着	坏蓋	12.0	4.1	2次焼成
4-155	床面上部着	坏蓋	12.0	4.0	2次焼成
4-156	床面上部着	坏蓋	12.6	3.8	2次焼成
4-157	床面上部着	坏蓋	12.7	4.7	2次焼成
4-158	床面上部着	坏蓋	14.6	2.7	2次焼成 器記号
4-159	床面上部着	坏蓋	12.6	3.8	2次焼成 器記号
4-160	床面上部着	坏蓋	13.2	3.5	2次焼成
4-161	床面上部着	坏蓋	13.6	3.1	2次焼成
4-162	床面上部着	坏蓋	11.8		2次焼成
4-163	床面上部着	坏蓋	12.0		2次焼成
4-164	床面上部着	坏蓋	12.5	2.7	2次焼成 器記号
4-165	床面上部着	坏蓋	12.2		2次焼成
4-166	床面上部着	坏蓋	12.8	3.9	2次焼成
4-167	床面上部着	坏蓋	12.4		2次焼成
4-168	床面上部着	坏蓋	12.4		2次焼成
4-169	床面上部着	坏蓋	10.6		2次焼成
4-170	床面上部着	坏身	11.5	3.9	2次焼成
4-171	床面上部着	坏身	12.0		2次焼成
4-172	床面上部着	坏身	12.3		2次焼成
4-173	床面上部着	坏身	10.9		2次焼成 器記号
4-174	床面上部着	坏身	11.8		2次焼成
4-175	床面上部着	坏身	10.4	4.0	2次焼成
4-176	床面上部着	坏身	10.2	2.3	2次焼成 横台台か?
4-177	床面上部着	坏身	10.2		2次焼成
4-178	床面上部着	坏身	12.6	4.8	2次焼成
4-179	床面上部着	壺の蓋	10.5		2次焼成
4-180	床面上部着	短蓋高坏	13.4		2次焼成 坏部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-181	床面上部着	高坪			2次焼成 胴部
4-182	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-183	床面上部着	柄瓶			2次焼成 胴部片
4-184	床面上部着	柄瓶			2次焼成 胴部片
4-185	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-186	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-187	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-188	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-189	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-190	床面上部着	深辺貝盤			2次焼成 胴部片
4-191	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-192	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-193	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-194	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-195	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-196	床面上部着	壺			2次焼成 胴部片
4-197	床面よりもぐり込み	坏身	12.4		非2次焼成
4-198	床面よりもぐり込み	高坪			非2次焼成 胴部 2方透かし
4-199	床面よりもぐり込み	壺			非2次焼成 胴部片
4-200	床面よりもぐり込み	坏蓋	13.2	4.0	2次焼成
4-201	床面よりもぐり込み	坏蓋	12.8	4.9	2次焼成 4-212とセット
4-202	床面よりもぐり込み	坏蓋	11.3	3.4	2次焼成 胎記号
4-203	床面よりもぐり込み	坏蓋	11.6		2次焼成
4-204	床面よりもぐり込み	坏蓋	13.2	4.0	2次焼成
4-205	床面よりもぐり込み	坏蓋	13.0	3.5	2次焼成
4-206	床面よりもぐり込み	坏蓋	12.6	3.2	2次焼成
4-207	床面よりもぐり込み	坏蓋	12.8	3.7	2次焼成
4-208	床面よりもぐり込み	坏蓋	10.6		2次焼成
4-209	床面よりもぐり込み	坏身	10.6	2.8	2次焼成
4-210	床面よりもぐり込み	坏身	9.0	3.8	2次焼成

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
4-211	床面よりもぐり込み	坏身	12.0		2次焼成
4-212	床面よりもぐり込み	坏身	10.6	4.1	2次焼成 4-201とセット
4-213	床面よりもぐり込み	壺の蓋	10.4		2次焼成
4-214	床面よりもぐり込み	無蓋高坪	12.6		2次焼成 坏部
4-215	床面よりもぐり込み	高坪			2次焼成 胴部
4-216	床面よりもぐり込み	壺			2次焼成 胴部片
4-217	床面よりもぐり込み	壺			2次焼成 胴部片
4-218	床面よりもぐり込み	壺			2次焼成 胴部片
4-219	床面よりもぐり込み	壺			2次焼成 胴部片
4-220	床面よりもぐり込み	壺			2次焼成 口縁部片
4-221	床面よりもぐり込み	壺	39.9		2次焼成 口縁部片
4-222	床面下より浮き	壺			非2次焼成 1部部片
4-223	床面下より浮き	壺			非2次焼成 胴部片
4-224	床面下より浮き	壺			非2次焼成 胴部片
4-225	床面下より浮き	浅通丹器			2次焼成 胴部片
4-226	床面下より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-227	床面下より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-228	床面下より浮き	壺			2次焼成 胴部片
4-229	床面下部着	坏蓋	12.6		非2次焼成 口縁部
4-230	床面下部着	坏身	9.4	3.9	2次焼成 胎記号
4-231	床面下部着	壺			2次焼成 胴部片
4-232	床面下部着	壺			2次焼成 胴部片
4-233	床面下よりもぐり込み	坏蓋	13.6	4.0	2次焼成
4-234	床面下よりもぐり込み	坏蓋	12.6		2次焼成
4-235	床面下よりもぐり込み	坏蓋	11.4	3.9	2次焼成
4-236	床面下よりもぐり込み	坏身	10.2	3.1	2次焼成
4-237	床面下よりもぐり込み	坏身	10.3		2次焼成 口縁部
4-238	床面下よりもぐり込み	無蓋高坪	13.8		2次焼成 坏部
4-239	床面下部下の無変化層	壺			2次焼成 胴部片

5号窯跡出土遺物一覧

番号	地区・層位	形 態	口径 cm	器高 cm	備 考
5-001	床面密着	坏蓋	12.4	3.8	非2次焼成
5-002	床面密着	坏蓋	14.0	4.0	非2次焼成
5-003	床面密着	坏蓋			2次焼成 口縁部片
5-004	床面密着	坏蓋	12.6	3.8	2次焼成
5-005	床面密着	坏蓋	12.4		非2次焼成 口縁部
5-006	床面より浮き	坏蓋	11.8		非2次焼成 口縁部
5-007	床面密着	坏身	11.0	3.7	非2次焼成
5-008	床面密着	瓶蓋高坏	11.0		非2次焼成 坏部
5-009	床面より浮き	高坏			非2次焼成 2方造かL
5-010	床面密着	横板			非2次焼成 把手付
5-011	床面密着	短横板			非2次焼成 胴部
5-012	床面密着	蓋			非2次焼成 底部
5-013	床面より浮き	環			2次焼成 胴部片
5-014	床面より浮き	環			非2次焼成 胴部片
5-015	床面密着	横板			非2次焼成 胴部片
5-016	床面より浮き	横板			非2次焼成 底部片

6号窯跡出土遺物一覧

番号	地区・層位	形 態	口径 cm	器高 cm	備 考
6-001	床面密着	坏	13.0	4.0	非2次焼成 底面回転 糸切り
6-002	床面密着	高台付坏			非2次焼成 底面回転 糸切り
6-003	床面密着	坏			非2次焼成 底面回転 糸切り
6-004	床面密着	坏			非2次焼成 底面回転 糸切り
6-005	床面より浮き	高台付坏			非2次焼成 底面回転 糸切り 底部
6-006	床面密着	坏			非2次焼成 底面回転 糸切り 底部
6-007	床面より浮き	高台付坏			非2次焼成 底面回転 糸切り 底部
6-008	床面より浮き	環			2次焼成 底部
6-009	床面密着	鍋			2次焼成 胴部
6-010	床面密着	坏身			2次焼成
6-011	床面密着	高台付坏			2次焼成 底面回転糸 切り 底部
6-012	床面密着	蓋	11.7		2次焼成 口縁部

番号	地区・層位	形 態	口径 cm	器高 cm	備 考
6-013	床面密着	環			2次焼成 胴部片
6-014	床面密着	環			非2次焼成 胴部片
6-015	床面密着	高透貝類			2次焼成 胴部片
6-016	床面密着	高透貝類			2次焼成 胴部片
6-017	床面より浮き	高透貝類 (陶器)			2次焼成 実器状の縁 有り
6-018	床面より浮き	高透貝類 (陶器)			2次焼成 実器状の縁 有り

3号土甕出土遺物一覧

番号	地区・層位	形 態	口径 cm	器高 cm	備 考
3-001	壁面灰接	坏蓋	11.8	3.9	焼2号
3-002	壁面灰接	坏蓋	12.0	4.6	
3-003	壁面灰接	坏蓋	12.8	3.8	
3-004	表土	坏身	8.0	3.0	
3-005	表土	高台付蓋			底部
3-006	表土	環	13.8		口縁部
3-007	2層	環土造つ まる付蓋	7.2	2.4	かえり
3-008	2層	土馬			須含質 赤色顔料彩色
3-009	2・3層	土馬			土質質 赤色顔料彩色
3-010	3層	坏蓋	12.7	3.9	
3-011	3層	坏蓋	12.8	3.9	
3-012	3層	坏蓋	13.0	4.6	
3-013	3層	坏蓋	11.8	4.3	焼2号
3-014	3層	坏蓋	11.4	4.2	
3-015	3層	坏蓋	10.2	3.5	
3-016	3層	坏蓋	9.4	3.4	
3-017	3層	坏蓋	8.2	3.4	
3-018	3層	坏蓋	11.2	4.1	
3-019	3層	坏蓋	11.0	3.6	
3-020	3層	坏蓋	10.5	4.0	
3-021	3層	坏蓋	9.6	3.4	
3-022	3層	坏蓋	11.0	4.0	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
3-023	3層	坏身	10.4	4.3	
3-024	3層	坏身	12.3	4.4	
3-025	3層	坏身	9.5	3.8	
3-026	3層	坏身	11.2	4.2	
3-027	3層	坏身	10.0	4.0	
3-028	3層	坏身	10.8	3.8	
3-029	3層	坏身	10.0	3.9	
3-030	3層	坏身	9.6	3.7	
3-031	3層	坏身	8.6	3.1	
3-032	3層	坏身	7.6	3.2	銘記号
3-033	3層	坏身	10.0	3.5	銘記号
3-034	3層	坏身	10.0	3.4	
3-035	3層	坏身	9.8	3.2	銘記号
3-036	3層	鉢状つまみ付電	14.7	2.4	かえり
3-037	3層	皿	16.0	3.4	
3-038	3層	皿	15.0		
3-039	3層	低脚杯	10.6	6.0	
3-040	3層	低脚杯	8.8	4.6	銘記号
3-041	3層	高台付杯			底部
3-042	3層	高台付杯			底部
3-043	3層	無蓋高杯	15.0	10.1	ラッパ状
3-044	3層	高杯			胴部 2方透かし
3-045	3層	高杯			胴部 2方透かし
3-046	3層	無蓋高杯	16.0	11.7	2方透かし
3-047	4層	長頸瓶	7.4	17.6	
3-048	3層	壺	9.8	12.9	
3-049	3層	甕	10.8		口縁部
3-050	3層	甕	13.0		口縁部
3-051	3層	甕	20.5		口縁部
3-052	3層	甕	35.2		胴部 口縁部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
3-053	3層	甕	42.0		土師器 口縁部
3-054	3層	甕	31.2		土師器 口縁部
3-055	3層	甕	31.2		土師器 口縁部
3-056	3層	土製支脚			土師器
3-057	3層	土製支脚			土師器
3-058	3層	甕			土師器
3-059	3層	甕			土師器
3-060	1・2・3層	坏身	11.0	4.2	
3-061	2・3層	坏身	8.2	2.6	

灰原調査区（上の北区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-001	B・C-12 2層	甕	13.8		口縁部 円形鋸突文
灰-002	B・C-12 2層	甕	19.1		口縁部
灰-003	C-12 2層	甕			胴部片
灰-004	C-12 2層	甕			胴部片
灰-005	B-12 2'層	皿	14.6	2.2	底面凹形糸切り
灰-006	B-12 2'層	皿			胴部
灰-007	C-12 4層	盃			ヤット(竪穴開き)
灰-008	C-13 4層	把手			須恵質
灰-009	B・C-10 5層	坏蓋	13.0	4.0	
灰-010	C-12 5層	坏蓋	15.2	3.9	
灰-011	C-12 5層	坏蓋	13.5	4.4	
灰-012	B・C-10 5層	坏蓋	13.4	4.3	
灰-013	C-12 5層	坏蓋	13.0	4.7	
灰-014	C-12 5層	坏蓋	13.5	4.0	
灰-015	C-12 5層	坏蓋	13.6	4.5	
灰-016	C-11 5層	坏蓋	12.8		
灰-017	C-11 5層	坏蓋	13.8	3.8	
灰-018	C-12 5層	坏蓋	12.0	3.4	
灰-019	C-12 5層	坏蓋	13.8	4.0	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-020	C-10	5層 坏身	10.8	4.1	
灰-021	B・C-12	5層 坏身	11.0	4.4	
灰-022		5層 坏身	11.2	4.5	
灰-023	C-12	5層 坏身	12.6	4.0	
灰-024	C-12	5層 坏身	12.4	4.4	
灰-025	B・C-10	5層 坏身	11.4	3.3	
灰-026	H・C-12	5層 坏身	11.2	3.9	
灰-027	B・C-12	5層 坏身	11.5	3.6	
灰-028	C-10	5層 坏身	10.8	3.9	
灰-029	B・C-12	5層 坏身	11.0	3.8	
灰-030	C-12	5層 坏身	10.0	3.4	跡記号
灰-031	C-10	5層 盃坏			セット(重ね抜き)
灰-032	C-12	5層 盃坏			セット(重ね抜き)
灰-033	C-12	5層 盃坏			セット(3個体併置)
灰-034	C-10	5層 無蓋高坏	19.0		坏部
灰-035	C-11	5層 加蓋高坏	10.8		坏部
灰-036	C-10	5層 有蓋高坏	12.4		坏部
灰-037	C-10	5層 有蓋高坏	13.0		坏部
灰-038	B・C-10	5層 有蓋高坏	12.0		坏部
灰-039	B・C-12	5層 甕	30.8		口縁部
灰-040	B・C-10	5層 甕	22.2		口縁部カサ目跡記号
灰-041		5層 甕	16.8		口縁部
灰-042	B・C-10	5層 甕	42.2		口縁部
灰-043	B・C-10	5層 甕	45.0		口縁部
灰-044	B・C-10	5層 甕	44.0		口縁部
灰-045	B・C-10	5層 甕	40.0		口縁部
灰-046	B-12	5層 甕			口縁部片
灰-047	C-11	5層 甕			胴部片
灰-048	B・C-10	5層 甕			胴部片
灰-049	B・C-10	5層 甕			胴部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-050	C-11	5層 甕			胴部片
灰-051	B・C-10	5層 甕			胴部片
灰-052	C-11	5層 把手			土師質
灰-053	C-11	5層 土玉			土師質

灰原調査区(上の南区)出土遺物一覽

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-054	A-11・12	1層 甕			口縁部片
灰-055	A-11	2'層 坏蓋	11.8	3.5	
灰-056	A-11	2'層 輪状つまみ付蓋	13.2	1.8	天井回転糸切り
灰-057	A-11	2'層 蓋	11.7		天井回転り
灰-058	A-11	2'層 規定径つまみ付蓋	14.4	2.1	天井回転糸切り
灰-059	A-11	2'層 規定径つまみ付蓋	13.8	3.1	天井回転り
灰-060	A-11	2'層 規定径つまみ付蓋	13.8	3.7	天井回転糸切り
灰-061	A-12	2'層 蓋	13.8		天井回転り
灰-062	A-11	2'層 蓋	16.0		天井回転り
灰-063	A-12	2'層 皿	14.2	2.5	底部回転糸切り
灰-064	A-12 2'層	A-125 皿	14.8	2.3	底部回転糸切り
灰-065	A-11	2'層 皿	15.4	2.1	底部回転糸切り
灰-066	A-11	2'層 皿	12.8	2.7	底部回転糸切り
灰-067	A-12	2'層 皿	13.8	2.2	底部回転糸切り
灰-068	A-11	2'層 皿	14.0	2.5	底部回転糸切り
灰-069	A-11	2'層 坏	12.0	4.1	底部回転糸切り
灰-070	A-11	2'層 坏	11.1	4.1	底部回転糸切り
灰-071	A-11	2'層 高台付坏	16.0	3.3	底部回転糸切り
灰-072	A-12	2'層 高台付坏	15.6	3.2	底部回転糸切り 底部
灰-073	A-12 2'層	A-125 高台付坏			底部回転糸切り
灰-074	A-12	2'層 高台付蓋			底部糸切り
灰-075	A-11	2'層 高坏			底部 2段透かし
灰-076	A-11	2'層 丸口甕	14.0		口縁部
灰-077	A-11	2'層 甕	22.4		口縁部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-078	A-11 2'層	鍋	20.0		口縁部
灰-079	A-11 2'層	器底不明			須磨製
灰-080	A-12 2'層	把手			須磨製
灰-081	A-12 2層	蓋			常滑焼 口縁部片
灰-082	A-12 2層	蓋			須磨片
灰-083	A-11 2'層	鈴懸車			石製
灰-084	A-12 2'層	石鏝			黒厚石製
灰-085	A-11 4層	坏蓋	13.4		
灰-086	A-12 4層	坏身	11.5	3.7	
灰-087	A-12 4層	坏身	10.6	3.9	階記号
灰-088	A-11 4層	輪伏つまみ付蓋	13.0	2.5	天井糸切り
灰-089	A-12 4層	蓋	12.9		天井糸切り
灰-090	A-12 5 4層	蓋	18.9		
灰-091	A-12 4層	坏	12.0	3.7	底部回転糸切り
灰-092	A-12 4層	坏	11.4	4.6	底部回転糸切り
灰-093	A-11・12 4層	坏	10.6	3.9	底部回転糸切り
灰-094	A-12 4層	坏	11.0	4.4	底部回転糸切り
灰-095	A-11 4層	坏	12.3	4.7	重ね焼き(2段) 底部糸切り
灰-096	A-12 4層	坏	12.4	4.2	重ね焼き(4段) 底部糸切り
灰-097	A-12 4層	坏	11.0	3.5	重ね焼き(5段) 底部糸切り
灰-098	A-12 4層	坏			重ね焼き(8段) 底部糸切り
灰-099	A-12 4層	高台付坏			底蓋
灰-100	A-12 4層	高台付坏			底蓋
灰-101	A-11 5 4層	高台付坏	16.0	6.8	底部回転糸切り
灰-102	A-11 4層	高台付坏			底部回転糸切り 底蓋
灰-103	A-11 5 4層	高台付坏	13.4	4.3	底部回転糸切り
灰-104	A-12 4層	高台付坏	12.6	4.7	底部回転糸切り
灰-105	A-12 4層	高台付坏	12.0	4.1	重ね焼き(4段) 底部糸切り
灰-106	A-12 4層	高坏			2方透かし(3角・切り込み)
灰-107	A-12 4層	高坏			脚部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-108	A-12 4層	燒			
灰-109	A-12 4層	広口蓋	10.4	6.1	底部糸切り
灰-110	A-12 4層	短頸蓋	7.2		
灰-111	A-11 4層	蓋	11.0		口縁部
灰-112	A-12 4層	小型蓋	5.2	6.6	底部糸切り
灰-113	A-12 4層	蓋	19.2		口縁部
灰-114	A-11 4層	蓋	20.6		口縁部
灰-115	A-12 4層	蓋	18.2		口縁部
灰-116	A-12 4層	蓋	20.0		口縁部
灰-117	A-11 4層	蓋			口縁部片
灰-118	A-11 4層	蓋			頸部片
灰-119	A-12 4層	蓋			頸部片
灰-120	A-12 5 4層	蓋			土師製
灰-121	A-11 5層	坏身	10.4		
灰-122	A-11 5層	坏身	11.4	4.0	
灰-123	A-11 5層	坏身	11.0	4.3	
灰-124	A-11 5層	坏身	8.8	3.3	階記号
灰-125	A-11 5層	無蓋高坏	16.8	11.5	2段2方透かし カキ付
灰-126	A-11 5層	蓋			頸部 階記号
灰-127	C-12 5層	蓋			口縁部片
灰-128	A-11 5層	燒			頸部片
灰-129	A-11 5層	把手			須磨製
灰-130	A-11 6層	坏蓋	13.0	3.6	
灰-131	A-11 6層	坏蓋	12.8	3.8	
灰-132	A-11 6層	坏蓋	13.4	3.7	
灰-133	A-11 6層	坏身	30.8	3.9	
灰-134	A-11 6層	坏身	12.0	4.4	
灰-135	A-11 6層	坏身	11.2	3.9	
灰-136	A-12 6層	高台付坏			底蓋 底部回転糸切り
灰-137	A-12 6層	蓋			底蓋 階記号

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-138	A-12 0層	甕	22.6		L線部
灰-139	A-13S流れ込 み	坏身	8.0	3.1	
灰-140	A-13S流れ込 み	坏身	8.6	3.6	
灰-141	A-13S流れ込 み	坏身	8.8	3.8	
灰-142	A-12S流れ込 み	高台付坏	14.9	4.5	底面糸切り
灰-143	A-13S流れ込 み	高坏			器部 2方透かし(内 孔)
灰-144	A-13S流れ込 み	無蓋高坏	15.4		坏部
灰-145	A-13S流れ込 み	無蓋高坏	15.2	10.3	2方透かし(切り込み)
灰-146	A-12S流れ込 み	短頸甕	9.4		
灰-147	A-13S流れ込 み	甕			
灰-148	A-13S流れ込 み	甕	11.3		
灰-149	A-13S流れ込 み	甕	15.6		口縁部
灰-150	A-13S流れ込 み	甕	20.6		
灰-151	A-13S流れ込 み	甕	28.6		土師器
灰-152	A-13S流れ込 み	甕	28.0		土師器
灰-153	A-13S流れ込 み	甕	20.4		土師器
灰-154	A-13S流れ込 み	甕	20.2		土師器
灰-155	A-13S流れ込 み	土製支脚			土師器
灰-156	A-13S流れ込 み	土製支脚			土師器

灰原調査区(下の北区) 出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-157	1層	钵坏			
灰-158	1層	直口甕	8.6		底面糸切り
灰-159	1層	直口甕	8.6	11.4	底面糸切り
灰-160	1層	甕	17.8		口縁部
灰-161	1層	土周			須恵器
灰-162	1層	須恵器			内孔
灰-163	AB-8 2'層	輪状つま み付蓋	13.4	2.7	底面糸切り
灰-164	AH-8 2'層	甕	14.0	2.9	底面糸切り
灰-165	AB-8 2'層	坏	10.4		底面糸切り

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-166	AB-8 2'層	高台付坏	16.3	3.9	底面糸切り
灰-167	AB-8 2'層	高台付坏	16.8	2.6	底面糸切り
灰-168	AH-8 2'層	高台付坏	10.8	4.3	底面糸切り
灰-169	AB-8 2'層	高台付坏	16.2	3.4	
灰-170	C-6 2'層	甕			頸部片
灰-171	2'層	甕			口縁部片
灰-172	B-6 2'層	甕			口縁部片
灰-173	C-6 2'層	甕			口縁部片
灰-174	C-6 2'層	甕			口縁部片
灰-175	2'層	甕	38.4		口縁部
灰-176	AB-8 2'層	把手			須恵器
灰-177	C-6 2'層	甕	12.6		口縁部 口縁部片
灰-178	2層	甕			口縁部片
灰-179	C-6 2層	甕			口縁部片
灰-180	BC-6 3層	坏蓋	12.6	3.8	筆記号
灰-181	BC-6 3層	坏蓋	13.0	4.1	
灰-182	3層	坏蓋	12.2	3.4	
灰-183	BC 6 3層	坏身	11.8	4.1	
灰-184	C-6 3層	坏身	9.0	4.0	
灰-185	B-7 3層	C-8 坏	11.2	3.9	底面糸切り 2方透かし
灰-186	B-C-6 3層	高坏			口縁部
灰-187	3層	甕	13.6		口縁部片
灰-188	AB-6 3層	甕			口縁部
灰-189	C-6 3層	甕	51.3		口縁部
灰-190	C-6 4層	坏蓋	11.8	4.0	
灰-191	B-7 4層	坏蓋	12.4	3.6	
灰-192	C-8 4層	坏蓋	12.7	3.8	
灰-193	B-7 4層	坏蓋	11.2		
灰-194	C-6 4層	坏蓋	11.6	4.6	
灰-195	C-6 4層	坏身	10.3	4.3	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-196	B・C-6 4層	坏身	10.8	4.2	
灰-197	B-7・8 4層	蓋	12.2		天井部糸切り
灰-198	B-7・8 4層	蓋(土塊つ まみ付蓋)			
灰-199	C-8 4層	輪状つま み付蓋	17.2	3.5	かえり
灰-200	4層	坏	10.8	4.1	底部部糸切り
灰-201	C-6 4層	坏	10.8	4.2	底部部糸切り
灰-202	B・C-5 4層	坏	12.8	4.0	底部部糸切り
灰-203	B・C-5 4層	高台付坏			底部部糸切り
灰-204	C-5 4層	高台付坏			底部 底部糸切り
灰-205	C-6 4層	高台付坏	19.8	3.4	底部糸切り
灰-206	B-6 4層	高坏			側部 2方透かし
灰-207	C-6 4層	甕	18.4		L線部
灰-208	C-6 4層	甕	33.8		口縁部
灰-209	C-7 4層	土玉			須臾貫
灰-210	C-6 5層	坏蓋	12.2	4.4	
灰-211	5層	坏蓋	12.3	4.4	
灰-212	5層	坏蓋	13.2	4.4	
灰-213	C-6 5層	坏蓋	12.5	4.1	
灰-214	5層	坏蓋	12.3	4.1	
灰-215	C-6 5層	坏蓋	12.8	4.1	
灰-216	C-6 5層	坏蓋	13.0	4.6	
灰-217	C-9 5層	坏蓋	12.4	3.9	
灰-218	B-9 5層	坏蓋	12.6	4.4	
灰-219	C-6 5層	坏蓋	12.2	4.5	
灰-220	C-10 5層	坏蓋	14.4	4.7	
灰-221	5層	坏蓋	12.0	4.1	
灰-222	B-7・8 5層	坏蓋	13.0	4.4	
灰-223	B-9 5層	坏蓋	12.2	4.4	
灰-224	B-6・7 5層	坏蓋	12.1	4.4	
灰-225	C-5 5層	坏蓋	12.8	4.4	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-226	C-8 5層	坏蓋	12.6	4.6	
灰-227	C-6 5層	坏蓋	12.6	4.1	
灰-228	C-6 5層	坏蓋	12.0	4.5	
灰-229	C-6 5層	坏蓋	11.8	4.1	
灰-230	5層	坏蓋	12.6	4.1	
灰-231	B-7 5層	坏蓋	13.2	4.0	
灰-232	5層	坏蓋	11.8	3.9	
灰-233	D-6 5層	坏蓋	12.8	4.2	
灰-234	5層	坏蓋	13.0	3.1	
灰-235	C-6 5層	坏蓋	12.6	3.4	
灰-236	5層	坏蓋	12.8	3.8	
灰-237	C-6 5層	坏蓋	13.0	4.1	
灰-238	5層	坏蓋	11.6	3.4	
灰-239	B-7・8 5層	坏蓋	13.8	3.9	黒記号
灰-240	D-6 5層	坏蓋	12.8	3.5	黒記号
灰-241	5層	坏蓋	13.0	3.8	
灰-242	C-9・10 5層	坏蓋	14.0	4.1	
灰-243	C-6 5層	坏蓋	10.8	3.5	
灰-244	C-6 5層	坏蓋	12.8	4.5	
灰-245	C-6 5層	坏蓋	12.0	4.4	
灰-246	5層	坏蓋	12.0	3.7	
灰-247	H-8 6層	坏蓋	11.6	3.5	
灰-248	C-6 5層	坏蓋	12.0	3.3	
灰-249	5層	坏蓋	11.6		
灰-250	D-7 5層	坏蓋	13.2	3.7	
灰-251	5層	坏蓋	12.0	4.2	
灰-252	C-6 5層	坏蓋	12.6	4.3	
灰-253	B-7 5層	坏蓋	13.0		
灰-254	B・C-7 5層	坏蓋	13.0	4.0	
灰-255	B-9 5層	坏蓋	12.4	3.9	

番 号	地区・层位	形 态	口径 cm	器高 cm	備 考
灰-256	C·D-8	5层 环颈	13.0	4.6	
灰-257	C-6	5层 环盖	12.8	4.3	
灰-258	C-6	5层 环盖		3.8	
灰-259	C-6	5层 环盖	12.7	3.6	
灰-260	C-8	5层 环盖	12.2	3.0	
灰-261		5层 环盖	12.8	4.0	
灰-262		5层 环盖	12.6	4.2	
灰-263	B·C-10	5层 环盖	13.5	4.2	
灰-264	C-6	5层 环盖	12.2	4.3	
灰-265		5层 环盖	13.4	4.4	
灰-266	C-6	5层 环盖	12.4	5.2	
灰-267		5层 环盖	13.2	4.6	
灰-268	C-6	5层 环盖	13.2	4.3	
灰-269		5层 环盖	10.8	4.1	
灰-270	B·C-6	5层 环盖	11.8	3.8	
灰-271	C-6	5层 环盖	12.8	4.3	
灰-272		5层 环盖	12.6	4.5	
灰-273	C-10	5层 环盖	11.8	4.1	
灰-274	C-6	5层 环盖	11.8	3.8	
灰-275	B·7·8	5层 环盖	12.5	4.1	
灰-276	C-6	5层 环盖	12.2	4.4	
灰-277		5层 环身	10.9	4.3	
灰-278	D-5	5层 环身		3.8 4.0	
灰-279		5层 环身	10.8	4.2	
灰-280	C-6	5层 环身	12.0	4.5	
灰-281	B-7·8	5层 环身	11.3	4.3	
灰-282	B-9	5层 环身	11.8	4.7	
灰-283	C-9	5层 环身	11.6	4.3	
灰-284		5层 环身	11.6	4.8	
灰-285	B·7·8	5层 环身	10.8	4.3	

番 号	地区・层位	形 态	口径 cm	器高 cm	備 考
灰-286	B-7·8	5层 环身	10.8	4.5	
灰-287	B-7·8	5层 环身	10.5	4.6	
灰-288	C-6	5层 环身	11.0	4.8	
灰-289	D-5	5层 环身	10.4	4.3	
灰-290	B-7	5层 环身	10.3	4.0	
灰-291	B-9	5层 环身	10.8	4.1	
灰-292	B-9	5层 环身	10.0	3.1	
灰-293	C-6	5层 环身	10.8	3.9	
灰-294	C-5	5层 环身	11.0		
灰-295	C-6	5层 环身	10.6	4.2	
灰-296	C-5	5层 环身	10.6	4.3	
灰-297	C-6	5层 环身	10.6	3.9	
灰-298	C-6	5层 环身	11.0	3.4	
灰-299	C-8	5层 环身	10.6	3.6	
灰-300	C-9	5层 环身	11.0	4.3	
灰-301		5层 环身	10.8	4.2	
灰-302		5层 环身	11.2	3.4	
灰-303		5层 环身	10.3	3.9	
灰-304	C-8	5层 环身	10.8	4.1	
灰-305	C-6	5层 环身	10.2	4.1	
灰-306		5层 环身	9.8	4.1	
灰-307	C-8	5层 环身	11.0	4.1	
灰-308	C-8	5层 环身	11.2	4.2	
灰-309	B·C-7	5层 环身	11.6	4.1	
灰-310		5层 环身	11.8	4.1	
灰-311	B-9	5层 环身	10.6	3.7	
灰-312		5层 环身	11.0	3.9	
灰-313	C-8	5层 环身	10.6	3.6	
灰-314	B-7·8	5层 环身	11.8	3.9	
灰-315	H·C-8	5层 环身	9.8	2.8	

番号	地区・層位	形態	門径 cm	窓高 cm	備考
灰-316	B・C-8 5層	环身	12.2	4.2	
灰-317	D-5 5層	环身	11.4	3.6	
灰-318	5層	环身	10.4	3.8	
灰-319	C-5 5層	环身	10.6	3.9	図記号
灰-320	C-6 5層	环身	11.2	4.4	図記号
灰-321	C-6 5層	环身	10.2	3.6	図記号
灰-322	C-9 5層	环身	10.0	3.9	
灰-323	C-5 5層	环身	10.6	4.3	
灰-324	5層	环身	11.6	3.9	
灰-325	C-7 5層	环身	11.0	4.1	
灰-326	H・C-6 5層	环身	11.0	4.0	
灰-327	B・C-8 5層	环身	10.8	3.6	
灰-328	C-5 5層	环身	11.2	3.8	
灰-329	D-7 5層	环身	11.6	3.9	
灰-330	5層	环身	10.4	3.6	
灰-331	B-9 5層	环身	11.4	3.5	
灰-332	fi-7 5層	环身	11.3	3.8	
灰-333	B-7 5層	环身	10.2	3.8	図記号
灰-334	C-6 5層	环身	10.6	4.7	
灰-335	5層	环身	10.0	4.0	
灰-336	B-9 5層	环身	11.4	3.8	
灰-337	C-6 5層	环身	10.6	4.9	
灰-338	5層	环身	12.2	4.6	
灰-339	5層	环身	10.8	4.4	
灰-340	5層	环身	11.0	3.6	
灰-341	C-6 5層	环身	11.2	4.3	
灰-342	B-9 5層	环身	10.8	4.2	
灰-343	C-6 5層	环身	10.5	3.9	
灰-344	C-9 5層	环身	11.0	4.4	
灰-345	C-6 5層	环身	9.6	3.5	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	窓高 cm	備考
灰-346	C-6 5層	环身	9.8	4.2	
灰-347	5層	环身	9.9	3.5	
灰-348	C-9 5層	环身	10.0	3.9	
灰-349	B-7 5層	窓环			セット(裏ね巻き)
灰-350	C-6 5層	窓环			セット(裏ね巻き)
灰-351	C-6 5層	窓环			セット(裏ね巻き)
灰-352	C-9 5層	窓环			セット(裏ね巻き) 図記号
灰-353	C-8 5層	窓环			セット(裏ね巻き) 図記号
灰-354	C-8 5層	窓环			セット(裏ね巻き) 図記号
灰-355	5層	窓环			セット(裏ね巻き)
灰-356	5層	輪状つまみ付蓋			天井部片
灰-357	B・C-10 5層	輪状つまみ付蓋			天井部片
灰-358	C-8 5層	輪状つまみ付蓋	14.0	3.4	
灰-359	C-8 5層	無蓋窓环	12.5		环部 2方透かし
灰-360	5層	無蓋窓环	10.0		环部
灰-361	C-6 5層	無蓋窓环	12.8	10.6	2方透かし
灰-362	C-9 5層	無蓋窓环	13.2		环部
灰-363	B-9 5層	無蓋窓环	11.0		环部
灰-364	5層	無蓋窓环	12.8		环部 2方透かし
灰-365	5層	無蓋窓环	14.6		环部
灰-366	5層	無蓋窓环	14.8		环部
灰-367	C-5 5層	有蓋窓环	12.0	11.6	3方透かし
灰-368	5層	有蓋窓环	11.3		3方透かし
灰-369	C-9 5層	有蓋窓环	13.8	13.3	3方透かし
灰-370	C-9 5層	有蓋窓环	11.6		环部
灰-371	C-6 5層	有蓋窓环	11.0		环部 3方透かし
灰-372	C-9 5層	有蓋窓环	11.0		环部
灰-373	5層	窓环			窓部 3方透かし
灰-374	C-6 5層	高环			窓部 3方透かし
灰-375	B・C-6 5層	高环			窓部 3方透かし

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-376	C-10 5層	高杯			細部 2段3方透かし
灰-377	5層	高杯			細部
灰-378	C-6 5層	壺の蓋	10.0	4.0	
灰-379	5層	壺の蓋	10.4	4.2	
灰-380	5層	壺の蓋	10.4	4.0	
灰-381	B-9 5層	小型蓋の蓋			セット(重ね置き)
灰-382	5層	短頸壺	4.2	5.7	
灰-383	B-8 5層	短頸壺	8.8	5.5	
灰-384	D-7 5層	短頸壺	8.0		
灰-385	C-6 5層	短頸壺	4.4		細状工具による刺突文
灰-386	B-8 5層	短頸壺	10.6		
灰-387	B-9 5層	短頸壺	12.8		細状工具による刺突文
灰-388	5層	直口壺	8.2		
灰-389	5層	直口壺	9.8		
灰-390	5層	直口壺	9.2		
灰-391	C-6 5層	直口壺	9.2		
灰-392	5層	直口壺	6.8		
灰-393	C-8 5層	直口壺	7.1	8.0	
灰-394	C-6 5層	直口壺	8.8	11.7	カキ目
灰-395	B-9 5層	直口壺	7.4		カキ目
灰-396	5層	壺	12.0		口縁部
灰-397	B・C-7 5層	壺	11.2		口縁部 施記号
灰-398	C-6 5層	壺	11.4		口縁部
灰-399	5層	提瓶	10.5		把手あり
灰-400	B-7・8 5層	提瓶			細部 施記号
灰-401	5層	提瓶	13.6		把手あり
灰-402	C-9 5層	提瓶	12.2		
灰-403	B・C 8 5層	提瓶	13.8		口縁部
灰-404	H・C-8・9 5層	提瓶	15.7		
灰-405	B・C-8 5層	壺	14.0		口縁部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
灰-406	5層	壺	16.2		口縁部
灰-407	5層	壺	18.8		口縁部
灰-408	C-6 5層	壺	16.8		口縁部
灰-409	H-7・8 5層	壺	20.0		口縁部
灰-410	5層	壺	20.2		口縁部
灰-411	C-6 5層	壺			口縁部片
灰-412	5層	壺			口縁部片
灰-413	B-7・8 5層	壺			口縁部片
灰-414	C-6 5層	壺			口縁部片
灰-415	5層	壺	16.8		口縁部
灰-416	C-6 5層	壺			口縁部片
灰-417	B-9 5層	壺			口縁部片
灰-418	C-6 5層	壺			口縁部片
灰-419	B-7 5層	壺	37.0		口縁部
灰-420	B-8 5層	壺	46.4		口縁部
灰-421	C-6 5層	壺	49.2		口縁部
灰-422	C-6 5層	壺	53.0		口縁部
灰-423	5層	壺	47.0		口縁部
灰-424	5層	壺	48.6		口縁部
灰-425	B-9 5層	壺			口縁部 制作片(杯身形管)
灰-426	H・C-8 5層	壺	19.2		口縁部
灰-427	5層	壺	20.1		口縁部
灰-428	B・C-9 5層	壺	15.8		口縁部
灰-429	5層	壺	16.6		口縁部
灰-430	B・C-6 5層	壺	19.6		口縁部
灰-431	5層	壺	15.0		口縁部
灰-432	5層	壺	17.8		口縁部
灰-433	5層	壺			口縁部片
灰-434	C-8 5層	壺			口縁部片
灰-435	C-9 5層	壺			口縁部片

番号	地区・層位	形態	口径 cm	高さ cm	備考
灰-436	C-6 5層	甕	21.2		口縁部
灰-437	C-8 5層	甕	23.0		
灰-438	5層	甕	48.0		口縁部
灰-439	5層	甕	40.4		口縁部
灰-440	H-9 5層	甕	54.6		口縁部
灰-441	B+C-5 5層	甕	43.0		口縁部
灰-442	B-9 5層	甕	44.0		口縁部
灰-443	5層	甕	30.0		口縁部
灰-444	B+C-9・10 5層	甕			口縁部片
灰-445	C-6 5層	甕	16.2		口縁部
灰-446	C-9 5層	甕	14.8		口縁部
灰-447	5層	甕	11.2		口縁部
灰-448	5層	甕	11.6		
灰-449	5層	甕	0.4		
灰-450	5層	甕	18.3		
灰-451	B-7 5層	甕	20.0		
灰-452	B-8・9 5層	甕	12.0		口縁部
灰-453	B+C-6 5層	甕			口縁部片
灰-454	B+C-8 5層	甕			口縁部片
灰-455	5層	甕			口縁部片
灰-456	B-7・8・9 5層	甕	17.0		口縁部
灰-457	5層	甕			口縁部片
灰-458	B-9 5層	甕			口縁部片
灰-459	B-9 5層	甕			口縁部片
灰-460	C-6 5層	甕			口縁部片
灰-461	C-9 5層	甕			口縁部片
灰-462	B+C-6 5層	甕			口縁部片
灰-463	C-6・8 5層	甕			口縁部片
灰-464	B-9 5層	甕			口縁部片
灰-465	5層	甕			口縁部片 6-8と似

番号	地区・層位	形態	口径 cm	高さ cm	備考
灰-466	B ₁ -9 5層	高道具 (坏身)	12.6	3.4	天井部内孔
灰-467	C-6・8 5層	高道具 (坏身)	13.6	3.4	天井部内孔
灰-468	C-9 5層	高道具 (坏身)	10.0	3.7	天井部内孔
灰-469	C-6・8 5層	高道具 (坏身)	12.0	3.3	天井部内孔
灰-470	C-6 5層	高道具 (坏身)	10.0	3.4	天井部内孔
灰-471	C-8 5層	高道具			
灰-472	C-6・8 5層	高道具			
灰-473	C-6 5層	高道具			
灰-474	5層	土鈴			須恵質
灰-475	C-6 5層	蓋形不明			
灰-476	C-9・10 5層	甕	22.2		土鈴質
灰-477	B-7・8 5層	甕	17.4		土鈴質
灰-478	C-6 5層	甕	13.6		土鈴質
灰-479	C-6 6層	坏身	10.4	4.2	胎足付
灰-480	C-6 6層	高杯			脚部 3方透かし
灰-481	C 6 6層	甕			口縁部片
灰-482	C-6 6層	甕			口縁部片
灰-483	C-6 6層	甕			口縁部片
灰-484	C-6 6層	甕	19.2		口縁部
灰-485	B・C-8 其の 他	坏身	10.6	4.1	
灰-486	その他	甕	43.0		口縁部
灰-487	その他	甕			口縁部片
灰-488	その他	甕			口縁部片
灰-489	その他	甕			口縁部片
灰-490	B・C-5 其の 他	甕			口縁部片

灰原調査区（下の南区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	高さ cm	備考
灰-491	A-8 2'層	高台付坏			底面 把子付
灰-492	A-5 2'層	紡輪車			須恵質
灰-493	A-9 6層	坏身	12.0	3.8	

番号	地区・層位	形態	口径 ca	器高 ca	備考
灰-494	A-9 6層	坏	10.8	3.9	底面凹縁糸切り

灰原調査区 (C-1区) 出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 ca	器高 ca	備考
灰-495	1層	坏身	12.8	3.8	
灰-496	1層	坏身	12.4	3.7	
灰-497	1層	坏身	10.0	3.8	
灰-498	1層	器種不明			須虫質

北部調査区 (4号窯跡北側排水溝周辺) 出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 ca	器高 ca	備考
北-001	1層	坏蓋	10.0		
北-002	1層	坏身	8.8	3.1	
北-003	1層	坏身	9.4	3.6	
北-004	1層	坏	10.2		
北-005	1層	短頸壺	6.0		
北-006	1層	壺			口縁布片
北-007	1層	皿	7.4	1.1	土師質土器 底面凹縁糸切り
北-008	1層	皿	7.4	1.3	土師質土器 底面凹縁糸切り
北-009	1層	皿	7.6	1.3	土師質土器 底面凹縁糸切り
北-010	1層	皿	7.4	1.6	土師質土器 底面凹縁糸切り
北-011	1・2層	輪状つまみ付蓋	14.6	3.6	かえり
北-012	1・2層	輪状つまみ付蓋	13.6	3.1	かえり
北-013	1・2層	壺	19.6		
北-014	2層	坏蓋	12.8		
北-015	2層	坏身	13.6		
北-016	2層	坏	12.2	3.6	
北-017	2層	坏	10.8	3.5	
北-018	2層	掬子珠つまみ付蓋	10.2	2.7	かえり
北-019	2層	輪状つまみ付蓋	12.8	2.4	かえり
北-020	2層	蓋	13.8		かえり
北-021	2層	蓋	19.0		かえり

番号	地区・層位	形態	口径 ca	器高 ca	備考
北-022	3層	坏蓋	9.1	3.5	
北-023	3層	坏蓋	10.8	3.5	
北-024	3層	坏蓋	11.2	3.8	
北-025	3層	坏身	7.6	3.0	
北-026	3層	坏身	8.8	3.2	
北-027	3層	坏身	9.6		
北-028	3層	坏身	8.8	3.2	
北-029	3層	坏身	10.7	3.9	
北-030	3層	坏身	10.8		
北-031	3層	輪状つまみ付蓋	14.2	3.7	かえり
北-032	3層	蓋	15.8		かえり
北-033	3層	輪状つまみ付蓋	12.0	1.7	かえり
北-034	3層	蓋	22.0		
北-035	3層	高台付坏	16.8	5.5	カキ目
北-036	3層	高台付坏	16.4	5.5	
北-037	3層	高台付坏	12.6	4.7	
北-038	3層	高台付坏			底面
北-039	3層	坏	9.2	3.7	
北-040	3層	長頸壺	8.0		口縁部
北-041	3層	壺			底面
北-042	3層	壺			胴部 底面
北-043	3層	高台付長頸壺			
北-044	3層	壺	16.0		上縁質
北-045	3層	土製支脚			須虫質
北-046	3層	器種不明			土師質
北-047	3・4層	坏蓋	9.8	2.6	
北-048	3・4層	坏身	8.8	3.1	
北-049	3・4層	坏身	11.2	3.8	
北-050	3・4層	掬子珠つまみ付蓋	10.6	2.1	かえり
北-051	3・4層	無蓋高台	14.6	9.9	透かし

番 号	地区・階位	形 態	口徑 cm	器高 cm	備 考
北-052	3・4層	無蓋両环	17.2	14.0	2段2方通かし
北-053	3・4層	無蓋両环	15.1	9.5	2方通かし 施記号
北-054	3・4層	加蓋両环	8.0	6.6	
北-055	3・4層	蓋	16.0	20.3	
北-056	3・4層	横板	19.2		
北-057	3・4層	横板	11.6		竹管文
北-058	3・4層	蓋			銅板片
北-059	4層	环蓋	14.2	4.0	
北-060	4層	环蓋	8.8	2.8	
北-061	4層	环蓋	10.1	3.6	
北-062	4層	环蓋	10.2	3.6	
北-063	4層	环蓋	10.4	3.1	
北-064	4層	环蓋	9.6	3.6	
北-065	4層	环蓋	10.4	3.8	
北-066	4層	环蓋	11.4	4.2	
北-067	4層	环蓋	10.2	4.0	
北-068	4層	环蓋	10.3	4.2	
北-069	4層	环身	10.8	5.1	
北-070	4層	环身	9.4	3.1	
北-071	4層	环身	9.4	3.4	
北-072	4層	环身	10.4	4.0	
北-073	4層	环身	8.4	3.0	
北-074	4層	环身	9.2	3.5	施記号
北-075	4層	环身	11.7	3.6	
北-076	4層	环身	9.4	3.4	施記号
北-077	4層	环身	9.8	3.6	
北-078	4層	环身	8.8		
北-079	4層	环身	9.2	3.2	
北-080	4層	环身	7.7	3.6	
北-081	4層	环身	8.8	4.1	施記号

番 号	地区・階位	形 態	口徑 cm	器高 cm	備 考
北-082	4層	环身	7.4	3.1	
北-083	4層	环身	9.2	2.3	
北-084	4層	环身	12.4		
北-085	4層	輪状つまみ付蓋	12.4	2.4	かえり 竹管文
北-086	4層	輪状つまみ付蓋	12.2	2.7	かえり
北-087	4層	輪状つまみ付蓋	10.0	2.3	
北-088	4層	輪状つまみ付蓋	14.8	2.4	施記号
北-089	4層	蓋	20.0		
北-090	4層	蓋	21.2		
北-091	4層	蓋	13.8		かえり
北-092	4層	蓋取つまみ付蓋	8.8	2.6	かえり
北-093	4層	高台付环	18.0	6.7	
北-094	4層	高台付环	16.5	4.4	
北-095	4層	高台付环	15.6	5.7	蓋取糸切り
北-096	4層	高台付环	15.0	5.6	
北-097	4層	高台付环	13.6	5.0	蓋取糸切り
北-098	4層	高台付环	13.1	4.7	
北-099	4層	高台付环	13.8	4.1	
北-100	4層	环	12.8		
北-101	4層	环	12.0		
北-102	4層	环	8.4	3.0	
北-103	4層	环	12.6	3.7	
北-104	4層	环	12.2	3.8	蓋取糸切り
北-105	4層	無蓋両环	15.8	12.5	2段2方通かし
北-106	4層	無蓋両环	16.6	12.4	2段2方通かし
北-107	4層	無蓋両环	14.2	14.0	2段2方通かし
北-108	4層	無蓋両环	16.8	11.1	2方通かし 施記号
北-109	4層	無蓋両环	16.2	10.9	2方通かし
北-110	4層	無蓋両环	15.6	9.8	2方通かし 施記号
北-111	4層	無蓋両环	16.4	11.7	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-112	4層	無蓋高坏	18.2	11.5	
北-113	4層	無蓋高坏	18.2	10.2	
北-114	4層	無蓋高坏	18.2		坏部 2方透かし
北-115	4層	盖	10.0		坏部部
北-116	4層	短颈壶	6.6	3.5	
北-117	4層	短颈壶	6.2	3.5	
北-118	4層	短颈壶	7.2	6.7	
北-119	4層	短颈壶	8.6		
北-120	4層	长颈壶		19.1	方斗目
北-121	4層	坐			胴部 施記号
北-122	4層	壶			胴部 施記号 方斗目
北-123	4層	长颈壶		17.7	施記号
北-124	4層	壶			胴部 施記号 方斗目
北-125	4層	长颈壶			胴部
北-126	4層	盖			胴部
北-127	4層	壶			胴部
北-128	4層	壶	15.2		
北-129	4層	壶			胴部
北-130	4層	壶	23.4		土師器
北-131	4層	把手			土師器
北-132	4層	把手			土師器
北-133	4層	土製支脚			土師器
北-134	4層	土製支脚			土師器
北-135	4層	土製支脚			土師器
北-136	4層	土製支脚			土師器
北-137	6層	坏蓋	13.0	3.8	
北-138	6層	坏身	12.0	2.4	
北-139	6層	盖			土師器
北-140	6層	把手			土師器
北-141	1・3層	前口釜	10.0		

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-142	3・6層	坏身	10.2	3.1	
北-143	4・6層	輪状つまみ付蓋	16.2	4.0	かえり
北-144	3・4・6層	横板	14.8		施記号

北部調査区（4号跡路埋道部路設内）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-145	路設内一部	坏蓋	12.0		
北-146	路設内一部	坏蓋	13.6		
北-147	路設内一部	坏身	10.4		
北-148	路設内一部	坏身	11.2	3.4	
北-149	路設内一部	坏身	10.0	3.6	
北-150	路設内一部	坏身	9.4		
北-151	路設内一部	坏身	12.2	4.1	
北-152	路設内一部	坏身	12.0		
北-153	路設内一部	盖			

北部調査区（ア-2・3区）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-154	灰土	陶棺			
北-155	3層	坏蓋	12.8		
北-156	3層	坏蓋	12.6	3.7	
北-157	3層	坏蓋	13.8	4.3	
北-158	3層	坏身	10.8		
北-159	3層	坏身	9.1	3.5	
北-160	3層	坏身	12.0	3.7	
北-161	3層	坏身	11.4		
北-162	3層	輪状つまみ付蓋	12.6	3.4	かえり
北-163	3層	輪状つまみ付蓋	15.0	3.2	かえり
北-164	3層	蓋	11.0		かえり
北-165	3層	輪状つまみ付蓋	15.2	1.4	
北-166	3層	蓋	14.8		
北-167	3層	蓋	15.8		

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-168	3層	蓋	16.8		
北-169	3層	高台付環	13.4	4.9	底部切込みあり
北-170	3層	高台付環	13.8	5.4	底部切込みあり
北-171	3層	高台付環	15.8	4.0	底部切込みあり
北-172	3層	輪	13.6	6.1	重ね合わせ
北-173	3層	短頸蓋	7.0	6.2	底部切込みあり
北-174	3層	短頸蓋	6.4		
北-175	3層	短頸蓋	8.0		
北-176	3層	短頸蓋	11.4		
北-177	3層	短頸蓋	11.0		
北-178	3層	流道跡			新層
北-179	3層	環	21.8		土師器
北-180	3層	輪	19.0		土師器
北-181	3層	土製火網			土師質
北-182	3層	環			土師質
北-183	3層	環			土師質
北-184	3層	古銭			寛永通寶
北-185	3層	石鏡			黒麻石
北-186	3・4層	短頸蓋	10.2		
北-187	4層	環身	11.6		
北-188	4層	有蓋高環	10.2		坏部
北-189	4層	環			坏部 李氏文
北-190	4層	蓋			陶片
北-191	4層	環	30.0		口縁部
北-192	4層	環			土師質

北部調査区(エ-3・4区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-193	SK-04	坏蓋	7.8	3.6	
北-194	SK-04	坏蓋	9.6	3.6	
北-195	SK-04	坏身	10.8	2.6	

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-196	SK-04	高環			脚部 2段3方通かし
北-197	SK-04	環	17.4	4.6	
北-198	SK-04	短頸蓋	4.4	3.9	
北-199	SK-04	環	16.2	30.3	
北-200	SK-04	環	22.0		土師器
北-201	SK-04周辺	環身	8.0	3.0	
北-202	SK-04周辺	環	13.2		かえり カキ目
北-203	SK-04周辺	輪	10.8		
北-204	SK-04周辺	有蓋高環	9.2		坏部
北-205	SK-04周辺	有蓋高環	9.2	8.5	2方通かし
北-206	SK-04周辺	短頸蓋	7.2	9.2	
北-207	SK-04周辺	環	20.8		
北-208	SK-04周辺	環	24.2		土師器
北-209	SK-04周辺	環	21.6		土師器
北-210	SK-04周辺	輪	13.2		

北部調査区(エ-5区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-211	表土	土馬			須磨質
北-212	2層	環身	8.2	2.9	
北-213	3層	坏蓋	9.0	3.3	

北部調査区(ア-イ-6区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-214	ア-6 表土	坏蓋	10.6	3.4	
北-215	ア-6 2層	坏蓋	12.6	3.8	
北-216	イ-6 3層	蓋	15.4		
北-217	イ-6 換土	短頸蓋	6.0		
北-218	ア-6 表土	環	10.8		口縁部
北-219	ア-6 表土	高台付蓋			底部
北-220	ア-6 3層	環	31.6		土師器

北部調査区(ウ-1・2区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-221	ウ-1 表土	坏身	8.0	2.8	
北-222	ウ-1 2層	蓋	9.8	2.5	かえり
北-223	ウ-1 2層	高台付坏	12.6	4.3	
北-224	ウ-1 2層	高台付坏			底部未切り
北-225	ウ-1 2層	高台付坏			
北-226	ウ-1 2層	蓋			胴部
北-227	ウ-2 2層	高台付蓋			底部
北-228	ウ-1 2層	蓋	22.0		土師質
北-229	ウ-1 2層	磨製石片			蛤刃形

北部調査区(その他)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
北-230	ア-2区4層・ イ-3区3層	坏身	10.4		
北-231	ア-2区4層・ ウ-5区4層	蓋	19.0		
北-232	ア-3区2層・ ウ-3区表土	漆器具			

東部調査区(b区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-001	2層	高台付坏	14.8	4.4	底部停止未切り
東-002	2層	高台付坏			施記号

東部調査区(c区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-003	2層	坏	8.8		
東-004	2層	坏	20.0		カキ目
東-005	2層	輪状つまみ付蓋	18.2	3.3	かえり
東-006	2層	蓋	17.9		口縁部
東-007	2層	甕			土師質
東-008	3層	輪状つまみ付蓋	20.2	4.6	かえり
東-009	3層	高台付坏	10.3	3.9	底部停止未切り
東-010	3層	高台付坏	13.7	4.8	底部停止未切り
東-011	3層	高台付坏	14.8	4.8	
東-012	3層	高台付坏			底部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-013	3層	高台付甕			
東-014	3層	把手			須恵質
東-015	3層	甕			土師質
東-016	3層	甕			土師質
東-017	3層	陶管			

東部調査区(d区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-018	表土	蓋			口縁部片
東-019	表土	甕			口縁部片
東-020	2層	蓋	18.4		かえり
東-021	2層	無頸蓋	9.6		
東-022	2層	蓋			頸部片
東-023	2層	蓋			頸部片
東-024	3層	坏身	9.0	3.8	
東-025	3層	皿	11.8	1.4	底部停止未切り
東-026	3層	坏	11.2	5.4	
東-027	3層	坏	10.2	4.3	
東-028	3層	輪状つまみ付蓋	14.4	2.4	
東-029	3層	輪状つまみ付蓋	15.2	1.3	
東-030	3層	輪状つまみ付蓋	14.8	3.6	
東-031	3層	輪状つまみ付蓋	15.0	3.3	
東-032	3層	蓋	15.6		施記号
東-033	3層	蓋	14.2		
東-034	3層	輪状つまみ付蓋			
東-035	3層	輪状つまみ付蓋	14.2	3.5	かえり
東-036	3層	高台付坏	12.8	5.7	底部停止未切り 施記号
東-037	3層	高台付坏	12.8	5.0	
東-038	3層	高台付坏	16.0	4.2	底部停止未切り
東-039	3層	無蓋高坏	9.8		坏部
東-040	3層	高坏			2方透かし

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-041	3層	壺	16.0		
東-042	3層	壺	24.0		土師器
東-043	3層	土師			須臾寅

東部調査区(○区)出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-044	2号段土層	輪状つまみ付蓋	14.7	2.8	
東-045	2号段土層	小壺	6.6	5.1	
東-046	2層	坏身	10.2	3.6	
東-047	2層	輪状つまみ付蓋	14.6	3.1	
東-048	2層	蓋	13.0		
東-049	2層	輪状つまみ付蓋	17.2	3.1	かえり
東-050	2層	瓶蓋つまみ付蓋	11.8	2.5	かえり
東-051	2層	蓋	15.0		かえり
東-052	2層	坏	8.6	3.2	
東-053	2層	高台付坏	9.4	3.6	此層遺物あり
東-054	2層	坏			
東-055	2層	無蓋高坏	9.8		坏部
東-056	2層	短頸壺	9.0	4.8	陶記号
東-057	2層	壺			口縁部片
東-058	2層	壺			口縁部片
東-059	2層	壺			口縁部片
東-060	2層	壺			口縁部片
東-061	2層	壺			口縁部片
東-062	2層	壺			口縁部片
東-063	3層	坏蓋	14.4		
東-064	3層	坏蓋	13.2		
東-065	3層	坏蓋	10.6	3.2	陶記号
東-066	3層	坏身	10.8	4.1	
東-067	3層	坏身	10.0	3.3	
東-068	3層	輪状つまみ付蓋	13.4	3.3	かえり 陶記号

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-069	3層	輪状つまみ付蓋	12.4	3.3	かえり
東-070	3層	輪状つまみ付蓋	14.8	3.9	かえり 陶記号
東-071	3層	輪状つまみ付蓋	16.0	2.6	かえり
東-072	3層	蓋	16.6		
東-073	3層	輪状つまみ付蓋	16.8	2.9	
東-074	3層	蓋	22.4		
東-075	3層	輪状つまみ付蓋	13.8	2.7	かえり
東-076	3層	輪状つまみ付蓋	16.8	2.8	かえり
東-077	3層	瓶蓋つまみ付蓋	12.0	3.1	かえり
東-078	3層	蓋	11.2	2.6	かえり
東-079	3層	坏	10.0	3.4	
東-080	3層	坏	11.2	4.0	
東-081	3層	坏	12.8	4.1	
東-082	3層	坏	16.6		
東-083	3層	坏	13.0	4.3	
東-084	3層	坏	23.4		カキ目
東-085	3層	脚鉢	16.0		
東-086	3層	高台付坏			
東-087	3層	高台付坏	12.4	4.1	陶記号
東-088	3層	高台付坏	12.0	4.6	
東-089	3層	高台付坏	15.0	5.0	
東-090	3層	高台付坏	16.0	5.2	
東-091	3層	高台付坏	16.0	4.6	
東-092	3層	高台付坏	15.6	4.1	
東-093	3層	高台付坏	15.6		
東-094	3層	高台付坏	14.8	4.8	
東-095	3層	高台付坏			
東-096	3層	高台付坏	10.4	4.7	
東-097	3層	高坏			坏部 2方透かし
東-098	3層	無蓋高坏	19.6		坏部

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-099	3層	短頸壺	11.8		
東-100	3層	小壺			磨削号
東-101	3層	広口壺	10.2	10.6	
東-102	3層	壺			底面穿孔あり
東-103	3層	高台付壺			
東-104	3層	長頸壺	5.8		
東-105	3層	壺	17.1		
東-106	3層	壺			口縁部片
東-107	3層	壺			口縁部片
東-108	3層	陶器			
東-109	3層	甕			土師質
東-110	3層	甕	18.0		土師器
東-111	3層	土製支脚			土師質
東-112	3層	土製支脚			土師質
東-113	4層	坏身	7.6	2.6	
東-114	4層	坏身	10.8	3.4	
東-115	4層	容態不明	22.5		
東-116	2・3層	坏身	9.6		磨削号
東-117	2・3層	壺	20.6		口縁部
東-118	2・5層	甕	26.4		須恵質

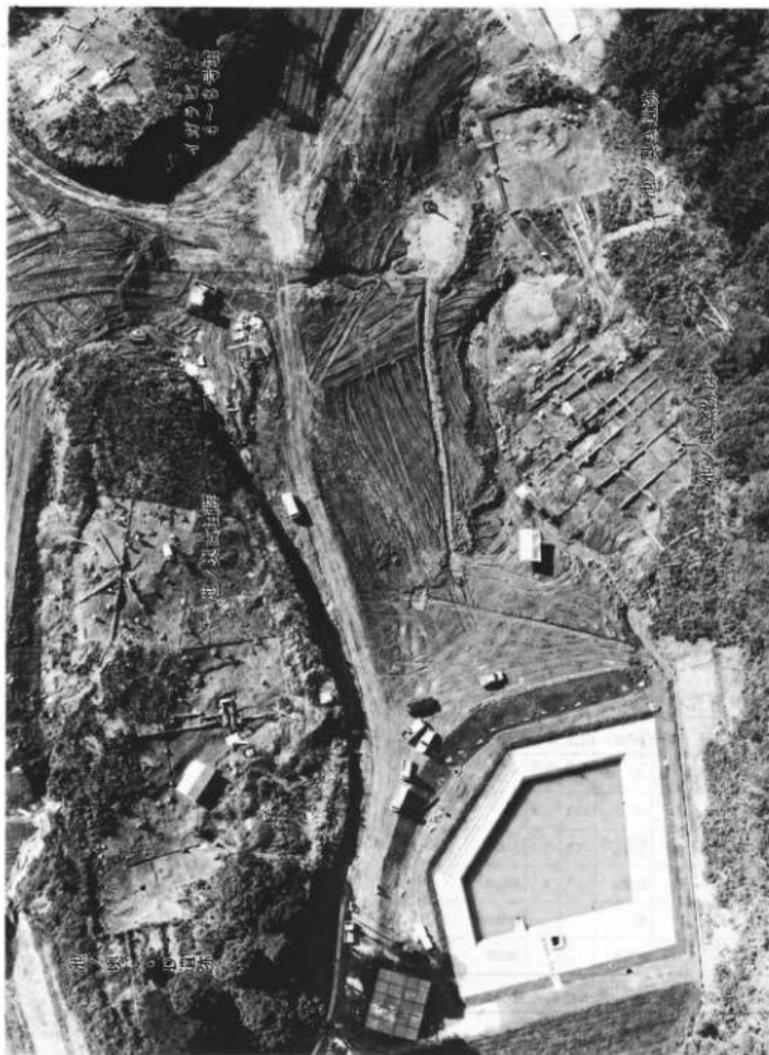
東部調査区（北側斜面）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-119	表土	坏	13.2	4.8	
東-120	表土	輪状つまみ付蓋	17.8	2.6	かえり
東-121	表土	短頸壺	7.8	6.5	磨削号
東-122	表土	壺			口縁部片
東-123	表土	紡錘車			須恵質

東部調査区（その他）出土遺物一覧

番号	地区・層位	形態	口径 cm	器高 cm	備考
東-124	a区2層・d区3層	甕	24.8		口縁部
東-125	c区2層・b区A B-3（下の北）区2層	壺			口縁部片

試驗區試驗地帶之復原工程



発掘調査前全景



発掘調査前全景 (手前の段
右より1・2・3号土壇
奥の段右より4・5号窯跡)



旧水田平坦面東側A-1区





旧水田平坦面東側C-1区



現地指導会風景



4号窯跡調査前
窯体規模確認状況

4号窯跡調査
窯体規模確認状況



4号窯跡天井部検出状況





4号窯跡天井部削平状況



4号窯跡床面遺物検出状況

4号窯跡焚き口から燃焼部
にかけての遺物・土層堆積
状況



4号窯跡床面遺物検出状況





4号窯跡床面の遺物(拡大)



4号窯跡
煙道部陥没と周囲の遺物

4号窯跡窯体床面に
施された補修の跡



4号窯跡床面検出状況

